

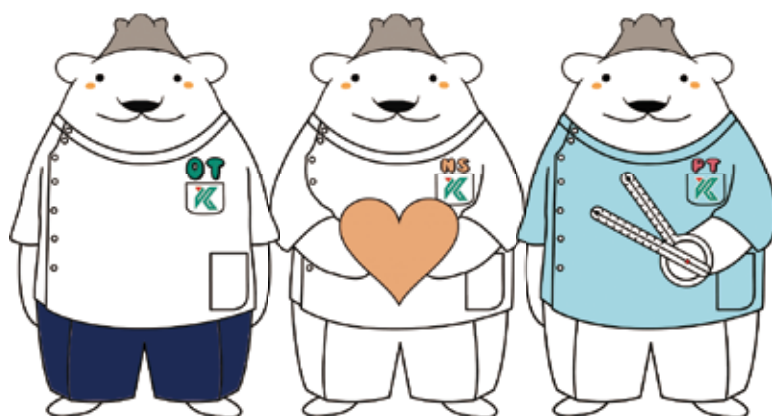
20th
Anniversary
記念誌 2018

鹿児島大学医学部保健学科

School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University



鹿児島大学医学部
保健学科設置20周年記念誌



THE 20TH ANNIVERSARY
KAGOSHIMA UNIVERSITY
SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

2018









鹿児島大学医学部保健学科創立20周年を迎えるにあたって、これまで保健学科に寄せられたご厚意に深く御礼申し上げます。鹿児島大学医学部保健学科の歴史を紐解いてみますと、前身となる鹿児島大学医療技術短期大学部が1986年（昭和61年）に開学されました。医療技術短期大学部は、現在と同じく看護学、理学療法学、作業療法学の3学科からなっていました。その後、1998年には医療技術短期大学部の入学が停止され、2002年に廃止となり、それにともない1998年（平成10年）10月に鹿児島大学医学部保健学科が設立され、翌年の4月より入学が開始されました。3年制の短大から4年制の大学への移行にもなう組織の改編、拡充には先輩先生方が多大な努力を払われたと伺っています。保健学科の礎を築かれた先生方には敬意を表し、深く感謝いたします。現在、1学年が看護学専攻90名（3年次編入生10名を含む）、理学療法学専攻25名（3年次編入生5名を含む）、作業学専攻25名（3年次編入生5名を含む）から構成されており、卒業生は鹿児島県のみならず、全国の医療機関で活躍しています。

鹿児島大学医学部保健学科長

米 和徳

保健学科設置20周年を

迎えるにあたって

2003年（平成15年）4月には保健学研究科が設立されました。今年には保健学研究科創立15周年でもあります。その後、大学院の充実を目指し、いくつかの変更が加えられ、現在では、博士前期課程は看護学領域14名、保健学領域8名で構成されています。看護学領域には、助産学コース（定員7名）、放射線看護専門コース（定員2名）、島嶼・地域看護学コース（定員2名）が設けられています。看護学領域では、主に助産師の資格獲得や過疎地の在宅医療や放射線医療など特異的な知識・技術の習得を、保健学領域では、各医療機関のリハビリテーション部門の中核的人材の育成に努めています。博士後期課程は、保健看護学、神経運動障害基礎学、臨床精神神経障害学の3分野から構成され定員は1学年6名で、主に研究者の育成を図っています。

これまで、多くの皆様のご厚情により鹿児島大学医学部保健学科及び保健学研究科が育てられてきました。残念ながら昨今の大学運営交付金の削減にともない、教員数は2022年には47名まで削減される予定です。定員の削減にともない、1名当たりの仕事量は年々増加しています。しかしながら、これからも教職員一丸となって、鹿児島大学保健学科及び保健学研究科の発展に取り組んでいく所存です。これからも、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



CONTENTS



ごあいさつ

鹿児島大学医学部保健学科長 米 和徳	4
--------------------	---

祝辞 保健学科設置20周年に向けて

鹿児島大学医学部長 河野 嘉文	8
鹿児島県医師会会長 池田 琢哉	9
鹿児島県看護協会会長 田畑 千穂子	10
鹿児島県理学療法士協会会長 梅本 昭英	11
鹿児島県作業療法士協会会長 竹田 寛	12
鹿児島大学看護同窓会 つめ草会 会長 宇治野 由美子	13
鹿児島大学保健師同窓会 しおさい会 会長 徳永 龍子	14
鹿児島大学助産師同窓会 会長 片平 久美子	15
鹿児島大学医学部保健学科同窓会 理学療法学専攻部会 会長 宮崎 雅司	16
鹿児島大学医学部保健学科同窓会 作業療法学専攻部会 会長 中村 侑司	17

歴代学科長

鹿児島大学医学部 初代保健学科長 銚之原 昌	18
鹿児島大学医学部 2代目保健学科長 森本 典夫	20
鹿児島大学医学部 4代目保健学科長 濱田 博文	21

退職教員および実習支援者

鹿児島大学医療技術短期大学部元部長 鹿島 友義	22
鹿児島大学医療技術短期大学部元教授 柴田 恭亮	23
鹿児島大学医療技術短期大学部元教授 山元 郁子	24
鹿児島大学医学部元教授 藤野 敏則	25
鹿児島大学医学部元教授 嶋田 紀膺子	26
鹿児島大学医学部元教授 沖 壽子	28
鹿児島大学医学部元教授 東 サトエ	29
鹿児島大学医学部元教授 前田 哲男	30
鹿児島大学医学部元准教授 尾上 佳代子	31
鹿児島大学医学部元講師 井尻 幸成	32
鹿児島大学医学部元助手 鳥田 美紀代	33
鹿児島大学医学部元助教 増満 誠	34
鹿児島県精神保健福祉センター所長 竹之内 薫	35
加世田病院リハビリテーション部 部長 堀木 周作	36

歴

保健学科設置20周年記念祝賀会	38
沿革	43
組織・機構	43
教員の勤務年表（平成11年～平成30年）.....	44
歴代保健学科長・名誉教授	46

専

専攻の紹介	48
科学研究費補助金採択一覧	60

教

教育目標とディプロマ・ポリシー	62
授業科目及び単位数	64
実習施設一覧	67
入学定員など	69
志願者と入学者	70
国家試験合格率	71
卒業生の進路状況	72

交

国際交流	74
------------	----

想

卒業生・在校生の思い	82
------------------	----

支

広告	152
----------	-----

編集後記	177
------------	-----



鹿児島大学医学部長 何野 嘉文

保健学科設置 20周年を祝して

鹿児島大学医学部保健学科の設置20周年を迎え、関係の皆様のごこれまでのご努力に敬意を払うとともに、この期間に遂げた組織の発展に慶祝の意を表します。

鹿児島県における医療者教育の歴史的な流れを基盤とし、1986年（昭和61年）に、看護、理学、作業の3分野がそろった鹿児島大学医療技術短期大学部が開学しました。当時は鹿児島大学とは別に独立した短期大学部でしたが、10周年を迎える頃には入学式・卒業式も鹿児島大学と合同で実施していたそうですので、鹿児島大学保健学科への発展的移行が当初から準備されていたことがうかがえます。その後、文部省高等教育の方針に従って4年制への組織改変を進め、鹿児島大学医学部保健学科として内容も組織も完成したのが1998年（平成10年）10月で、翌年4月に第1期生が入学しています。

私が医学科の学生として在籍しておりました昭和50年代前半でも、前身の附属看護学校の学生と一緒に亀ヶ原祭（現在の桜ヶ丘祭）を開催しておりましたので、個人的な感覚としては保健学科が設置されてまだ20年だったかと短く感じられます。しかしながら、医療技術系最高教育機関設置へ道のりは厳しいものであったと想像いたしますし、設置後の運営にも関係者の甚大な労力が費やされていると思います。現医学部長として深く感謝いたします。

保健学科が第1期生を迎えた1999年（平成11年）4月には、65名の教員で教育を開始しておりますので、国立大学法人化後の教員定員削減の嵐の中で並々ならぬ努力と工夫を続けてこられたと思います。歴代の保健学科長と各専攻代表をはじめ、教職員のみなさまのご指導の下に、数多くの卒業生を「明日を担う医療人」として世に送り出し、鹿児島県のみならず我が国の医療界で活躍する人材を排出していることは、誠に慶賀するべきことだと思います。

社会の変化は激しく、医療の世界で求められる知識、技能、そして人材像も変わっていくものだと思いますが、「ケアのタペストリーを織りあげていく」ことができるという医療人として求められる資質基盤は変わりません。チーム医療を実践すべき医療人の育成は、医学部全体の使命であり、それを達成すべきカリキュラムが実践されています。

最初の10年間で保健学科としての基盤を作り、次の10年間でそれを充実・発展させることができました。人口減少や予算削減など厳しい時代が予測されますが、これからも医学科とともに創意工夫で、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、そして国際的視野に立つ、医学・医療を担う人材の育成に邁進することを期待いたします。



鹿児島県医師会会長 池田 琢哉

保健学科設置20周年に寄せて

鹿児島大学医学部保健学科の創立20周年を心よりお祝いするとともに、これまで学科の発展、充実のために奮闘し努力されてきた、多くの関係者の方々に深甚なる敬意を表します。保健学科は、これからの少子・高齢社会の医療、介護にとって欠くことのできない人材を養成する学科であり、健康長寿社会を実現するために、期待が寄せられている学科でもあります。

保健学科の前身は「鹿児島大学医療技術短期大学部」ですが、3年制の短大から4年制に移行する際には多くの難題があり、なかでも最大は教官の充実にあったと伺いました。当時移行に携わった銚之原昌先生（元保健学科学科長）は「鹿児島大学医学部七十年史」への寄稿で、次のように記しておられます。

「設置委員会のメンバーは、組織構成、カリキュラムの検討はもちろん、人事の充実のための現教官の業績の向上増進、他大学からの新教官の獲得に奔走した。看護系の教官が不足していたので、情報が入ると東北や関東、関西、九州各地の大学を訪問し、直接交渉した」。そして文部省への書類提出の際には、「非常勤講師まで入れて、70名以上の教官の履歴書と業績を一部ずつ印刷した。それにページをつけて30部ずつコピーすることにした。全教官と職員が約1週間徹夜で作業してくれた。出来上がった時には歓喜し、万歳して皆に見送られながら出発（文部省へ）した」とあります。私も何度か東京への出張時に銚之原先生と飛行場でお会いしたことがあります。先生の「今から文部省に交渉に行くんですよ」という言葉が、今となっては懐かしく思い出されます。

銚之原先生は「この時の集中力と団結力は奇跡的で言葉に尽くせない」とまで書いておられますが、大学関係者の保健学科誕生への、凄まじいばかりの情熱と志が伝わってきます。

平成10年10月1日、新制保健学科がスタートしま

した。まだ学生はいなかったものの、医学部が医学科と保健学科の2学科となったのは、まさに画期的なことだったのです。

ところで、我々が携わっている地域医療は、今厳しい変革を迫られています。超高齢化と少子化、それに人口減も加わるなかで、「これからどんな医療・介護が求められるのか」を検討し、誰でもが安心して暮らせるための、地域包括ケアネットワークの構築や、地域の実情に応じた切れ目のない医療提供体制を作り上げなければなりません。なかでも医療スタッフの確保は喫緊の課題であり、我々医師会は、県、大学と連携して息の長い取り組みを続けています。

人材確保対策として、鹿児島県医師会は3年前に「はやぶさプラン」を創設しました。「地域医療を守る人材を養成し、確保するため」という主旨に、県民の方々の共感もいただき、浄財による基金で、医師をはじめ看護学生、助産学生を支援しています。

毎年この方たちと懇親会を開いて交流を深めていますが、子どもを抱えて頑張る看護学生や、より高度な知識や技術を身につけたいと学ぶ保健学科の助産学生など、生活環境は違うものの、共通していたのは地域医療への強い情熱でした。前向きに地域医療と取り組むみなさんの姿勢に感激し、逆に元気づけられました。

保健学科は、常に地域と共にある医療をめざし、離島医療に関する授業と実習を、入学時から卒業まで継続し、また3つの専攻が合同でチーム医療に関する講義、実習を、1年時から4年時まで実施していると聞きました。多くのすばらしい人材がこの中から育ち、地域医療の第一線で活躍されています。自主、自立と進取の精神を尊重する保健学科の研究、教育、実践が、次なる20年に向けて力強く動き出すことを願い、お祝いの一文とします。



鹿児島県看護協会会長 田畑 千穂子

保健学科20周年記念誌に寄せて —次世代の看護を担う看護職育成への期待—

鹿児島大学医学部保健学科設置20周年記念、ならびに、「20周年記念誌」の発刊を心よりお慶び申し上げます。

鹿児島大学医学部保健学科は、平成10年10月に設置されてからこれまで、鹿児島県の看護教育の発展とともに、地域に根差した人材育成を通じ看護と看護職の質向上に寄与され、県民の皆様の健康と福祉の維持・増進にも大きく貢献されてこられたことに深く敬意を表します。

鹿児島県の看護教育は、鹿児島大学医学部保健学科の発展とともにありました。「鹿児島県看護協会史Ⅱ」を開きますと、平成10年は、橋本綾子氏が会長に就任され、新たな体制で動き始めた年でもありました。県内における看護職の就業者数は23,627名、会員数7,023名（入会率30%）でした。年間29コースの研修計画があり、2000年の介護保険開始に向けて「介護保険に関する看護師の役割」が企画され、「介護支援専門委員会検討委員会」も設置されました。そして、保健学科の先生方を講師にお迎えし、様々な研修事業が充実し、協会活動も発展していきました。中でも、平成10年（第29回日本看護学会看護総合）、平成13年（第32回日本看護学会小児看護）、平成25年（第44回日本看護学会老年看護）と日本看護学会を本県で開催できましたことは保健学科の先生方のご協力があったからこそと考えます。そして、平成31年度の第50回日本看護学会慢性期看護の開催に向けても、多くのご支援とご協力を頂き、準備を進めております。

さて、少子高齢化が一層進む中、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に向け、保健・医療・福祉の提供体制が変革を遂げようとしております。健康・医療と生活の両方の視点をもった看護職には、多職種と連携して、あらゆる場での活躍と、患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められております。これからの時代に活躍できる看護人材を育成するには、看護基礎教育が重要で、国の政策として動こうとしております。貴大学は、常に社会の医療・看護ニーズに対応できる質の高い保健師、助産師、看護師の育成、そして看護学の研究者、教育者を確実かつ効果的に養成することを目標とされてきました。中でも、文部科学省平成26年度「課題解決型高度人材養成プログラム採択事業」である「地域での暮らしを最期まで支える人材養成—離島・へき地をフィールドとした教育プログラム—」は、看護白書でも紹介され、全国から関心が寄せられております。今後、プログラム修了者の活躍の場は施設や地域を超え、離島やへき地の看護の現場を支えていく人財となっていくものと考えます。

最後に、この激動の時を貴大学と共に歩みながら、専門職業団体として、人々の保健・医療・福祉のあらゆる場で求められる「看護」への期待に応えていきたいと思っております。そして、次世代の看護を担う看護職の育成に、鹿児島大学医学部保健学科の果たす役割は増々大きく、一層の発展を遂げられますことを心より祈念し、お祝いのご挨拶といたします。



鹿児島県理学療法士協会会長 梅本 昭英

鹿児島大学医学部保健学科 20周年記念に寄せて

明治2年に島津藩医学校として産声をあげた鹿児島大学医学部において、平成10年に保健学科が設置されてから、平成30年創立20周年を迎えられましたこと、鹿児島県理学療法士協会会員を代表し心からお祝い申し上げます。

鹿児島県理学療法士協会は昭和40年の理学療法士法・作業療法士法の施行と共にはじまりました。会員2名で発足しましたが、数の面でも質の面でも充実するには厳しい状況が続いたようです。

私が鹿児島に帰ってきた昭和57年でも会員数約20名の状況でした。

昭和60年に医療技術短期大学部が設置され、公的な理学療法士教育機関が鹿児島に産声を上げました。私共鹿児島県理学療法士協会の歩みは、まさに鹿児島大学医学部保健学科と共にあると言うことが出来るのではないかと考えております。

当会は平成11年に社団法人を取得し、平成22年には公益社団法人として公益団体を認められました。

平成12年には日本理学療法士学会を平成24年には日本理学療法士協会全国研修会を開催し2300余名の全国の理学療法士に参加いただき、盛会裏に開催することが出来ました。

これらの活動を行うに当たって、鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻の先生方には、大きな役割を果たしていただきました。

学術的な活動の指導・助言はもとより、研修会等の運営、学会誘致・準備・運営にと理学療法学専攻の先生方がいらっしゃらなかったらこれらの事業も成功することは出来なかったと言っても過言ではないかもしれません。

この場をお借りして心から感謝申し上げます。

さて、昨今のリハビリテーション、理学療法を取り巻く情勢は大きく変わってきました。

これまでの理学療法士養成にあたって「数」から、「質」への転換が図られました。

「エビデンス」を求められ、「効果」と「効率」を追及されるようになってきました。

当然の流れであることですが、これまでの「リハビリ」を経験したものの一人として、大転換ともいべき時なのでしょう。

このような時代に当たって、「教育」「研究」「社会貢献」という役割をもつ大学教育におかれては、ますますその牽引者としての役割を担っていただきたいと思います。

日本理学療法士協会においても生涯学習システムの再構築を計画されています。新人教育から自立した臨床レベルの獲得、アドバンスレベル、シニアレベルとステップアップしていく制度構築が検討され、シニアレベルにおいては更新制も視野に検討されるようです。

このようなシステム変更に当たっては、理学療法士協会と大学教育とが強力なタッグを組んで推進していく体制づくりが必要になるかと思えます。

今後とも理学療法士の質の担保と成長、公益的な諸活動へのサポートを含めて協力関係を維持発展させていただけれることを強く希望するものです。



鹿児島県作業療法士協会会長 竹田 寛

鹿児島大学医学部保健学科設置 20周年を祝して

鹿児島大学医学部保健学科が設置20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また、鹿児島県の内外を問わず多くの有能な人材を世に輩出してこられたことに敬意を表します。更に、本年20周年の節目となり、これまでの歴史を振り返ると、貴学科の在り方やその意義に思いを馳せるなかで、絶大な歓喜を感じ、この節目を皆様と共に盛大に喜びたいと思います。

1984年4月、私が鹿児島県に作業療法士として着任したころ、鹿児島大学に医療技術短期大学部が設置され作業療法学科も出来るという話をお聞きし、養成教育が充実することを非常に嬉しく思いました。しかし、同時に4年制大学であればと思ったのを覚えています。その頃の作業療法士の養成教育は、3年制の専修学校で行われており、4年制大学での教育が望まれ始めた頃でもありました。私は、学生時代に自治会を代表する立場にあり、先輩からの引継ぎで、理由をよく理解しないままに、4年制教育の要望書を学校側に出したことがあります。後にお聞きしたのですが、医療技術短期大学部が設置された時には、既に4年制設置に向けて準備が進められており、短期大学部が設置されてからわずか13年で保健学科として4年制に至ったということで、そこには関係者の方々の多くの苦勞と尽力があったであろうと合点が行きました。

ところで、鹿児島県作業療法士協会は前身の作業療法士会として1983年に設立しました。

これまでに社会情勢は急速に変わり、特にこの20年の変化には著しいものがあります。2000年に介護保険が始まり、近年では地域包括ケアの実現が叫ばれています。社会全体で支え合う仕組みを作るために様々な施策が試行錯誤のなか実施されています。こうした社会背景と専門職としての知識と技術をもって、そこに心を通わせていけるためには貴学内での教育と人間育成の環境がとても重要だと思います。さまざまな障がい者の社会参加や高齢者の自動車運転の課題、発達に課題を持つ子供達のインクルージョン教育、認知症の人を支える社会の在り方など様々な課題が当協会には寄せられてきますが、これらの問題を紐解くキーワードの一つに「多様性」があります。人々の多様な背景や特性、環境を理解し対応できる能力と技術は、貴学内での人と人との繋がりとそこでの社会的相互教育関係をとおして初めて身に付くものと思います。ご承知のように多くの貴学科の卒業生が私たち鹿児島県作業療法士協会の会員として互いに刺激を受け合い学んでいます。医療や福祉、教育や地域社会の現場は超高齢社会の現状と相まってまことに多難です。これからも設置当時からの初心を忘れることなく、「次の二十年」をめざして本協会と鹿児島大学医学部保健学科が共にたゆみない成長を続けてゆければこの上ない喜びです。

最後になりましたが、鹿児島大学医学部保健学科設置20周年を祝い、皆様のご清栄とご繁栄を心から祈念いたします。



鹿児島大学看護同窓会 つめ草会会長 宇治野 由美子

保健学科設置20周年に寄せて

保健学科設置20周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

1908年（明治41年）県立鹿児島病院看護婦養成所発足、1950年（昭和25年）鹿児島県立看護学校として開設、1958年（昭和33年）鹿児島大学医学部附属看護学校として国立移管、1985年（昭和60年）鹿児島大学医療技術短期大学の併設を経、1998年（平成10年）鹿児島大学医学部保健学科として開設。母校の沿革を振り返りますと、長い歴史のなか先達の知恵や思いを踏襲しつつ今年20周年の節目を迎えられたこと、感慨深い気持ちになります。

鹿児島大学看護同窓会のことをご紹介申し上げます。看護学校の校章は3つ葉のクローバーで構成されておりました。ナイチンゲール「看護婦（師）に不可欠なものは精神・知識・技術である」の言葉をもとにクローバー（つめ草）3枚の葉としてあしらい、十字は赤十字と同じく博愛を表し、NはNurseを意味して作られていました。この校章をもとに昭和48年同窓会を「つめ草会」と命名し現在に至っております。

同窓生は、

- *鹿児島大学医学部附属看護学校卒業生（昭和27年度卒業生第1回期～昭和62年度卒業生第36回期）1234名
- *鹿児島大学医療技術短期大学看護学科（昭和63年度卒業生第1回期～平成12年度卒業生13回期）1014名



キャンドルサービス
「附属看護学校同窓会記念誌（1998年）」より

*鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻卒業生（平成14年度～）1311名余り

以上3カ所の卒業生から構成されており、多くの同窓生が病院や地域、学校、行政などで看護師・保健師・助産師・看護教職として活躍しておられます。

同窓会としては、2年に1回同窓会総会・懇親会の開催、同窓会だより発行、会員名簿発行を中心に活動を行っております。また、卒業式での花束贈呈、国家試験合格祈願鉛筆の贈呈も行っております。今後も“卒業生”（ともに学びともに歩む仲間たち）とともに、皆様の活躍を支援できる同窓会活動を行っていきたくと考えております。

さて現在日本は超高齢社会を迎え、「住み慣れた地域でその人らしく暮らせる」ために地域包括ケアシステムの構築の深化を図り、地域共生社会の実現に向け改革が進められているところです。その中でいかに専門性を発揮し地域作りに貢献できる私たちの活動は、周囲から期待されているところです。

その期待に応えられるよう、これまでのよき伝統を踏襲しつつ、地域に貢献する質の高い医療・福祉サービスの提供等が出来る、これからの新しい時代にあった特色ある学校づくりを今後もまい進されることを祈念いたします。

最後になりますが、関係者の皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



キャンドルサービス（保健学科）



鹿児島大学保健師同窓会しおさい会会長 徳永 龍子

更なる発展を願う同窓会の思い

平成29年8月、昭和54年発会の保健師同窓会「しおさい会」第6代会長となりました。鹿児島大学の保健師教育を振り返って見ますと、昭和17年全国に先駆けて高等女学校卒業を入学要件として鹿児島県立保健婦養成所が開学され、本年で75周年を迎えます。

鹿児島の保健婦養成は、「僻地性に富み離島が多い本県の特殊事情は、保健衛生こそ県政の重点課題」と企画されました。その後、全国でも異例の国立移管、鹿児島大学医療技術短期大学部地域看護学特別専攻、そして鹿児島大学医学部保健学科まで55年の年月を要しました。関係者の念願であった大学昇格から本年で20周年、心からお祝いを申し上げます。

大学昇格に至るまでの歴史を紐解いてみますと、その時々校長、教務、大学教授などの講師、経験豊富な実務講師、事務職員、県職員など多くの関係者の熱意、念願、目標が綴られています。開学当初から制度さえ整えばいつでも大学課程にできるよう講義内容、実習場が準備された記述があります。

昭和23年医師法の施行に伴い学校教育法で高等教育に位置づけられた医師は、国立移管に伴い昭和30年鹿児島大学医学部に昇格しました。一方、昭和23年保健師助産師看護師法（以下「保助看法」）で女子のみの看護職は、学校教育法で各種学校のため大学昇格が叶いませんでした。その後、学校の教職員、鹿児島県、鹿児島大学、県看護協会・連盟が一緒になり高等教育同等と大学昇格の陳情を何度も行い、昭和51年専修学校設置基準の制定に伴い、教育条件の充実した学校として指定を受けています。平成4年には、看護婦等の人材確保の促進に関する法律が看護職員立法で成立し、国、県の大学設置補助金が予算化され短大、大学に昇格しました。また、平成10年学校教育法改正で専修学校卒業生が大学編入可能となり看護大学教員も増え大学は266校を数えます。平成21年には、保助看法改正で看護職も高等教育となり、助産師及び一部保健師は大学院教育に昇格しました。これからも鹿児島大学の教育方法や実習指導体制の利点良い伝統を引き継ぎ、人生100年時代を担う看護職の教育を継続発展させて頂くことを期待しています。

本校の保健師教育は、統合教育から始まり昭和25年看護学校の設立から短大までは看護師3年卒業後、保健師教育1年間。大学でまた統合教育、選択制となりましたが、約20名の少数教育です。

保健師がする公衆衛生看護は、住民と共に生命、生活、尊厳を衛るための精神、知識を学び、つくり動かす技術を学びます。教育内容は母子・学校・産業・成人・地域保健と全世代を包含し、看護関係法令及び実習・実践です。鹿児島空襲時の学生救護の惨状や文部省に日参し養護教諭1級普通免許（現在1種）の大卒認可経過を郡山ノブエ先生から聴いたのは「しおさい会」セミナーです。保健師は1年間の教育のため、学内での先輩と後輩との学び合い、絆を結び社会貢献する機会はありません。そのため同窓会「しおさい会」は、「①会員の親睦と母校の使命達成の推進力となる。②会員の教養を高め、専門的知識技術の向上に努め、もって社会福祉の貢献に資する」事を目的としています。活動内容は、同窓生と学生も対象としたセミナー、活躍中の保健師、同窓生や恩師山元郁子先生等による研修会、講義への参加協力、学生による同窓生へのインタビュー家庭訪問への協力です。総会は隔年で来年8月3日第20回総会を開催します。会報では毎年同窓生の活躍紹介、同窓会広報、活動報告、制度改正の情報提供、また、今年7月にはホームページも開設しました。

この同窓会活動は母校を思い40年会費を払い、保健婦学校閉校時には数百万の寄付と参加協力をいただいた同窓生の皆様、津城・郡山・山元・梅木・藤野会長を支え御多忙な本務の傍ら同窓会運営を熱意と誠意をもって担っていただいた役員の皆様の支援の賜物です。心から感謝申し上げます。この間、永眠された恩師、同窓生の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

今後も鹿児島の保健師活動の未来展望を抱き、看護の将来を見据えたあるべき姿に向かい学ぶ学生、会員を支援継続できる同窓会活動ができることを願っております。

（鹿児島純心女子大学名誉教授、鹿児島県看護連盟会長）



鹿児島大学助産師同窓会 会長 片平 久美子

保健学科設置20周年に寄せて

鹿児島大学医学部保健学科設置20周年を迎えますことを心からお慶び申し上げます。また、記念事業として記念誌を発刊されますことお祝い申し上げます。

今回の寄稿にあたり、保健学科の歩みを調べてみますと、1948年に鹿児島県立看護学校としてスタートし、1975年に設置された鹿児島大学医療技術短期大学部を経て、1998年に鹿児島大学医学部保健学科として設置されたとありました。改めて、長年にわたり鹿児島の医療・保健・福祉を支える医療専門職の基礎教育を担ってこられたことを感慨深く思いました。また、私が鹿児島大学医学部附属助産婦学校に在籍していた1981年当時の桜ヶ丘キャンパスの光景や看護学生、助産師学生、保健師学生とともに過ごした寮生活などなつかしく思い出しました。

20周年の今日に至るまで、熱意ある教授陣・職員の皆様のご尽力により、地域医療を担う医療人として多くの優秀な人材が輩出され、様々な分野で活躍されています。

これから少子高齢化社会を迎え、多くの人々が住み慣れた地域でいかに年を重ねるかが大きな問題となってまいりました。特に鹿児島県は多くの離島を有していることや高齢化先進県であるなどの地域特性があります。医療、福祉、介護の他職種連携のもと地域包括ケアシステムの構築・推進に向けて、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の担う役割はさらに増大すると思います。さらに少子化対策として、子どもや子育て世代も含めた全世代型の地域包括システムを推進し、健やかに生まれ育つことの支援のためには助産師の専門性の発揮がよりいっそう期待されていると考えます。

医療・保健・福祉に関する多様化したニーズに対応しうる看護・理学療法・作業療法の各分野における医療専門職の養成機関として、鹿児島大学医学部保健学科のますますのご発展を祈念いたします。



今、そして未来へつながっていく鹿児島の助産師教育



鹿児島大学医学部保健学科同窓会 宮崎 雅司
理学療法学専攻部会 会長

保健学科設置20周年に寄せて

保健学科創設20周年、心よりお喜び申し上げます。

保健学科1期生として私が入学して20年、卒業して16年、あっという間の20年でした。

理学療法士と関わり20年、私も理学療法士として、1人前になったかと自問自答です。一緒に騒いでいた同級生は、職場で管理職になったり、母親になり家庭と仕事を両立したり、子育てに奔走したり、それぞれの道を歩んでおり時間の経過を感じます。

理学療法学専攻の同窓会も発足して16年経過しており、私3代目の会長です。発足当初はただの上級生と下級生の飲み会でしたが、卒業生も増えなんとかここまでほぼ毎年開催できました。これも医技短時代から続く伝統である、「たてとよこのつながり」のよさと、各学年にいる同窓会委員の努力の賜物かと思えます。

さて同窓会では、さらに縦のつながりを強くするため、同窓会発足10周年に医技短の先輩との同窓会を統合しました。当初の予想に反して多くの医技短の先輩方に同窓会に参加頂き、また毎年コンスタントに先輩方がこれ大変うれしく感じています。現在では同窓会の1次会では縦のつながりを、2次会では横のつながりを強める同窓会となっており大変うれしく思っております。

保健学科の卒業生もついに医技短の先輩より数が多くなってきました。医技短の理学療法学科と、保健学科の理学療法学専攻をしっかりと今後も同窓会をつなぎ、絆を深めることができるようにしていきたいと思えます。これからも保健学科と保健学科理学療法学専攻を見守り、支えていけるよう精進していきます。最後になりますが、今後の保健学科のさらなるご発展を心より祈念しております。



第1回 理学療法学専攻部会 総会



鹿児島大学医学部保健学科同窓会 中村 侑司
作業療法学専攻部会 会長

記念誌発刊に寄せて

鹿児島大学医学部保健学科設置20周年並びに記念誌の発刊、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は、平成16年に入学しました。初めての一人暮らしで簡単な家事も満足にこなせず、聞きなれない鹿児島弁に戸惑い、入学式、新入生オリエンテーションで郡元キャンパスの広さに圧倒され右往左往していました。しかし、そのどれもがあの頃の自分には新しい発見で毎日がとても刺激的だったのを覚えています。新しく多くの人との出会いがあり、大学での友人、趣味を通しての友人ができ、充実した大学生活だったように思います。

私事ですが、大学を卒業し10年が経ちました。その10年の中で作業療法士としての自分の適性や、やりがいに悩んだ時期もありました。先生方には卒業後も相談にのっていただき、先生方の意見を参考にして自分なりに再考し、作業療法士を今日まで続けてこられたと思っています。卒業後もフォローをしていただけることは、本当にありがたいことだと感じていますし、今度は、私の経験が後輩の問題解決にどのように生かせるだろうかと、今後の自分の進むべき進路を模索しているところです。

設置20年ということですから、現在、在学している1年生が卒業するところには約400名の作業療法士が鹿児島大学から輩出されたことになることとなります。改めて計算してみて約400名という数字に驚きました。私の今の職場には鹿児島大学の後輩が多く勤務しています。皆、とても優秀な人材だと思っています。作業療法学専攻の教育理念の中に「高度な専門的知識と技術を身につけ、社会の変化と多様なニーズに応じて、優れた作業療法を実現できる能力を備えた人材を育成する」という一文があります。人でいえば、生まれてから成人するまでという20年の長い期間の中で、卒業生も経験年数に合わせ成長してきたことと思います。大学を卒業した後の作業療法士が、臨床に出て、芽が出始めたころは、

まだ実力がはっきりとしないこともありますが、経験を積むにつれて、優れた能力を発揮し始めるように思います。優れた能力とは、作業療法に関する医学的知識だけでなく、指導者、リハビリテーション部門の運営者としての幅広い教養であり、それらを患者様、病院にフィードバックできる力だと思っています。ディプロマ・ポリシーの中にもある科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を展開できる能力そのものだと思います。

そして、ここ10年を見ても、作業療法士が置かれた環境も大きく変化してきました。リハビリテーションを取り巻く環境も変わりつつあります。職場復帰や経済的自立を支援する目標にととどまらず、障害の原因となる疾病などの予防や治療のためのリハビリテーションも図られるようになっていきます。作業療法士の職域は幅広く、鹿児島大学の卒業生は現代の多様なニーズに対応し、展開していく力も十分に有していると信じています。諸先輩方の背中を見て成長し、また自分が培った作業療法士としてのスキル、経験を後輩に還元していく、卒業後も母校を同じくする作業療法士が良い循環の中で成長できることを願います。

最後になりましたが、温かいご支援いただいている母校鹿児島大学保健学科の恩師の先生方のご健勝、そして卒業生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



鹿児島大学医学部初代保健学科長 鉾之原 昌

衝撃のドラマの10日間！

平成9年2月18日から28日までの10日間である。

鹿児島大学医療技術短期大学部が設立されたのが、昭和60年10月で全国では18番目であった。看護師（当時は看護婦）、理学療法士、作業療法士の3年制の短期大学として発足したが、当時からこれからの医療技術は急速に進歩し広域になるので、4年制の教育が必要だとされていた。本学も平成3年ごろから、学内で4年制化準備委員会を立ち上げ検討されていた。

しかし、なかなか進展せず、私が平成7年5月部長になり検討した結果、最大の難題は教員数不足と質の向上が問題であることがわかった。それから、特に看護の教授になれるような人材をさがすことになった。その頃、全国に学会出張がある場合には、各地に人材を探しに出かけて交渉した。その間にも、毎年2校ぐらいが4年制に昇格して行った。私も上京した時はいつも文部省には顔を出し、情報を入れていた。最初に計画案を平成8年11月にも持っていき交渉したが、歯牙にもかけられなかった。

その後、教官が何人か揃い平成9年2月18日に再度文部省医学教育課に交渉に行った。それまで正式の設置計画書を作っていなかったが、課長補佐から今月末28日までに作ってくるように言われた。実は、医学教育課の机の上には2・3の大学の分厚い設置計画書が置いてあった。

これをわずか10日間ではとても作れそうになかった。しかし、日にちを延ばしてもらえないかと交渉したが、それでは来年に回すといわれた。そこで、『では28日までに持ってまいります』と言ってしまった。さて、どうしたらいいか困った。その日は悩み思案しながら大学に帰った。

大学に帰り急遽、医技短全教官と事務職員を集め

て事情を話し皆さんに理解していただき、これから10日間で計画書を作るようになった。全教官の業績の原稿を作り印刷所に頼んでは間に合わないことは自明の理であった。そこで、自分たちで同じソフトのパソコンに手分けして業績をいれることにした。そこで、当時のパソコンに詳しい専門家を頼み、新しくパソコンを3台買い、教官と事務官で手分けして打ち込むことにした。全職員が自分のパソコンでもいれたりし、会議室で連日殆ど寝らずに泊まり込みでパソコンに没頭した。設置計画やカリキュラムなどは出来上がっていたので比較的スムーズに完成した。しかし、教官は非常勤を入れると70数名あり、本学の教官は自分でまとめてパソコンに入れている人もあり、すぐに対応はできたが、学外の非常勤の予定教官はまだ業績集をもらっていない人もあり、随分苦労して集めた。連日徹夜で取り組み、27日の夜には全原稿が出来上がり、30冊ほどの計画書を作るために30枚ずつコピーして、ページ数を揃え製本して表紙まで完成したのが28日朝であった。冊子は10cmぐらいの厚さであり、出来上がった時は皆で万歳をして歓喜した。私は、28日朝自宅に帰り服装を整え事務長と新設置計画書を持ち飛行場にタクシーで直行した。

文部省に持っていくと出来上がった計画書を見て係官も予想だにしていなかったと見え、びっくり仰天であった。そんな苦労の末、この設置計画書が受理されたので、他の大学と競争の組上に乗ったのである。その後、3月から7月にかけて文部省から何回も呼び出しがあり、人事などの修正を要請された。こんな経過があり、今年の概算に入りそうだとわかっていたが平成9年8月28日の南日本新聞で概算要求の中に組み込まれたと載った。（図 正式に

は10月2日新聞) 本学教官と事務官は苦勞が報われたことが現実となり、本当に嬉しく皆で祝杯をあげた。この年の医技短からの保健学科昇格は本学と岡山大学と2校で23校中6番目であった。医技短発足は全国18番目だったが、保健学科昇格は6番目となり誇り高かった。

この10日間の全職員の団結力、集中力をして奇跡をうんだことになり心から皆さんに感謝している。本当にドラマティックであった。有り難うございました。



図 正式には10月2日新聞



保健学科銘板上掲式 1998.10.5



鹿児島大学医学部2代目保健学科長 森本 典夫

医療技術の進歩と患者への眼差し

今年ロシアで開催されたFIFAワールドカップにおいて、日本代表は、戦前の予想を覆す戦いぶりですべて16に進出し、日本国中を大いに熱狂させた。その日本がワールドカップに初出場したのは、1998年のフランス大会で、成績は3戦全敗ではあったが、この年の世界デビューが今回の日本サッカー躍進の礎となったのであろう。

その1998年（平成10年）は、鹿児島大学医学部にとっても躍進の礎が築かれた年であった。医学部に保健学科が設置されたのがこの年の10月であり、翌年4月には、1期生120名が入学し、医学部新時代のスタートを切ったのである。前身の医療技術短期大学部からの4年制への転換には、人事の充実など様々な難題があったが、スタッフ一丸となって乗り越え、これにより本学の医学部も医学科と保健学科の2学科体制となった。これは、鹿児島大学にとっては画期的なことであった。

さらに引き続き、平成15年に保健学研究科修士課程、平成17年には保健学研究科博士後期課程が設置され、4年制化されてからの目標であった保健学科の全課程が実現し、本学の医学部が名実ともに医療技術系の最高教育機関となったのである。

さて、現在、国においては、Society5.0（超スマート社会）の実現を強力に推進することが提唱されている。IoT（Internet of Things）、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータなどの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会を目指すというものである。医療・介護の分野においても、遠隔診療、介護ロボット、患者情報のビッグデータ化、高度なセンサーによる見守りサービスなどの例が示されている。健康寿命の延伸や社会コストの抑制に効果的であり、特に高齢化先進県であり、離島を多く有する鹿児島県にとっては、このような先端技術を活用することの意義は大きい。さほど遠くない将来の医療・介護の現場は、科学技術・情報技術の飛躍的發展に伴い、今とは大きく異なった姿になっているのだらうと想像する。

医療関係者は、高度専門職業人として、このような先端技術を確実に身に付くようしっかりと学ぶべきであるし、リハビリや介護の現場に積極的に取り入れて、大いに活用すべきであることは言を俟たない。

しかし、忘れてならないのは、私たちが相手にするのは、生身の人間であるということ、しかも、病気や後遺症に苦しみ、老化に悩む弱い立場に置かれた人間であるということである。彼らはAIに自分の苦しみや悩みを語りたいのではなく、人間である私たちに語りたいのである。彼らは機械の人工音声を聞きたいのではなく、私たちの温かい肉声を聞きたいのである。患者たちを看るものに、先端技術の精緻な目や手指は確かに必要ではあろう。だが、私たちの肉眼や血の通った肌で感じ取る能力こそが最も大切なのである。そのことを忘れてはならない。

そもそも人間は不合理な存在であり、常に合理的な選択をする存在とは限らない。それは治療やリハビリ、看護の場面でも見られるように、私たちが医学的にベストと思う対応をしても患者が納得しているとは限らない。それぞれの患者の心の中には、個々の人生観や死生観、これまで培ってきた経験、愛する家族のこと、命より大切な生きがいのことなど様々な要素が積み重なり、複雑に絡み合っている。

それはさすがの先端技術でも読み取れまい。私たち医療従事者でも難しい。でも読み取ることができるとすれば、それは先端技術ではなく私たちの方だろう。なぜなら、同じ人間だからである。AIなどの科学技術が革命的に進歩する時代だからこそ、学問の一丁目一番地に立ち返って、私たちは人間をもっと知らなければならないのではなかろうか。18世紀の英国の詩人アレキサンダー・ポープの「神の謎を解くなどと思ひ上がるな。人間の正しい研究課題は人間である。」という言葉が胸をよぎるのである。



鹿児島大学医学部4代目保健学科長 濱田 博文

深く印象に残っている事と定年退職8年後の近況

皆様、如何お過ごしでしょうか。「保健学科設置20周年」、お目出とうございます。

私は、保健学科前身の医療技術短期大学部から定年退職まで27年間、在籍していました。その間の出来事はいろいろ有りましたが、深く印象に残っている事を一つだけ書きます。

それは、大学院保健学研究科（特に博士課程）設置のため、学長はじめ関係教職員数名で文部省に申請に行った時の事です（合計数回）。学長も毎回一緒なのに、通された部屋は無味乾燥な小部屋で、文部省は係長以下3～4名という味気ない対応。しかも質疑応答はのらりくらり。いつも怒りとも落胆ともつかぬ気持ちに襲われました。博士課程に関する最終回の時、これでは埒が明かないと思い、単独で担当課長のいる部屋に行き名刺を出して挨拶すると課長もすくっと立たれました。そして親切に、ただし立ち話的に、博士課程設置の要点をぼつり、ぼつりとつぶやかれました。これで博士課程設置の方針は定まり、実際に設置の運びになりました。

昔話をすると切りがないので、次は定年退職8年経った元教員は、どう過ごしているのか、皆様へのご挨拶かたがた、今後退職される方にも何かの足しになればと、以下、近況を報告したいと思います。

第二の人生：大学を定年退職後、週四日間（→今年から実質二日間）働くのを軸に、二人の息子の家族（それぞれ別世帯ですが、同じ鹿児島市内在住）と日常の交流を大事にしている日々です。

すなわち、孫4人（男2人、女2人）中心に、正月、桃の節句、端午の節句、誕生日、祖父母参観、夏休み、七夕、夏祭り、運動会、音楽会、クリスマスなどなど、毎年目まぐるしくやってきます。体力・気力も必要です。しかし成長をみるのは楽しみで、また孫の成長をみて、初めて自分が子供の成育を、いかに疎かにしてきたか反省しています。

幼子の もみぢ手の中 てんとう虫
おてんばも 七草粥を 持ちかへり
向日葵の 百万本ありて 子らの列

俳句：定年退職後に始めて、今凝っていますが、「俳句は入りやすく奥が深い」ということを実感しています。また「俳句は人なり」とも。 第一句集「古

稀の樹」の一句、

穏やかな 古稀を迎えて 柿たわわ

現在、F.B.でも六十数名と俳句交流をやって楽しんでます。

チェロ：一念発起して四十の手習いで始め、社会人オケで多くの交響曲を演奏したり、今は仲の良い音楽仲間とハイドンやモーツァルトのカルテットを楽しんでいます。

最近、プロオケのチェロトップ奏者の方のレッスンを受け始めましたが、これが楽しくて、あと10年早く出会っていたら少しは基礎ができたのに、と悔やまれてなりません。

チェロケース かつぎ見あぐる 冬の月

スポンジテニス：指導者の方々を中心に、週一～二回、室内で汗を流しています。経歴・職種・年齢・性別など関係なく、ニックネームで呼び合うグループです。ちなみに私はピエール（笑）ですが、ムッシュや〇〇ちゃんもいる20代～80代のグループです。汗をかけた後のビールが美味しい。

スポンジテニス 汗のシャツ脱ぐ 嬉しさよ
古代史：日本の古代史の本を読み漁っているうちに、「古事記・日本書紀」と「万葉集」にはまり、今は、一念発起して、それを自分流の「瑞穂の国・日本の始まり物語」（仮題）という小説にしようとして取り組んでいます。原稿は書き終わり（原稿用紙290枚）、近々、上梓できるように奮闘中です。

他に、美術館や映画館などに行って素晴らしい芸術に感動し、ビールを飲みながらサッカーや野球のテレビ観戦に熱中したり、ドキュメンタリーに涙したりしています。

そして、そのような日常生活に飽きたら、旅行に出かけて自然に親しんでは心身をリフレッシュします。海外旅行シリーズは一段落したので、国内に目を向け、一昨年は木曾街道、昨夏は涼しい道東巡りをしました。

北海道 ごろりと寝れば ひつち雲

このように、興味あることや好きなことに時間をかけられる日常に幸せを感じる昨今です。

皆様のご健勝および保健学科のご発展を、心から祈念しております。



鹿児島大学医療技術短期大学部元部長 鹿島 友義

鹿児島大学保健学科のさらなる発展を祈念して

鹿児島大学医学部保健学科の創設20周年、おめでとうございます。もう20年経ったのですね。私が医学部第一内科学教室から医療技術短期大学部創設準備室へ移動したのは1985年、大学を離れたのが1993年です。

創設準備室の専任になる数年前から、医療技術短期大学部の準備に専念していましたので、10年以上の間、医療短大に関わったこととなります。初めから、数年遅れてもいいから短期大学ではなく4年制の学部にしてほしいとの交渉はしてみたものの、医学教育課としては全国の国立大学付属の専修学校の短大化がまだまだの段階なので4年制などとは言わないで下さい、短大化が完了したら、すぐ4年制に、そして必ず大学院も設置しますから、と説得され、短期大学部として出発しました。しかし、全国の会議でも文部省でも4年制学部の創設は短大化の順番を越えて一番を目指しますよと公言していました。

「看護教育を大学で」という夢は鹿児島ではかなり早い段階から構想されていたらしく、県立大学時代にすでに県議会へ看護学部設立の要望が出され、看護学校生が角帽をかぶって勉強したという話もあり、写真も残っていると聞いたことがあります。

もちろん、4年制化への準備は、短期大学創設の初め、私の在職中から始まっていましたが、私の退職後に医療技術短期大学部部長になられた銚之原先生を初め、3学科の教員全員のご努力によって、予想を上回る速さで保健学科への昇格、研究科の設置が実現し、現在の医学部保健学科へ発展を遂げられたことを大変嬉しく思うとともに、皆様のご努力に感謝申し上げます。

鹿児島大学医学部保健学科で学び、学士、修士、博士等の学位を取得した看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士もあちこちの医療現場で働いていることでしょう。彼ら、彼女らの周囲には専門学校で学んで免許を取得した多くの同僚がいるはずです。同じ医療関連従事者として、仲間から、そしてさらに医師、患者から信頼され、頼られる優れた医療者に成長してほしいと願っています。

私が在職していたときと異なり、大学が法人化してからかなりのときが経過しました。教員は定員削減、校費の削減といった法人化の弊害に苦しんでおられると聞いています。大変だとは思いますが、今後とも鹿児島大学医学部保健学科、大学院保健学研究科が看護学、理学療法学、作業療法学の教育、研究の拠点として発展されますよう、また、今後ますます需要が高まっていく医療の世界で、オピニオン、リーダーとしての役割も果たしていける多くの優秀な医療従事者を送り出していきたいと願っています。

鹿児島大学医療技術短期大学部元教授 柴田 恭亮

REMEMBER 「ITAN」

保健学科設立二十周年、おめでとうございます。

私は保健学科の前身、医療技術短期大学部（以下、医短と略）に、1987年から8年間在籍した。1995年に退職、以後医短とは不即不離の関係だったが、保健学科のことは何も知らない。記念誌への寄稿依頼には躊躇いがあった。しかし、母体が医短なので全く無関係でもないと思い引き受けた。

1980年代から、医療技術者（看護、理学、作業など）の養成が、各種学校から一条校（短期大学）へ移行する動きが広がった。その先陣を切ったのが、国立大学医学部に設置された医短である。1985年に鹿児島大学にも医短の設置が認可され、1986年に一期生が入学した。

次々に設置される医短では、看護教員の不足が深刻な問題になる。どこの医短も教授クラスの教員確保に血眼だった。今でこそ看護系大学の数は280校と飛躍的に増えたが、1980年代には大学も少なく、急速に増える教員需要を満たすだけの人材は育っていなかった。

教員不足の急場は、大学単位の甘い資格審査、定年退職者の再雇用、渡り鳥教員の活用でしのげるが、恒久的な対策にはならない。教員不足は、教育の質の低下につながる。

看護教育の大学化、一県一看護大学は、関係者の悲願だった。医短の設置で明るい展望が見えてきた。医短は鹿児島大学の次に設置された徳島大学で終わり、大学への移行が始まる。

大学の設置業務は、学部長予定者の教員と事務局が中心になる。どこの大学も教員確保には苦勞していた。地域特有の複雑な人間関係への対応もある。医短の準備室長だった鹿島友義先生のご苦勞は、さぞかし大変だっただろうと思う。

医学部保健学科への移行にも看護の教授は不可欠だ。自薦他薦で候補者の数は集まるが、文科省の教員審査は簡単にパスできない。保健学科設置の中心的な役割を担った銚之原昌先生は、教員募集で大変な苦勞をされた。

2000年前後から看護系大学の新設ラッシュ期に入る。教授クラスの看護教員の争奪戦は熾烈をきわめた。銚之原先生は少ない情報を頼りに交渉に奔走された。私を訪ねて小倉の西南女学院に来られたこともある。冷静な先生が交渉の経過に一喜一憂されたのが印象的だった。最終的には複数の大学との競合や、立地条件がネックになったと聞いている。文科省との折衝も先生が主導されたはずだ。医短設置からわずか15年で保健学科へ移行できたのは、先生の手腕に負うところが大きい。

看護系大学は、大学院の設置で完成する。大学院の設置は、森本典夫先生と浜田博文先生が担当されていた。正確な日時は忘れたが、お二人が突然、日赤広島看護大学に私を訪ねてこられた。当時、私は文科省の設置審専門委員（2000～2003年）も務めていた。用件の詳細は忘れたが、主に教員予定者の適格性の判断基準などについてだったと思う。

大学は完成すると、当たり前のように日常に組み込まれてしまう。先人たちの苦勞に思いをはせることはない。時の移ろいは人々の記憶を風化させ、やがて忘れ去られてしまう。20周年記念を機に過去を振り返ってみるのも無意味ではないだろう。

医短は2001年3月に13期生を送り出してその役割を終えた。学生の優秀さでは定評があった。僅か14年間で消滅とは残念だが、時代の趨勢なら仕方がない。

在職期間は8年間と短かったが充実していた。自由な雰囲気のある大学だった。学生と教職員間に垣根がなく、誰もが熱かった。時に風の便りが卒業生の近況を運んでくる。さすがと思う活躍ぶりだ。

“いつまでも医短を忘れないでほしい”

医短時代に培われた伝統と校風を引き継ぐ保健学科の更なる発展を祈ります。

鹿児島大学医療技術短期大学部元教授 山元 郁子

医学部保健学科設置20周年を祝して

この度、医学部保健学科設置20周年の記念祝賀会へのご案内を頂いた。

誠に、慶賀の到りであります。私が、前々の鹿児島大学医学部附属保健婦学校に赴任したのは、昭和38年（1963年）、55年前の事だった。その時、事務室には、すでに「四年制大学関係資料」の黒表紙の関係資料が存在していた事を今でも鮮明に記憶している。

この文章を起案するに当り、今までの記念誌5、6冊を読んでみた。感慨一入といったところです。既に多くの事が記録されている事に気づいたと同時に、長い長い年月、しかも沢山の方々の熱い思いに気づかされた。手許には、平成8年に出版された「医療技術短期大学部十年の歩み」がある。

私が退職して既に26年、平成10年10月1日から20年の歩み…。一口では伝えられない多くの御苦労があった事でしょう。

時代は情報化が進み、地域性、人々の特性、多様性の変化と共に医療制度・社会制度が大きく変わり、鹿児島大学としての特性、可能性がより多く求められる時代へと変容しております。更に、離島医療と共に高齢化社会に対応した教育等々、より多くの専門性が求められていることでしょう。

私の提案として一つお願いしたい事があります。以前、同窓会長をしていた折に、或教授が定年で退職されました。当然、最終講義と一定のセレモニーがある筈です。同窓会が一つになっていないと、会長挨拶で不都合が生ずるのです。気持ちよく在職中の御苦労に報いるためにも、その先生（当事者）に最も適当な同窓会長が挨拶した方が良くこしたことはありませんよね。古い考えかしら？各々の専門性はよく分かっているつもりです。学問の分野では十二分に専門性を追求してほしいと思います。皆様のご知恵を絞ってみてはいかがでしょうか。



「保健師の働き方や体制は時代に合わせて変わってもその本質は変わらない」と語る山元郁子先生（2015年8月1日しおさい会での講演の様子）



学生や教員の成果をまとめるものとして毎年発行されていた冊子（附属保健婦学校時代）



鹿児島大学医学部元教授 藤野 敏則

“Close your eyes and”の次に続く文は？

私は保健学科在職中、内尾ホープ（リーダー・ホープ）先生が科目責任者をされていた授業科目「医療英語 / 医療英語入門（看・理・作2年生対象）」を長い間お手伝いさせて頂き、患者と医療者間の英会話を医学的説明を入れながら教えておりました。例えば、神経学的検査に関する会話では、テキストを使い「目を閉じて下さい。そして片足で立って下さい。・・・」を英語で言うと、“Close your eyes and stand on one foot.”と教え、その英語を喋ってもらうという授業をしておりました。この授業を受け持った当初はうまく英語を喋る学生は珍しかったのですが、native speaker並の流暢な英語を話す学生が次第が増えてきて時代の流れを感じたことでした。医療の世界においても英語は今後益々増えてくる外国人患者への対応に必須の技術となることでしょう。

さて、保健学科で「医療英語」を担当していた関係からか、堤由美子先生を通して当時の放送大学鹿児島センター長の竹田先生から依頼を受け、放送大学での面接授業「医療英語」を2年間担当したことがありました。1日ぶっ通しで2日間（土日）行う授業で、様々な社会環境、年齢の方々40数名が受講して下さい、その半数以上が看護師さんでした。その放送大学での「医療英語」授業での事です。保健学科ですのと同じように、<「目を閉じて下さい。そして片足で立って下さい。・・・」を英語で言うと“Close your eyes and stand on one foot.”です>、と言った後に、何を思ったのか、「ところで、余談ですが、この“Close your eyes and”の次に別の言葉が続く歌を皆さん知っていますか？」と言い放ち、まず“Close your eyes”と言い、少しポーズを置いた後、遠慮がちに“and I'll kiss you～.”と続けてしまいました。すると驚いたことに、少し遅れて“and I'll kiss you～.”と歌う女性の声が聞こえてきました。えっ、まさかと思いましたが、反応してくれたことに元気づけられ、“Tomorrow I'll miss you～.”と続けました。すると、もう一つの声も“Tomorrow I'll miss you～.”と続けてくれました。そしてその後は、“Remember I'll always be true. And then while I'm away I'll write home every day. And I'll send all my loving to you～.”と2人で声高々に合唱してしまいました。そう、The Beatlesの初期のヒットソングAll my lovingです。愛する人への思いを語ったシンプルな曲で若い頃よく歌いました。一

緒に歌ってくれた女性は私と同年配の方でしたが、その方もきっと若かりし頃よく歌っていたでしょう。曲を知らなかった他の受講生達には申し訳なかったのですが、放送大学でAll my lovingを声高々に合唱できたことは私にとって忘れられない思い出となりました。また希望的観測ですが、一緒に歌ってくれたその女性の方にとってもいいひとときであったのではないかと考えています。

後に、インターネットのYouTubeで、The Beatlesの一員であったポール・マッカートニーが世界巡回コンサートの中でこのAll my lovingを歌っている映像を見る機会がありました。会場を埋めた聴衆が楽しそうに歌い踊っているのに混じり、涙を流している一人の男性を写した映像がありました。おやっと思ひ、その映像の下にあるコメントを辿ってみると、以下のようなことが書かれていました。“彼の奥さんはポールが好きでコンサートに行きたかったのだが、彼自身はBeatlesを全然好きではなかったので、奥さんと一緒に行けたであろう最初の機会にはコンサートに行かなかった。ポールの歌が聴ける次の機会が来たが、そのコンサートの前に奥さんは亡くなってしまった。そこで、彼は（奥さんの分を含め）2枚のチケットを買って一人でポールのコンサートに来た。All my lovingは彼の奥さんが一番好きな歌だった”というコメントが書かれていました。彼はポールが歌うこの曲を聴いて奥さんへの思いがこみ上げてきたのでしょうか。その映像とコメントをみて、私も思わず目頭が熱くなりました。

保健学科を定年退職して2年半近く経ちましたが、20年程前から続けてきたNHKラジオ外国語講座“群”を、時間が十分に取れる朝の時間帯に今も聴き続けています。その成果でしょうか、YouTubeで視聴できる歌に添えて画面に流れる字幕スーパーやその歌へ書かれた色々な言語で投稿されたコメントが少しは理解できたようにもなりました。いろんな言語のひとつひとつの言葉のもつ意味の重さも初めて知って驚いたりするなど、言葉の大切さを再認識する充実の日々を今送っております。

保健学科の学生さん、日本語を大事にし、かつ外国語を学び視野を広げましょう。人生が楽しくなります。とくに英語は世界の共通語で、これからの世界を逞しく生きていく皆さんにとって必須のスキルです。卒業後も学び続けて下さい。“継続は力なり”です。



鹿児島大学医学部元教授
名誉教授

嶋田 紀膺子

国策の大学化に向けた鹿児島大学の 助産師教育に関する思い出

鹿児島大学医学部保健学科創立20周年を祝したいと思います。大学教育機関での看護教育という念願が叶って嬉しい限りです。諸先輩方も大変喜んでおられることと思います。

私は関東通信病院より割愛されて、母校である鹿児島大学医学部附属助産婦学校に赴任してから退職迄の29年間助産師の教育と看護師の授業に携わってきました。その中で印象深いものを2～3挙げて見たいと思います。まず国策の大学化に向けた助産師教育の歩みと学生背景の変化、次には「大学設置を果たす」使命の中で更に与えられた私の課題達成における挑戦秘話、最後には自信を得、勇気を貰った学生の授業反応について述べたいと思います。

1 大学化に向けた助産師教育の歩みと学生背景の変化

1) 国立移管により名称が改称となった鹿児島大学医学部附属助産婦学校の開校期間は、1958(昭和33)年からの30年間であり、私が携わった期間は1978(昭和53)年からの7年間でした。学生定数20人を満たす様になったのは半ばの1971(昭和46)年からであり、その他の背景は、同県・他県からの新卒者、看護師臨床経験者、他職種の従事経験者、既婚者等と大変特色ある構成でありました。教室の雰囲気は一般的女性職場風景の賑わいでした。講義において、焦点をどのあたりに絞るかが悩みの種でした。1987(昭和62)年からは大学化に向かう船に乗ることになりました。

2) 大学教育の始まりは、鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻(1年課程)からで、その開校期間は1989(平成元)年からの13年間でした。私が携わった授業は、看護師教育では2年次に開講する母性看護学の2科目2単位80人、助産師教育では助産学の3科目9単位20人、合計5科目9単位でした。定数を満たしていた20

人の学生背景は、約半数が母校の「医技短」を卒業したばかりの顔見知りの中に、従来の傾向を示す他県新卒者、看護師臨床経験者という構成に変化して行きました。教室の雰囲気は、少ない先輩たちの的確なサポートによって和やかな風景で落ち着いていました。

3) 次に4年課程の大学が新設されたのは、鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻からで、開校時期は、1999(平成11)年からであり、現在も続行しています。助産学の教育科目は4年間の経過の中で4年次に選択科目として開講されます。選択決定者が決まる4年次を助産教育の開校とすれば、2002(平成14)年からの13年間でした。私が携わった期間は、2006(平成18)年度の退職迄の5年間であり、年間の授業科目は教養課程を含む2科目4単位が追加され、合計7科目13単位でした。学生背景となる助産学決定者数は、諸条件の絡みとの関係により、2013(平成25)年より定数7人に至りました。

4) そして更に、高レベルでの助産師教育を求める世界的流れの中で、とりわけ離島・僻地のニーズを抱える鹿児島県において創立されたのは、2年課程の鹿児島大学大学院研究科博士前期課程助産学コースでした。開校時期は、2014(平成26)年からであり現在迄に5年を経過しています。学生は定数7人で学んでおります。何はともあれ国際貢献に通じる教育体制が設置されたことは、誠に嬉しい限りです。

2 「大学設置を果たす」使命の中で、更に与えられた私の課題達成における挑戦秘話

新設・併設された短期大学部看護学科と専攻科助産学特別専攻では、未だ発展途上の段階という受け止め方である時は、多くの課題達成が必須となっていた事と思われれます。更に与えられた私への課題は、

修士課程修了と研究等業績の量産という誠に厳しいものでした。行えるか否かと悩むよりも、唯前に進むのみであることから「泣くよっかひっ跳べ」の決意で挑戦に臨みました。夜間開講の法学研究科修士課程を3年で修了できたのは、母校卒業後東京に就職して数年経過した時期に、夜間開講を持つ大学に4年間通った体験が心の糧になったかと思っています。研究業績の量産については、県教育委員会からの要請であった「性教育の講演」を復活させて島々で応えました。その結果、情報は瞬く間に拡がって行き、鹿児島県内の各地を隈なく巡る事になりました。お陰様で社会的業績の量産に役立ったかと思えます。苦境に耐え・忍ぶ時に浮かんで来たものは、毎年開催される全国国立大学助産師教育協議会で挨拶される文部省から言われていた「挫けないで欲しい」の言葉であり、先に大学設置された先輩校の先輩たちの顔でした。「実情を分かって貰っている」と気付くや戦友意識にも似た仲間意識が湧き出て、「創る段階の役割だ」と踏ん張ることができました。

3 自信を得、勇気を貰った学生の授業反応

1) 演習方法「模擬妊婦の市中体験」に自信

対象は看護学教育2年次に開講される母性看護学の演習の一つでした。目的は妊婦さんの観点から、日常生活における社会的環境の状況の評価・考察することでした。

授業評価としては、①毎年妊婦役の希望が増して行き、4年課程の大学となった保健学科では、遂に略全員が妊婦役となりました。嬉しさと共にサポート教員の悲鳴を聴くに至りました。②帰校時の学生の姿は赤ら顔で汗びっしょり、足取り重く疲労感を滲ませていましたが、開口一番「楽しかった」と歓喜溢れる反応でありました。心配した帰校ぎりぎりの学生は、その傾向がより濃厚でありました。③「自転車に乗って見た」「自動車を運転して見た」「ハイヒールを履いて歩いて見た」等々、自主的な体験内容の拡がりをも見出していました。即ち、今後において妊婦さん等に会ったら、きっと躊躇なく「どんなですか」と声を懸けながら近寄って行く事が推察されました。そのことは能力獲得による態度形成の刺激を

受けたことが何え、「模擬妊婦の市中体験」の効果に自信を得ました。拘束・束縛等による不自由さを抱いている対象者に共感を抱き、積極的に接近する態度形成は、きっと高い支援レベルにも通ずる能力獲得を期待できると信じます。

2) 「性に関する健康」授業に勇氣

対象である保健学科1年次生（助産師希望者は必修扱い）と80人限定の教養課程全学生（選択）は、別々の講義であり、目的は性に関する健康を自己点検し、健康の維持・回復、異常の予防を図ることでした。授業回数は14回。授業考察では、①3日目頃から下向きだった顔が上がり始め、目線が合う様になりました。②「どうして今頃にこのような講義を聞くのか、遅すぎるー」③「教養科目で役立ったのは、この科目1つだけだー」と嘆く・憤る叫び声の反応に、身震いするくらいの嬉しさ、強い責任性から、「必要な授業」であることに勇気を貰いました。指導者も指導書もない試行錯誤を続けて行きました。その過程で頼りになるのは13年の臨床経験の中で、「女性は性と生殖において生命を縮めている」事等多くの気付きを産んだ臨床事例でありました。

最後に、看護教育制度の推移における国策の大学化に向けた助産師教育の設置は、多くの方々の理解・協力・支援等を頂くことによって、博士前期課程コース迄に辿り着くことができました。末筆ながらここに厚くお礼を申し上げます。今後も助産師教育の発展の為によりしくお願い申し上げます。



鹿児島大学医学部元教授 東 サトエ

保健学科設置20周年に寄せて

鹿児島大学医学部保健学科が設置20周年を迎えられましたことに対し、設置準備室から博士課程設置に至るまで関わりました教員として心よりお祝いを申し上げます。

振り返りますと、4年制大学昇格を目指し大学院での学位取得や教育・研究業績向上に取り組み、神戸市立看護短期大学で働いていた頃、医療技術短期大学部長と看護学科長がお見えになり郷里の鹿児島大学に保健学科を設置したいことを熱心に語られ、鹿児島大学医学部附属病院で看護職としてお世話になったことも鑑みて平成6年に帰鹿を決意したことを思い出します。文部大臣の赤松良子氏から教授を任命され、同じ女性として職務に精励し保健学科設置に向けて全力をつくす覚悟をしたものです。しかし、若き教授に多くの試練が次々に襲いかかって参りました。今、ここに生きていることが不思議なくらいのチャレンジと変化激動の連続の日々であったと思います。成人看護学のパートナーでありました外科系看護学担当の山内壽美教授が開学の喜びを共に味わうことなくご逝去されたことはまことに悲しい出来事でありました。本当に責任感の強い笑顔の素敵な先生でした（合掌）。

設置に向けて文部省が要求する水準は極めて高く、全体的な資質向上が必要でした。限られた時間とマンパワーを有効活用できる先見性と創造性・計画性・情報キャッチと還元をハイスピードで駆使する能力が求められました。幸い恩師や友人からの貴重なアドバイスで『自分が今できることは何かを見極めて着手すること。最大のピンチは最高のチャンスである。』ことを胸に取り組みました。

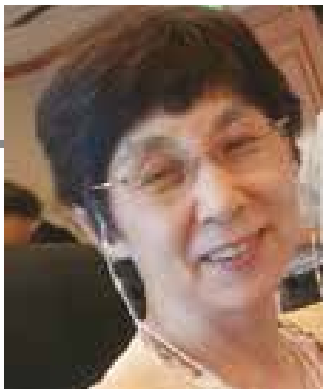
夢は描き・叶えるものですから、現実的な成果を示す必要がありました。国立大学医療技術短期大学看護学科協議会の臨地実習委員会に所属し、研究成果を報告書や論文（4年制大学の臨地実習教育に具備する条件に関する研究）、シンポジウム（岐阜市）で公開の後、『新世紀の看護にふさわしい臨地実習教育へ（雑誌：看護教育）』で提言いたしました。また、世界的視野から教育理念・内容・方法を

学部及び大学院教育に反映するために、シアトルのワシントン大学看護学部で研修を受け、『21世紀の看護学教育に重要とされる Critical Thinking の概念』をカリキュラムや現任教育に導入し、教育と臨床の場が手を携えて成長できるようにしました。更に、International Medical-Nursing Congress Center 主催の『看護診断に基づく看護実践の進展～理論と実践～（アイオワ大学のJ.マクロスキー博士とG.ブレチェク博士）』の総合司会を務め、NIC、NOCの概念をわが国に導入することに貢献しました。保健学科ではやむなく基礎看護学の担当に配置転換となり苦慮しましたが、海外での新たな学びは、看護学概論や看護理論、看護診断、看護教育学、臨地実習の授業科目に導入・活用され、教員が主体的に開発した教材（『看護過程 / 看護診断のテキスト』他）で教授する大学教育の醍醐味を感じた次第です。学生主体の課題学習を取り入れた活発な授業の展開や教育と臨床の場が常に連携を持ち学生の臨地実習を温かくサポートするケアリング教育環境の醸成を大切に取り組みました。

写真は思い出深い学部ゼミの1期生4名、大学院の1期生ともなった2名の卒業式の晴れ姿です。

最後になりましたが、鹿児島大学医学部保健学科が、医療・看護の時代を先取りして、チームの担い手にふさわしい人材を多数輩出し、益々発展されますよう心より祈念申し上げます。





鹿児島大学医学部元准教授 尾上 佳代子

医学部保健学科設置20周年に寄せて

鹿児島大学医学部保健学科が設置20周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。また、学科に加えて修士・博士課程の設置・発展にご尽力してこられた諸先生方のご活躍に敬意を表します。

私は保健学科設置に際し、鹿児島大学医療短期大学部専攻科地域看護学特別専攻に所属して開設準備から大学院開設までかかわりましたが、残念ながら修士課程設置をもって退職しました。

20年前の開設当時は国立の3年教育の医療短大が4年制大学に移行して間もないころで、文科省の認可も結構厳しく、国立大学の学科新設には国家予算が直結していたことから、年末には国会議員による大蔵省への予算折衝などもあったと記憶しています。

全国的にその当時の看護教育は、看護学校・医療短大+専攻科の教育から4年間の一貫教育に移行し、同時に保健師課程も必修となり看護教育が大きく変わる過渡期でした。大学教育としての教養科目や単位制約や看護師・保健師免許取得にかかる国試受験のための必須科目設定と単位の確保などの全条件を満たすために、カリキュラムは相当のスリム化と科目読み替えが必要となり、専攻科教育で強化できていた科目の多くをカットし必要最低限の科目と単位に絞らざるを得なかったことはとても苦しい決断でした。

また、保健師課程の必修化により、編入生を含む看護学専攻の全学生90名の地域看護学実習の臨地実習施設として、鹿児島市保健所をはじめとする県内保健所と広範囲に及ぶ市町村実習施設の準備が必要となりました。カリキュラム上の実習時期や時間の限界もあり実習期間を短縮した上に一施設当たりの実習学生がかなり増加し、実習体験項目も住民を対象とする実習体験の機会も減少し見学実習が中心となり、学習到達レベルを下げざるを得なくなったことはとても残念でした。そのような中でも、保健師教育に期待を持って体験学習の場とチャンスをくだ

さり、丁寧にご指導をくださった保健所や市町村の保健師諸姉に感謝申し上げます。

数年前に指定規則の変更に伴い保健師課程が必修から選択に変更され、保健師コースの学生が制限された結果、保健師活動に興味を持つ学生を対象に充実した実習体験の機会が増え、充実した教育環境となり大学教育における保健師教育の見直し・改善がなされていると思います。

個人的な意見ですが、私は保健師免許が大学院修士レベルにアップすることを応援する一人です。というのも、保健師課程の必修化は看護における基礎教育のレベルアップと地域看護の理解者の増加には貢献したかもしれませんが、決して地域看護の専門性のレベル向上には至らなかったと、教育にかかわった一人として後悔しているからです。

鹿児島県における保健師教育は昭和17年に始まり全国的にも長い歴史を持って県内に多くの先輩が活躍しており、医学部附属保健師学校・医療短大専攻科の同窓会が保健学科在校生を対象に毎年セミナーを主催し、地域における保健師活動の専門性や重要性、醍醐味を伝え続けてくださっていることは、現場と教育の素晴らしい交流だと思います。卒後教育や現場教育など継続教育における大学の役割はとても大きいことから、保健学科にはこれからも鹿児島県における研究教育機関としてリーダーシップの役割を取り続けていただくことを期待します。

保健学科設置20周年を記念して、今後益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。



鹿児島大学医学部元講師 井尻 幸成

保健学科の思い出

私は2001年から5年間、保健学科基礎理学療法専攻の講師として勤務させていただきました。この間、多くの学生の皆さん、教員の皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

在籍期間には沢山の忘れられない思い出がありました。第一に思い浮かぶのは、現在当院で一緒に働いている宮崎雅司君ら保健学科一回生の学生の皆さん（宮崎雅司君、岩尾あさ子さん（旧姓）、鳥丸裕子さん（旧姓）、中尾麻里（旧姓）、岩井真紀さん（旧姓））と卒業研究をしたことです。研究の後には、宮崎君のアパートに行き、皆で鍋をつついたこともありました。（この時、独身の宮崎君が押し入れに怪しげなものを押し込み、皆にからかわれていた事を昨日のように思い出します）。次に、現在保健学科で助教をしている松田史代さんと山下真由子さんとで、英語テキストのJ D Watson 著 Recombinant DNA : Genes and Genomes の原著輪読会を毎週したことを思い出します。とても難しかったです。皆で力を振り絞って読解しました。このことが、その後の松田さんの基礎研究発展に繋がったのではないかと思います。

また、2003年から2年間、森本典夫教授のご理解とご協力を得て、BostonのBeth Israel Deaconess Medical Centerにポスドクとして留学させていただきました。私にとって、かけがえの無い人生の宝ものの時間です。軟骨細胞代謝の基礎研究でしたが、論文もpublishすることができました。森本先生、本当にありがとうございました。もう一つ忘れてならないのが、榎間春利先生との出会いです。偶然にも互いに同郷ということもあり、公私にわたり親しくしていただく友人と出会いました。彼が、2010年にMedical University of South Carolinaに留学したときも、飛行機を乗り継いで赴き、研究室を見せてもらい、ショットバーで地ビールをごちそうになりました。とても爽やかな思い出です。私は、現在は霧島市国分の地で、開業医として忙しい毎日を送っています。今こうしてあるのも、保健学科で沢山の人の出会い、豊かな時間を過ごさせていただいたからだと感じています。

紙面の都合上、限られた方々との思い出を書かせていただきましたが、あらためて保健学科でお世話になった、全ての皆様に感謝申し上げます。今後の、保健学科の益々のご発展を心より祈念いたします。

鹿児島大学医学部元助手 鳥田 美紀代

医技短と保健学科は自分の原点～感謝をこめて～

この度は、保健学科設置20周年誠にありがとうございます。私は保健学科の前身である鹿児島大学医療技術短期大学部の4期生として卒業し、鹿児島大学医学部附属病院等での数年間の臨床経験の後、平成12年から2年間臨床看護学講座に助手として在職させていただきました。短期大学から大学へ、そして大学院の設置へと、保健学科の変遷を学生や卒業生、教員など、立場を変えながら経験してきたことになるかと思えます。いずれの立場にあっても、愛着をもって母校の発展を願っておりました。

医技短時代も含めた保健学科での経験は、今の私の原点となっています。医技短を卒業する際に、鹿島友義先生、柴田恭亮先生から「在学時に修得した単位に加えて、放送大学で必要な単位を修得すれば学士の学位を目指すことがきでる」という説明を何度か受けたことを記憶しています。当時の私はその意味をあまり理解していなかったのですが、「みなさんにとって、ともに大事なこと」と熱く伝えていただいたことをよく覚えています。このときの先生方のメッセージは、自分のキャリアや進路、専門性を考える際の大きなきっかけとなりました。その後、医技短を卒業した私は、臨床で働きながら放送大学で単位を修得し、学位授与機構の制度を利用し

て学士の資格を取得しました。また、堤由美子先生には、申請のための小論文のご指導を賜りました。在学中の3年間に加え、卒業してからもなお、「どんな看護を提供したいのか」「何を大切にしたいのか」というような看護観や哲学を探求する手助けをしていただいた先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。

現在、私は大学で看護基礎教育に携わっております。丁度、学部が開設して2年目であり、学生や他の教員と共に学部の文化を築き上げていく途上にあります。先に「医技短や保健学科での経験が今の自分の原点になっている」と述べましたが、目指したい大学や教育のあり方についても同様です。たとえば、“コーヒーの香りの漂ってくる研究室”、“いつでもドアが開かれている研究室”、“教え子全員(!)の名前を覚えている先生”、“大学の将来について語れる仲間”、“卒業生が遊びにきてくれる研究室”、“看護について語り合える時間と場所”等々、私自身が鹿児島大学医学部保健学科で培った価値観を基準にしながら、教育に励んでいきたいと思えます。

最後に、医療技術短期大学部・保健学科の卒業生のご活躍と鹿児島大学医学部保健学科の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



鹿児島大学医学部元助教 増満 誠

保健学科が教師としての原点

保健学科20周年おめでとうございます。

私は前身の医療技術短期大学部看護学科9期生で、平成16年から5年間保健学科看護学専攻臨床看護学講座精神看護学の助手・助教をしておりました増満と申します。

さて、今振り返りますと、教師としての駆け出しの5年間、さまざま経験をさせていただきました。今年で教師として15年目を迎える私にとって、その礎を築いていただいた保健学科には感謝の言葉しかありません。

感性の教育を目指す私にとって、同志である同僚・上司や大学院生、学生との対話の日々は知性と感性に多くの刺激となり、また病院や地域の方々など多くの方との出会いをいただきました。現在は、大学教師としても中堅となり、若手看護教師の塾を主宰し、教育にまつわるあらゆることの伝承や創造、そして社会への発信に邁進しております。

また保健学科は学生とともに成長する「共育」や「教育の場（空間・時間）を演出する」原点でもあ

ります。先日、教師1年目の時から交流のある教え子の結婚式ではスピーチもさせていただきました。教師にとって教育の真の評価を実感することは少ないですが、このような経験が一つの評価だとも思っています。そして、新入生オリエンテーションや卒業論文発表会、公開講座などあらゆる教育や社会貢献の場面に携わる中で、そのような場を演出する力も養うことができたと思っています。

さらに、看護同窓会「つめくさ会」の事務局担当もさせていただきました。附属看護学校と医療技術短期大学部看護学科、そして保健学科の同窓会を一本化するという先輩方の思いを形にする作業をお手伝いさせていただきました。

最後に、現在は福岡県立大学におりますが、鹿児島大学医学部保健学科のご活躍はあらゆるところで誰よりもアンテナを張り巡らし応援しております。これからも、学科の益々の発展を祈念するとともに関係の皆さまのご清祥を祈念しお祝いのメッセージとさせていただきます。



鹿児島県精神保健福祉センター所長 竹之内 薫

鹿児島大学医学部保健学科設置 20周年に寄せて

今回鹿児島大学医学部保健学科設置20周年を迎えられまして、誠にありがとうございます。

私は現在、赤崎安昭教授のご依頼により、鹿児島大学医学部保健学科作業療法専攻の学生さんへ、私の所属している鹿児島県精神保健福祉センターの業務や精神保健福祉に関する講義を、平成27年より担当させていただいております。作業療法士の方々は精神医療の分野では、精神障害者の生活改善や社会復帰へ向けての活動を支えるという点で大きな力を発揮していただいているところです。また以前私が所属していました鹿児島県立始良病院の医療観察法病棟では、対象者へチームを作って対応するのですが、作業療法士もその一員として重要な役割を担っています。今後もチームの一員として働ける優秀な作業療法士を育てていただけることを望んでおります。また当センター含め鹿児島県においても多くの保健師が働いております。地域の精神保健分野でも重要な役割を担っており、今後も優秀な保健師を育てていただきたいと思っております。

赤崎教授は、鹿児島大学医学部神経精神医学教室の同門であり、学生の指導はいうまでもなく、司法精神医学の研究に大変ご熱心で、県内外の司法関係者や精神医療関係者を巻き込んだ鹿児島司法精神医学勉強会と鹿児島司法精神鑑定人研究会を継続して開催しています。日本司法精神医学会研修教育委員も務められ、また鹿児島精神病理・精神療法研究会も率先して運営されており、今後も鹿児島県だけでなく日本の司法精神医学や精神病理の分野をリードしていただきたいと願っております。

赤崎教授の前に教授をされていた榎本貞保先生は、残念ながら病気でご逝去されましたが、榎本先生も同教室の同門であり私が入局時や在局時には大変お世話になりました。なかなか視点が鋭い先生で、私が医学生時代精神医学の講義を担当され、その内容が大変印象に残っています。ご冥福をお祈りいたします。

それから私的な事で大変恐縮ですが、学科長の米和徳教授には、鹿児島大学医学部硬式テニス部の大先輩としてご指導いただきました。西医体後の旅行など連れて行っていただき大変かわいがっていただいた思い出があります。また私の鹿児島大学医学部同期の新地洋之先生と沖利通先生も教授としてご活躍で大変頼もしい気持ちでいっぱいです。最後になりましたが、今後も鹿児島大学医学部保健学科の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念しております。



加世田病院 リハビリテーション部 部長 堀木 周作

大学も学科も人によってつくられよう

私は、鹿児島大学医療技術短期大学部設立のころから、作業療法学生の臨床実習のお手伝いをさせて頂いています。そこから年月を経て、医学部保健学科となってからはすでに20年が経ったわけですね。この間、個人的には宮崎県作業療法士会や鹿児島県作業療法士会の理事や臨床実習指導者として作業療法学科の多くの人と関わりを持たせていただいています。平成10年の保健学科設置以降もこの流れは続いていて、数多くの作業療法学専攻の学生と、臨床実習生や卒業後は同業の仲間として関わりを持たせて頂いています。卒業生の中には、現在でも作業療法士協会の活動などとおして、ふれあう機会や場を頂いている方が数多くいますが、これまでに関わりのあった彼たちが、鹿児島県内はもとより全国各地で医学医療の進歩と国民の健康の保持や福祉の増進のために、この学科で学んだことを十分に発揮しながら活躍している様子を目にすると、喜びとともに大変嬉しく思えてきます。

鹿児島大学医学部の教育理念は、「人間性豊かな」、「地域に貢献する」、「研究心旺盛な」、「国際的視野に立つ」医学・医療の担い手を育成することであると聞いております。20周年という時を振り返るとともに、意欲にあふれる在学生や保健学科出身の先輩たちの臨床実践のようすも思い浮かべられます。とくに先輩たちは、出身校の隔てを越えて、作業療法を学んでいる者同士で、互いに切磋琢磨し、医学医療さらには福祉や保健領域で、社会参加をする者と

して必要な知識、技能、倫理観をさらに高めながら修得醸成しています。これからも周囲の仲間たちに対して「ここに鹿児島大学医学部保健学科あり」と知らしめてゆく気概を持ち続け行くでしょうし、それがこれからも保健学科の力となり、更なる高みを目指しながら人心を引き寄せる、力ある存在として在り続けさせるのだらうと思います。

一般に、歴史や組織は人によって創られるといいますが、まさしく大学も学科も在学生や教職員をはじめ、卒業生や臨床指導者、またそれらの人々を支えてくれる周囲の人々の存在と、受け入れてくれる状況や環境によって成り立っています。組織や人のつながりを介した「仕組み」と「エネルギー」があることでその創発性はさらに勢が増すように、歴史や組織によって人は活かされ、人によって歴史や組織が形作られてきます。これからも鹿児島大学の保健学科が、ますます創造的かつ価値ある存在として私たちと共に在ってほしいと思います。

鹿児島大学医学部保健学科の設置20周年を迎えるにあたり、これからも作業療法学専攻の学生や教職員の方々、あるいは卒業生を通じて共に成長し、お互いの人生を楽しみながら充実したものにしてゆければと思っています。微力ではありますが今後も尽力させていただく所存です。

最後になりましたが、鹿児島大学医学部保健学科の設置20周年おめでとうございます。

歴

History

20周年記念祝賀会

沿革

組織・機構

教員の勤務年表

歴代保健学科長・名誉教授

鹿児島大学医学部保健学科設置20周年記念祝賀会

日時／2018年10月5日（金）18時50分～ 場所／ホテル・レクストン鹿児島

当日は、設置以前からこれまで本学科に関わってこられた歴任教職員の先生方をはじめ、各職能団体長や医学部長、父母会長、各同窓会長を含む総勢100名を超える皆様にご臨席を賜りました。保健学科設置20周年記念事業準備委員長 堤由美子より開会の辞が述べられ、河野嘉文医学部長の挨拶に続き、県医師会会長 池田琢哉様、県看護協会会長 田畑千穂子様、県理学療法士協会会長 梅本昭英様、県作業療法士協会会長 竹田寛様よりご祝辞をいただきました。

挨拶・開会の辞



記念事業準備委員長 堤由美子看護学専攻代表



河野嘉文医学部長

来賓祝辞



県医師会会長 池田琢哉様



県看護協会会長 田畑千穂子様



県理学療法士協会会長 梅本昭英様



県作業療法士協会会長 竹田寛様

来賓紹介



(左から)
 看護同窓会つめ草会
 会長 宇治野由美子様
 保健師同窓会しおさい会
 会長 徳永龍子様
 助産師同窓会
 会長 片平久美子様
 保健学科同窓会 理学療法学専攻部会
 会長 宮崎雅司様
 保健学科父母会
 会長 小牟田さとみ様
 保健学科同窓会 作業療法学専攻部会
 副会長 黒木貴博様

乾杯・歓談

保健学科長 米和徳より乾杯の挨拶があり、歓談が始まりました。各専攻の代表学生によるキャンパスライフ紹介では、保健師同窓会しおさい会会長 徳永龍子様、保健学科同窓会理学療法学専攻部会会長 宮崎雅司様、作業療法学専攻部会副会長 黒木貴博様よりそれぞれコメントをいただきました。



学生ダンスサークル「KIRCH」によるダンスパフォーマンスが披露されるなど、終始和やかな雰囲気の中で20周年を迎えることのできた喜びを共に語り合う貴重なひとときとなりました。

会は、初代保健学科長の名誉教授 銚之原昌先生による万歳三唱により、盛会のうちに終了いたしました。



■ 万歳三唱 ■



鹿児島大学医学部保健学科
設置20周年記念祝賀会 会次第

<p>一 開会の辞</p> <p>二 あいさつ</p> <p>三 来賓祝辞</p> <p>四 来賓紹介</p> <p>五 乾杯</p> <p>六 学生アトラクション</p> <p style="padding-left: 20px;">(一) キャンパスライフ紹介</p> <p style="padding-left: 20px;">(二) ダンスパフォーマンス</p> <p>七 万歳三唱</p> <p>八 閉会の辞</p>	
--	--



保健学科退職教員及び関係者のご来賓

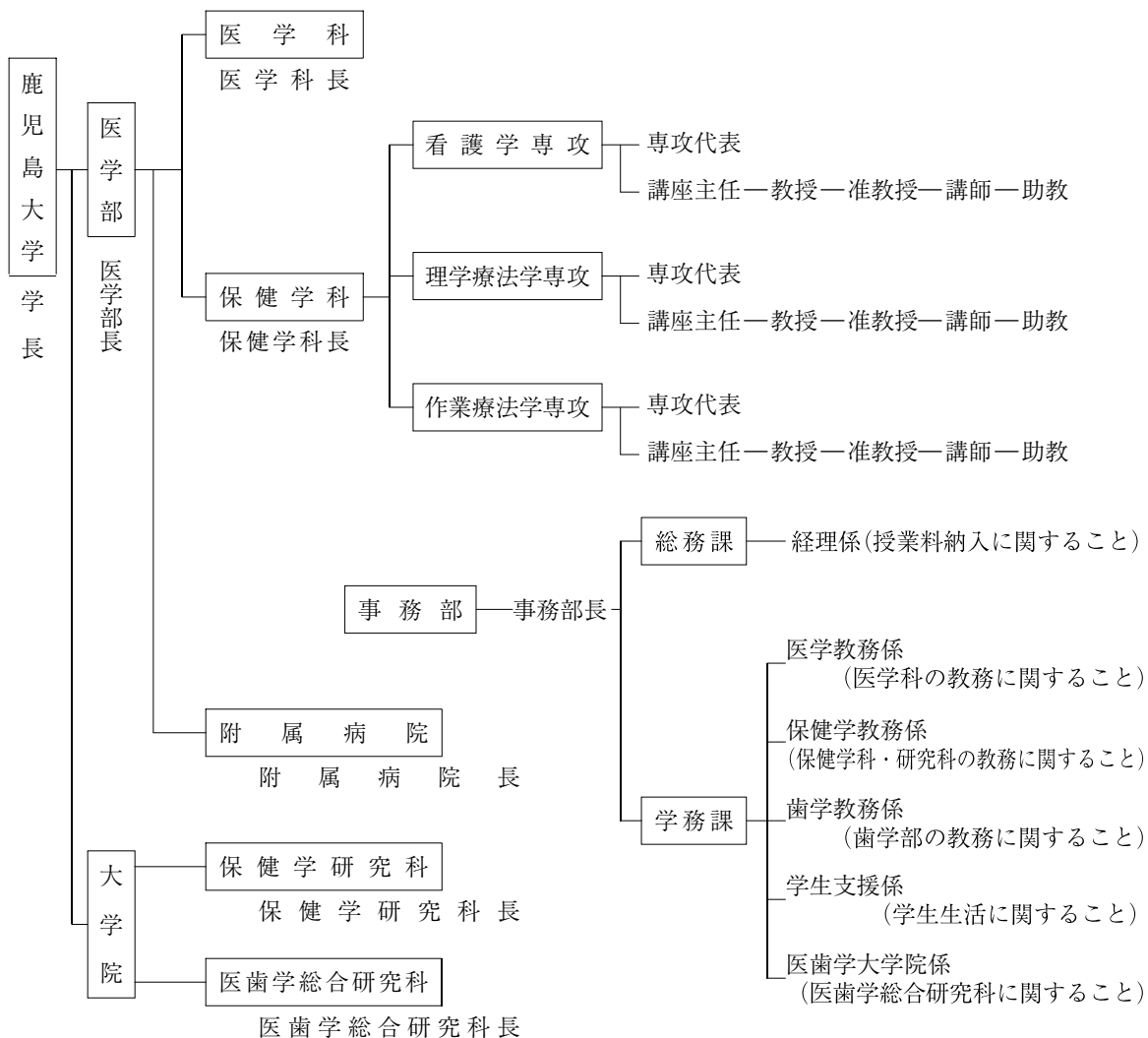


保健学科現教員とご来賓

沿革

- 平成10年10月 医学部保健学科設置（看護学専攻80名、理学療法学専攻20名、作業療法学20名、計120名）
- 平成11年 4月 保健学科1期生（120名）入学
- 平成15年 3月 第1回卒業式を挙行
- 平成15年 4月 鹿児島大学大学院保健学研究科修士課程保健学専攻（入学定員22名）を設置
看護学領域に基礎看護・地域看護学分野及び臨床看護学分野、理学療法・作業療法学領域に理学療法学分野及び作業療法学分野を設置
- 平成17年 4月 鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程保健学専攻設置に伴い鹿児島大学大学院保健学研究科修士課程保健学専攻を鹿児島大学大学院保健学研究科博士前期課程保健学専攻に改称
鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程保健学専攻（入学定員6名）を設置
保健看護学分野、神経運動障害基礎学分野、臨床精神神経障害学分野を設置
- 平成24年 4月 大学院保健学研究科博士前期課程放射線看護専門コース設置（2名）
- 平成25年 4月 大学院保健学研究科博士前期課程助産学コース設置（7名）
- 平成26年 9月 島嶼・地域ナース育成センター設置
- 平成30年 4月 看護学専攻の講座を3講座に編成（基幹看護学講座、地域包括看護学講座、成育看護学講座）

組織・機構



教員の勤務年表（平成21年度～平成30年度）

	平成30年 2018年	平成29年 2017年	平成28年 2016年	平成27年 2015年	平成26年 2014年	平成25年 2013年	平成24年 2012年	平成23年 2011年	平成22年 2010年	平成21年 2009年	年度	
	看護学専攻の講座再編										保健学科 主な出来事	
	米 和徳		木佐真 彰			岸野 佳和		吉田 愛知		学科長		
	梶 由美子		藤野 敬則	新地 洋之	新地 洋之	木佐真 彰	梶 由美子	木佐真 彰		専攻代表		
国際看護学専攻	講座再編	総合基礎看護学講座										
						吉田 愛知						教授
		八代利香										
		柏成 裕子										
		中俣 直美									講師	
		山口 さおり										
	今村 圭子			吉本 なを						助教		
	田中 久美子	楠元 裕佳			持留 里奈			白川 真紀				
国際看護学専攻 看護学専攻	講座再編	臨床看護学講座										
		木佐真 彰									教授	
		梶 由美子										
		丹羽 さよ子										
		綿方 重光										
		新地 洋之									准教授	
		清水 佐智子										
		宇 麗瑛			志々目あゆみ			宇 麗瑛		中尾 育子		
		西本 大葉			徳村 富貴子						助教	
		益満 智美		福田 ゆかり	関口 いづみ		杉野 朋子					
	久松 美佐子			日隈 利香(今村 利香)								
				瀧田 静子			増満 誠					
	講座再編	母性・小児看護学講座										
国際看護学専攻 看護学専攻		吉留 厚子									教授	
		沖 利通			藤野 敬則							
		根路紹 安仁		武井 修治								
		中尾 優子									准教授	
		山本 麗子			下敷嶺 須美子							
		井上 尚美									講師	
		山下 早苗										
		田中 一枝	高田 久美子			黒江 奈央			石走 知子		助教	
		水野 晶美		中尾 夕佳		若松 美貴代		大迫 由紀				
		講座再編	地域看護・看護情報学講座									
国際看護学専攻 看護学専攻		財部 マ子子		丸谷 美紀			財部 マ子子		大友 優子		教授	
		波多野 浩道										
		米増 直美									水上 椎文	
		児玉 慎平									講師	
		森 陽子										
		大野 佳子									助教	
		青山 恵										
		福留 麗子			南郷 泰士			鈴木 麗子				
		野中 弘美		濱田 万寿代		日隈 利香						
		島崎・地域ナース育成センター									特任准教授	
	金子美千代			末永真由美								
	豊田静子			金子美千代						特任講師		
										特任助教		
	大重 匡		米 和徳		吉元 洋一		米 和徳		吉田 義弘		専攻代表	
基礎看護学専攻	講座再編	基礎看護学専攻										
		徳口 逸郎									教授	
		牧迫 飛雄馬		前田 哲男								
		神岡 春利			神岡 春利			内尾 康人			准教授	
		大渡 昭彦			大渡 昭彦							
		川田 将之		木山 良二							助教	
臨床看護学専攻	講座再編	臨床看護学専攻										
		米 和徳									教授	
		大重 匡			吉田 義弘							
		吉元 洋一									准教授	
		福留 清博										
		木山 良二			大重 匡						助教	
	窪田 正大	赤崎 安昭		熊瀬 誠		岩瀬 義昭		熊瀬 誠		専攻代表		
基礎作業療法専攻	講座再編	基礎作業療法専攻										
		窪田 正大									教授	
		窪田 正大		岩瀬 義昭			窪田 博文					
		内尾 ホーブ									講師	
		窪田 正大										
		池田 由里子	丸田 道雄		池田 由里子						助教	
	吉満 孝二											
臨床作業療法専攻	講座再編	臨床作業療法専攻										
		赤崎 安昭									教授	
		赤崎 安昭		栗野 佳和			榎本 貞保					
		奈良 進弘		熊瀬 誠						講師		
		井上 和博										
		井上 和博			井上 和博						助教	
	柳田 信彦											

教員の勤務年表（平成11年度～平成20年度）

平成20年 2008年	平成19年 2007年	平成18年 2006年	平成17年 2005年	平成16年 2004年	平成15年 2003年	平成14年 2002年	平成13年 2001年	平成12年 2000年	平成11年 1999年	年度	
	助教→准教授、助手→助教に名称変更		保健学研究科博士後期課程設置		保健学研究科設置	共通教育棟使用開始 第1回都山大学(韓国)訪問	医療技術短期大学部開校	韓国群山大学学術交友協定締結	保健学科1期生入学	保健学科 主な出来事	
濱田 博文		坂江 清弘		森本 典夫		鉾之原 暁				専攻代表	
木佐真 彰											
総合基礎看護学講座											
吉田 愛知											
八代 利香		栗 サトウ									教授
		岩崎 法雄									
		松成 裕子			西坂 和子			中野 栄子			助(准)教授
中俣 直美		宮藤 夏美									講師
		山口 さおり						仙田 恭子			助手(助教)
吉本 なを					津田 智子						
白川 真紀					柳川 育美		久保 育美				
臨床看護学講座											
木佐真 彰											
石塚 隆											
緒方 重光								松元 イソ子			教授
丹羽 さよ子		堀 由美子									
		清水 佐智子						緒方 重光			助教授
					丹羽さよ子			堀 由美子			
								奥 祥子			講師
								丹羽 さよ子			
中尾 育子		中俣 直美									助手(助教)
徳村 富貴子		白川 真紀		徳村 富貴子		堀内 宏美					
		今村 利香			白浦 瑞江			櫻元 美紀代			
		増満 誠			島元 敬志						
		杉野 朋子			林 愛子						
母性・小児看護学講座											
藤野 敬則											
吉留 厚子		田邊 恵子					堀川 睦子			教授	
		武井 修治					鉾之原 暁				
		下敷領 須美子						嶋田 紀典子			助(准)教授
		井上 尚美						下敷領 須美子			
山下 早苗				横川 裕美子					鳥越 郁代		講師
				石走 知子					中村 優子		
		若松 美貴代					田畑 裕子			助手(助教)	
		白水 美保					井上 尚美				
							下川床 麗		宇部 弘美		
地域看護・看護情報学講座											
波多野 浩道											
								小野 皇吾			教授
								沖 壽子			
小林 奈美		坂田 由美子									助(准)教授
					水上 惟文			宇部 由美子			
兒玉 慎平					小林 奈美			尾上 佳代子			講師
大野 佳子											
森 陽子		山本 真梨子		兒玉 慎平					朝倉 貴子		助手(助教)
				大野 佳子					高田 麗子		
坂之上 香											
富貴田 泉子											
吉田 龍弘		前田 哲男		坂江 清弘			森本 典夫		専攻代表		
基礎理学療法学講座											
坂江 清弘											
		前田 哲男			内尾 廣人						教授
神岡 春利											
					井尻幸成						助(准)教授
					大渡 昭彦						講師
					木山 良二						
臨床理学療法学講座											
米 和徳					森本 典夫						教授
					吉田 龍弘						
					吉元 洋一						助(准)教授
					福留 清博						
					大重 匡						講師
								佐々木 順一			
松田 史代					神岡 春利						助手(助教)
岩瀬 善昭		藤瀬 誠		安楽 満男		櫻本 貞保		濱田 博文		専攻代表	
基礎作業療法学講座											
濱田 博文											
								安楽 満男			教授
岩瀬 善昭											
								岩瀬 善昭			助(准)教授
池田 由美子					内尾 ホープ		窪田 正大			講師	
								有川 康子			
					吉満 孝二						助手(助教)
臨床作業療法学講座											
櫻本 貞保											
					深野 佳和						教授
藤瀬 誠											
								藤瀬 誠			助(准)教授
					幸福 圭子						講師
					井上 和博						
					柳田 信彦			米田 ゆき子			助手(助教)

看護学専攻

理学療法学専攻

作業療法学専攻

歴代保健学科長

年度	氏名	専攻	講座
平成10年10月1日			
平成11年	銚之原 昌	看護学専攻	母性・小児看護学講座
平成12年			
平成13年	銚之原 昌	看護学専攻	母性・小児看護学講座
平成14年			
平成15年	森本 典夫	理学療法学専攻	臨床理学療法学講座
平成16年			
平成17年	坂江 清弘	理学療法学専攻	基礎理学療法学講座
平成18年			
平成19年	濱田 博文	作業療法学専攻	基礎作業療法学講座
平成20年			
平成21年	吉田 愛知	看護学専攻	総合基礎看護学講座
平成22年			
平成23年	深野 佳和	作業療法学専攻	臨床作業療法学講座
平成24年			
平成25年	木佐貫 彰	看護学専攻	臨床看護学講座
平成26年			
平成27年	木佐貫 彰	看護学専攻	臨床看護学講座
平成28年			
平成29年	米 和徳	理学療法学専攻	臨床理学療法学講座
平成30年			

名誉教授（授与年度）

- 平成12年 山元 篤朗（看護学専攻）
- 平成17年 森本 典夫（理学療法学専攻）
- 平成18年 岩橋 法雄（看護学専攻）
- 平成19年 嶋田 紀膺子（看護学専攻）
- 平成20年 坂江 清弘（理学療法学専攻）
- 平成22年 水上 惟文（看護学専攻）
- 平成23年 濱田 博文（作業療法学専攻）
- 平成24年 内尾 康人（理学療法学専攻）
- 平成25年 吉田 愛知（看護学専攻）
- 平成25年 吉田 義弘（理学療法学専攻）
- 平成27年 波多野 浩道（看護学専攻）
- 平成28年 岩瀬 義昭（作業療法学専攻）
- 平成28年 深野 佳和（作業療法学専攻）
- 平成28年 吉元 洋一（理学療法学専攻）
- 平成29年 武井 修治（看護学専攻）
- 平成29年 前田 哲男（理学療法学専攻）

鹿児島大学の名誉教授一覧に公開を希望された方のみ掲載しております。



専

Department

専攻の紹介

科学研究費補助金採択一覧

看護学専攻紹介

看護学専攻代表 堤 由美子

本看護学専攻の前身は、昭和25年に、現行の保健師助産師看護師法により設置された県立病院附属看護学校です。初代教務主任の今村節子先生は、その閉校記念誌に、学校創設時から大学化に向け、教育の主体性確保の方策を講じ、昭和38年に鹿児島大学等関係機関に「看護大学昇格に関する陳情書」を提出したと記されています。このように看護教育の高等教育実現は、鹿児島県の看護職の長年の悲願というべきものでした。

昭和60年の医療技術短期大学部の設置も、大学化への過渡的段階と位置づけられていました。私が医技短設置3年目に助手として採用された当時も、大学化への気運は受け継がれ、看護系教員は、大学教員に相応しい学位取得と研究業績獲得が、重要な責務とされていました。しかし、看護の高等教育機関が整わない中で、学位を取得し、学会誌に掲載される研究論文を作成していくことは、まさに“道なき道を行く”感もありました。それでも前進できたのは、当時の田中弘充医学部長をはじめとする先生方、他学部の先生方の大所高所にわたる御支援によりです。これにより博士や修士の学位取得者がでてきて、大学化の話が具体化していきました。

一方、医技短の大学昇格には、大学院設置可能な教員確保が条件であり、看護学修士の授与を可能とする最低6名の看護専門職の④（大学設置審で2名の審査員が一致して合格と判定）教員が必要である等、具体的情報が入ってくるようになりました。

当時の医技短部長の銚之原先生が不足する人材を求めて全国行脚される姿は、現職の看護教員では不十分というメッセージにもなり、申し訳なさと、自分が審査不合格となり大学化への道を阻む事態にならないよう、同僚と励ましあいながら論文作成に取り組む、非常に張り詰めた日々を過ごしました。

その一方、看護の大学教育カリキュラム作成は、自分達が受けたかった教育、実現したい教育を、参加教員で思う存分語り合う非常に貴重な機会となり

ました。同時に、語り合ったことを体系化し、形にする生みの苦しみも体験しました。そうして作成したカリキュラム案が、文科省に承認された時の達成感、安堵感はこの上ないものでした。

このように先輩諸氏から引き継いだ悲願が叶って、また数多くの関係者の方々の努力によって保健学科看護学専攻は設置されました。しかし設置後もその歩みを止めることはなく、この20年間では、大学院博士前期課程と後期課程を有する看護の高等教育機関としての礎を築きました。そして、社会状況の変化、看護実践の高度化に伴い、博士前期課程に平成24年には、放射線看護専門コースを、平成26年には助産学コースを設置し、助産師教育課程を学部から大学院教育課程へと移行しました。

さらに、平成26年度には、文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に、本専攻が応募した「地域での暮らしを最期まで支える人材養成—離島・へき地をフィールドとした教育プログラム—」が採択されました。その運営拠点として、島嶼・地域ナース育成センターを設置し、地域での暮らしを支える看護職育成を、事業終了年度となる平成30年度まで取り組んできました。本教育プログラムは、平成31年度以降は、博士前期課程に島嶼地域看護学コースを開設し、引き継いでいきます。

本専攻は、設置当初、総合基礎看護学、臨床看護学、母性・小児看護学、地域看護・看護情報学の4講座でスタートしました。しかし、高等教育機関としての真価をより一層発揮するには、社会状況の変化に先進・発展的に対応し、地域社会に貢献する人材育成、高度看護実践に資する研究が必要です。

そこで、平成30年度から、基幹看護学講座、成育看護学講座、地域包括看護学講座の3講座に再編しました。今後は、この3講座体制で、未来を切り拓いて参ります。



島嶼・地域ナース育成センター

副センター長：丹羽さよ子

センター概要

鹿児島大学医学部では、平成26年度に文部科学省が公募した「課題解決型高度医療人材養成プログラム」として「地域での暮らしを最期まで支える人材養成—離島・へき地をフィールドとした教育プログラム—」が採択された。この教育プログラムは、超高齢社会を迎えている我が国の地域包括ケアシステムを支える看護職の育成を目指したものである。「島嶼・地域ナース育成センター」は本教育プログラムの運営拠点として平成26年10月に開設され、平成30年度までの5年間、看護学専攻教授2名（兼任）と特任教員2名および事務補佐員1名で、以下の教育を実施してきた。

教育プログラムの概要と実績

1) 学部生と社会人のための教育プログラム

本プログラムは、学部生が4年次と卒後3年間で地域での暮らしを支えるための基礎的能力の習得を目指す「ベーシックコース」と、3年以上の臨床経験を有する看護職（社会人）が、3年間で病院での退院支援および在宅での暮らしを最期まで支えることができる能力の習得を目指す「アドバンスコース」から成る。両コースともに、修了時にはその能力を証明する履修証明書を本学から交付される。

2) カリキュラムの特徴

本カリキュラムにおいて、地域での暮らしを支える看護職に必要な能力として「その人らしさを尊重する能力」「地域の資源やサービスと繋ぐ能力」「状況・環境に応じた工夫ができる能力」「必要な医療・ケアを計画・実施できる能力」「専門職として自己研鑽する能力」を設定し、これらの能力育成に必要な講義・演習および実習を実施した。講義17科目に

ついては、自宅でも受講できるようにeラーニングとした。

また、本プログラムの大きな特徴は、「離島・へき地をフィールドとした教育」である。鹿児島県の離島・へき地は、少子高齢化、医師や医療資源の不足・偏在化、高齢者を地域で支える人材不足という、日本の諸問題を先駆けて経験している一方、合計特殊出生率は全国平均より高く、地域互助システムが機能している。つまり、いのちの誕生から看取りまでを、住み慣れた地域社会で支えることができる人材育成を目指すことに適する地域特性を有している。また、限られた医療資源や環境の中で自己の看護提供に責任を持ち、適切な医療・看護を実践する能力や、倫理観や判断力など看護職としての資質など、必要な能力が育成しやすいフィールドであると言える。さらに、離島・へき地で生活している人々は独自で多様な文化（価値観、生活様式、風習等）を発展・保持しているという特性がある。つまり、離島・へき地で生活している人々を対象とし、その暮らしに密着した実習・実務研修によって、対象が独自の背景を有する「生活者」であるということにより明確に実感する体験ができるようにした。

3) 教育実績

平成27年度から履修生の募集を開始し、事業を終了する平成30年度までにアドバンスコース52名、ベーシックコース28名が本教育プログラムを修了する予定である。これまでに修了した13名のうち、4名は医療機関から地域ケアを提供する施設で勤務するようになり、また2名が離島に就職し、地域ケアを担う核となる人材としての活躍が期待されている。また、医療機関に就業している履修生は、退院支援・調整等を行う部署に配置され、対象を病院からその人の暮らしの場へ繋ぐ役割を果たすようになっている。その波及効果として、自施設での退院支援に関する委員会の立ち上げやラダー教育や研修プログラムに「在宅ケアコース」を設け、履修生が教育や委員を担当するなど、履修生の就業している施設の在宅ケアの質を向上させる活動に主体的に取り組む貢献できるようになっている。

平成31年度以降は、本プログラムの教育実績を生かし、「島嶼地域看護学コース」を保健学研究科に開設し、地域・在宅看護学の教育・研究を担う人材育成を目指すこととなる。



基幹看護学講座

講座主任 新地 洋之

講座概要

基幹看護学講座は、看護の基礎となる理論、技術等を教授する基礎看護学、成人期のライフサイクルの中心となる対象の看護を教授する成人看護学、看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復について教授する健康科学分野で構成されている。

教員紹介 / 研究活動

所属教員および研究テーマは以下の通りである。

緒方 重光（教授：2005年～）

- 口腔形態機能に関する研究
- 咀嚼筋と口腔リハビリテーションに関する研究

八代 利香（教授：2007年～）

- 看護倫理に関する研究
- 看護の人的資源に関する国際的研究
- 離島におけるヘルスケアシステムに関する研究

新地 洋之（教授：2009年～）

- がん患者に対する個別化治療
- がん予防
- がん患者の QOL と予後

松成 裕子（教授：2011年～）

- 放射線看護に関する研究
- 災害看護および地域防災・減災に関する研究
- 看護管理およびリスクマネジメントに関する研究
- 看護技術の実証的研究

清水 佐智子（准教授：2005年～）

- がんサバイバーの就業状況、収入の変化に関する経験の実態と QOL・心の健康との関連
- 身近な人を亡くした看護学生が緩和ケアの講義でつらく悲しくなった講義内容とそのとき感じ考えたこと
- 看護学生への緩和ケア教育の長期的な効果

中俣 直美（講師：2008年～）

- 難病在宅療養支援に関する研究
- 介護職員の医療ケア実施に関する研究
- 看護技術教育に関する研究

山口 さおり（助教：2005年～）

- HTLV-1 関連脊髄症患者のセルフマネジメントプロセス
- 基礎看護学領域における看護技術教育に関する研究

李 慧瑛（助教：2010年～）

- クリティカルシンキング力の育成
- 看護における自己教育力に関する研究

今村 圭子（助教：2014年～）

- 介護職者の自己効力感に関する研究
- 地域防災・減災に関する研究
- 基礎看護技術教育に関する研究

西本 大策（助教：2015年～）

- 看護師のバーンアウトとレジリエンスに関する研究
- 健康意識と脂質異常症に関する研究

田中 久美子（助教：2017年～）

- 看護師のシミュレーション教育に関する研究

教育活動

基幹看護学では、基礎看護学において看護の基礎となる理論、技術等を、成人看護学では成人期のライフサイクルの中心となる対象の看護を、健康科学では、看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復について教育している。看護の基礎から応用、つまり理論や基盤となる考え方をどう実践に適用するかということを体系的に教授している。

【基礎看護学領域】

1年次の「看護学概論」では、看護学の基本概念

および学問としての看護学の位置づけを、また、2年次の「看護理論」および「看護理論演習」では、看護理論の歴史の変遷を概観し、体系化した看護実践の学問としての看護学を教授する。3年次の「看護倫理」では、看護専門職に必要な看護倫理の基礎的知識と倫理的思考方法について事例を通して学ばせる。4年次の「看護教育学」では、看護教育制度の歴史の変遷及び現状と課題を客観視することにより、看護教育のあり方を多角的に学べるよう工夫している。また、「自分で考え勉学する力を養う形への教育」「臨床能力を高めるための教育」へシフトすることが強く求められていることから、「学生の自己教育力」や「自己効力感」を伸ばすように工夫している。1年次の「アカデミックスキルズ」では、学びの作法・技法を修得するアクティブラーニングな内容としており、2年次に行う「基礎看護技術」では、学生にクリティカルシンキングが身につくように、学習内容が自己評価できるルーブリック評価、リフレクションシートを取り入れている。3年次では「フィジカルアセスメント」「総合看護活動論」を統合科目とし、事例展開により、既習の知識を統合し、臨床推論させ、学生はシナリオを作成し、実演することで実践力を養う工夫をしている。

【成人看護学領域】

「緩和ケア論」では、死を意識して生きる患者が抱える、種々の辛さにも寄り添うことができる看護師の育成をはかっている。授業は毎回ワーク・演習・ビデオ視聴などを導入し、患者の心情を理解して看護を考えることができるよう工夫している。

社会貢献

主な活動内容について列記する。

◆ 現任教育支援

「筋萎縮性側索硬化症（ALS）療養者の在宅支援」（2004年～、保健学科公開講座）「研究計画書の書き方と研究における倫理」（2010年～2017年、保健学科公開講座）、日本緩和医療学会教育・研修委員会 ELNEC-J WPG ELNEC-J 講師 WG 員、日本緩和医療学会看護職セミナー WPG 員

◆ 学会活動

日本看護倫理学会第6回年次大会大会長および事務局（2013年）、日本看護倫理学会理事長・評議員、日本消化器外科学会評議員、日本肝胆膵外科学会評議員、日本膵臓学会評議員、日本放射線看護学会理事、日本緩和医療学会代議員、日本放射線看護学誌編集委員長・委員、日本消化器外科学会雑誌査読委員、日本がん看護学会代議員・専任査読委員、他

◆ 各種委員会活動

国立大学保健医療学系代表者協議会看護学分科会幹事長（2014年）、日本看護系大学協議会高度実践看護師認定委員会放射線看護分科会委員、Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing Digital Transformation Committee 委員、鹿児島県看護協会学会委員会委員長・看護管理者教育運営委員会委員、鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員会委員、鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討委員、鹿児島市防災専門アドバイザー委員、「看護科学研究」編集委員会副委員長・専任査読委員、Surgery Today 査読委員、他

◆ 講演・講習会

かごしま国際看護フォーラム（4回開催）、国際セミナー（5回開催）、医学部主催国際セミナー、鹿児島県医師会「災害医療講習会：原子力災害」講師、日本看護学校協議会第30回学会シンポジウム講師、出前講義（三州病院、種子島医療センター）、特別支援学校における特定認証交付のための喀痰吸引等講習会、特定認証交付のための喀痰吸引等講習会、3号研修（医療ケア）更新研修、他

◆ 研究支援

鹿児島大学病院、鹿児島市医師会病院

◆ その他

地震・火山防災センター「防災教育推進部門」における防災研究・防災教育の活動の実践



成育看護学講座

講座主任 根路銘 安仁

講座概要

当講座は2018年度より母性・小児看護学講座から、成育看護学講座に名称変更を行いました。「成育」の概念は、受精から胎芽、胎児、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期と小児期を経て、生殖可能な成人期、それを取り巻く社会環境を含めた次世代育成のサイクルを示します。

現在「健やか親子21」で、「切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策」、「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」、「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」の基盤課題が挙げられています。

その看護の中心となる母性看護分野と小児看護分野と言えます。この両分野が緊密に連携し、次世代育成を支援する看護を提供できるよう教育研究を行っています。また、高い実践力と地域のニーズに応じた周産期医療や母子保健のマネジメントができる人材を育成するため助産師育成課程も大学院で担当しています。

教員紹介 / 研究活動

現在の講座の各教員の役職に対する就任年度と主な研究テーマについて、教員ごとに示します。順番は、役職・着任順としております。各教員の研究テーマを関連させて相乗効果を図っていきたくと考えています。

吉留 厚子（教授：2007年～）

- 母乳哺育に関する研究
- 望まない妊娠を防止する研究
- 育児支援に関する研究

中尾 優子（教授：2014年～）

- 授乳期の乳房管理
- 超音波診断法による乳房管理
- 乳離れの研究

沖 利通（教授：2016年～）

- 婦人科良性疾病患（子宮内膜症・筋腫など）
- 東洋医学
- 内視鏡手術
- 内分泌・生殖補助医療

根路銘 安仁（教授：2017年～）

- HTLV-1母子感染対策
- 子どもの死亡検証制度導入
- 小児医療体制
- 小児看護教育

山本 直子（准教授：2016年～）

- 母乳育児に関する研究
- 子育て支援に関する研究

井上 尚美（講師：2004年～）

- 助産師教育における地域志向型学生育成プログラムの開発
- 母性看護学実習における倫理カンファレンス

若松 美貴代（助教：2006年～）

- 周産期のメンタルヘルスに関する研究
- 妊娠期からの産後うつ病・虐待予防のための支援システム開発

水野 昌美（助教：2017年～）

- 小児がん患児の告知の現状と看護師のジレンマ

田中 一枝（助教：2017年～）

- 異所性妊娠により妊娠が中断された患者につき添う看護師の思い
- 遠隔地在住のため面会が困難な母親への愛着形成ツールの開発

教育活動

母性看護学分野では、吉留、中尾、沖、井上、若松、田中が「母性のフィジカルアセスメント」、「母性看護学概論」、「母性ケア論Ⅰ」、「母性ケア論Ⅱ」、「母性看護学実習」を担当しています。ディベート・グループワークを用いてアクティブ・ラーニングを行っています。また、大学院助産学コースの院生をティーチングアシスタントとして演習を実施しています。

小児看護学分野では、根路銘、山本、水野が「小児健康論」、「小児健康論演習」、「小児看護学概論」、「小児ケア論」、「小児看護学実習」を担当しています。特色として、小児の正常発達を体験学習するため保育所実習を2年前期で行っています。

専門支持教育科目では、沖と根路銘が「生命倫理と医療」、「生命科学基礎」、「解剖生理学」、「疾病論」等を担当して教えています。

統合分野では、「総合テーマ実習」や「遺伝と看護」を担当しています。

本年度より教育支援サービスの manaba® が全学で導入されたのに伴い、講座全教員が教育に活用しています。respon® でのリアルタイムで双方向性コミュニケーションをとりより深い学びに繋がるアクティブ・ラーニングを行っています。

また、助産師養成課程においても、講座全体で取り組んでいます。

社会貢献

講座として「助産師の専門的実践のために必要な知識・スキル」(年間4回)、「良い看護師になるために必要なスキルを身につけよう」(年間3回)、第30回南日本子ども健康セミナーを、講座の教員を講師として開催しました。

第30回全国助産師教育協議会九州・沖縄地区会議、第66回九州学校保健学会、第32回鹿児島県小児保健学会を開催しました。第31回鹿児島県母性衛生学会、小児糖尿病生活指導講習会、離島での産科救急トレーニングの講習会を手伝いました。

鹿児島県母性衛生学会、鹿児島県小児保健協会、鹿児島子どもの虐待問題研究会の事務局も担当して

います。

各教員は、社会貢献活動として、本年度下に示す通りの学外における全国・県・自治体等の各種役職、講演をしました。数が多いため、主な内容と該当数を示させていただきます。

吉留 厚子

- 各種役職・委員会13 ・講演5
- 日本看護協会助産師職能委員
- 日本助産学会代議員
- 日本看護倫理学会代議員 等

中尾 優子

- 各種役職・委員会10 ・講演5
- 日本助産学会代議員 等
- 平成30年度県立病院認定看護師ネットワーク研修会 等

沖 利通

- 各種役職・委員会11 ・講演4
- 日本生殖医学会鹿児島県会長 等

根路銘 安仁

- 各種役職・委員会7 ・講演13
- 鹿児島県小児保健協会会長 等
- 第5回日本HTLV-1学会学術集会市民公開シンポジウム シンポジスト等

山本 直子

- 各種役職・委員会2 ・講演3
- 鹿児島市南部親子つどいの広場たにっこりんで育児相談員他
- 平成30年度生涯学習県民大学講座で講演他

井上 尚美

- 各種役職・委員会4 ・講演11
- 日本看護倫理学会評議員 等
- 女性健康相談従事者研修会 等

若松 美貴代

- 各種役職・委員会3 ・講演12
- 助産師職能委員会 等
- 産婦健康診査事業実施に伴う精神科・産婦人科第2回合同研修 等

田中 一枝

- 各種役職・委員会2
- 鹿児島県助産師会 教育委員会 等



地域包括看護学講座

講座主任 丹羽 さよ子

講座概要

当講座は、公衆衛生看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、看護情報学の分野からなり、看護の対象を地域における生活者という視点で捉え、多職種連携のもとで、その健康の保持増進・早期発見・回復支援・悪化予防・在宅療養支援を一連とする、包括的な看護を展開するための教育・研究に取り組むことを目指している。

教員紹介 / 研究活動

木佐貫 彰（教授：1999年～）

- 循環器領域の内科学及び看護学
- 超音波医学と看護学

堤 由美子（教授：2001年～）

- がん患者の病いの体験に寄り添う看護
- 援助関係を構築する看護技術の開発
- 精神障害者の地域生活支援

丹羽 さよ子（教授：2007年～）

- 高齢者の QOL に関する看護研究
- 高齢者および脳卒中患者の視機能と生活障害に関する研究

財部 マチ子（特任教授：2018年～）

- 保健師活動に関する研究

米増 直美（准教授：2016年～）

- 保健師活動に関する研究

兎玉 慎平（講師：2003年～）

- 看護のリスクマネジメントに関する研究

森 隆子（助教：2007年～）

- 小規模島嶼における看護実践モデルの開発

稻留 直子（助教：2013年～）

- 小規模離島における地域の風土を活かした発達障がい児療育支援体制の構築

久松 美佐子（助教：2014年～）

- 化学療法中がん患者・家族への看護
- 精神障害者の地域在宅移行・継続支援

益満 智美（助教：2016年～）

- 高齢者のフレイルに関する研究

野中 弘美（助教：2017年～）

- 乳がん患者の心理と看護

教育活動

(1) 公衆衛生看護学領域：主に保健師養成に関わっている領域です。地域を基盤にした看護活動、すなわち保健師の活動により発展してきた看護学の理論、活動方法論を教授している。学生にとっては、保健師という存在はなじみが無く、地域を対象とした看護活動というのもイメージが持ちにくい。そこで、具体的な保健師による看護展開の実践例を解説したり、映像教材を活用している。また身近な社会の出来事やニュースを素材にし、学生が地域社会への関心を高めたり、人々の健康と地域社会の繋がりについて考察を深められるようにしている。

(2) 老年看護学領域：高齢者を対象にしたケアで重要なことは、「その人らしい生活をいかに維持させることができるか、そして安らかな終末にいかにソフトラディングさせることができるか」である。しかし、高齢者ケアの実態をみると、老年期の心身の特徴を十分に踏まえた、高齢者の目線に立ったケアが行われているとはいえない状況が多く見られる。また、「老年期」をどう生きるかは高齢者にとって人生の集大成として非常に切実な問題であるにもかかわらず、他人からの世話が必要になった状態では、老年期を生きる場所や生き方、そして死ぬ場所や死に方を、高齢者の多くが自分の意思で選択できていないのが現状である。よって、講義・演習と、認知高齢者を対象としたグループホームとリハビリテーション回復期病棟での実習により「高齢者の目

線に立ったケアを考えられ、最期までその人らしい生活を支援できる人材の育成」を目指している。

(3) 精神看護学領域：精神看護学では、人々の心の健康の保持・増進、また心の健康が脅かされている人や心の病いを有する人の健康回復の手助けをしたり、その人らしさを発揮した生活が送れるようになるための支援や病いの再発予防などに関して質の高い看護実践ができる人材の育成を目指して教育に取り組んでいる。そして、精神看護では、ケアにおいて物理的なものを用いることは少なく、看護師自身がケアの“中心的道具”となることから、その質を高めるために他者との交流を通しての自己洞察、自己理解を重視し、看護場面において各自の特性を活かした効果的な関わりができるよう演習・実習を通して実践的な学習ができるようにしている。また、精神看護の対象を人として尊敬し、ケアできるようになるには、倫理的感性が不可欠であるため、知的な学習の後に事例を通して思考する時間を設け、自身が倫理的場面に直面したときにどのように判断し行動していくかを検討する機会を作っている。

(4) 在宅看護学領域：講義・演習と、訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどでの実習により「人々が住み慣れた地域で最期まで“その人らしく”暮らし続けることを支える」できる能力育成を目指している。これは、ただ、在宅・地域でのその人らしい生活を支える看護職の育成ではなく、たとえ、急性期の医療施設でも、入院している患者の家での生活、本来の姿を把握し、入院することによって生じる「有害事象」を最小限に抑え、病院での治療が終わったらスムーズにその人の暮らしの場に戻れるよう支援できる看護職、つまり「対象を病院からその人の暮らしの場へ繋ぐ役割」を担える看護職の育成も視野に入れている。

社会貢献

活動・支援内容を列挙する。

◆現任教育支援

現任保健師に関する教育支援、鹿児島県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル講習、鹿児島県看護協会保健師職能委員、ELNEC-J コアカリキュ

ラム看護師教育プログラム（県内看護師）、ストレスマネジメント（鹿児島県新人看護職員研修責任者研修）、メンタルヘルスマネジメント（鹿児島県新人看護職員研修実地指導者研修）、がん患者の心の軌跡に寄り添うケアを求めて（鹿児島医療センター公開講座）、危機的状態の患者・家族の看護（慈愛会今村病院・分院・谷山病院看護部研修会）、人材育成の基礎知識（日本看護協会ファーストレベル研修会）、ALS患者の障害受容と患者家族の精神ケア（保健学科公開講座）リハビリテーションを目指すケア（保健学科公開講座）

◆研究支援

国立療養所星塚敬愛園看護部、国立病院機構指宿医療センター看護部、鹿児島県訪問看護ステーション協議会、南風病院看護部、米盛病院看護部、鹿児島県リハビリ看護研究会

◆論文査読等の活動実績（堤由美子）

日本看護科学学会和文誌専任査読委員、日本精神保健看護学会誌専任査読委員、日本看護学教育学会誌専任査読委員、日本看護研究学会専任査読委員

◆地域活動

さつま町乳幼児健診支援（2015-2017年度）、垂水市健康増進計画策定に関する評価分析および作成支援（2015年度）、鹿児島市介護予防のうねりを起こす会会長、NPO あなただけの乳がんではなく代表理事

◆社会における各種役職・委員会委員等

日本ルーラルナーシング学会事務局（2017年）、鹿児島県農村医学研究会幹事、日本看護科学学会和文誌統計担当専任査読委員、鹿児島県介護給付費等審査委員会委員、鹿児島県公衆衛生学会審査委員、鹿児島県看護協会監事、鹿児島県「新人看護職員卒後研修検討会」委員、鹿児島県看護協会新人看護職員卒後研修プロジェクトチーム委員、鹿児島県障害者介護給付費等不服審査会委員、鹿児島デイケア連絡協議会アドバイザー

◆NPO、NGO等への貢献実績

心の病いの看護、社会福祉法人鹿児島いのちの電話公開講座での講義（堤由美子）

理学療法学専攻紹介

理学療法学専攻代表 大重 匡



基礎・臨床理学療法学講座

専攻概要 / 教員紹介

現在の教員

教授	米 和徳	医師	2005年～
	樋口 逸郎	医師	2013年～
	榊間 春利	理学療法士	2015年～
	大重 匡	理学療法士	2016年～
	牧迫 飛雄馬	理学療法士	2017年～
准教授	福留 清博		1999年～
	大渡 昭彦	理学療法士	2015年～
	木山 良二	理学療法士	2016年～
助教	松田 史代	理学療法士	2006年～
	川田 将之	理学療法士	2016年～

研究活動

● 米 和徳

急性脊髄損傷、慢性脊髄圧迫、加齢による変性にとみなす脊髄神経細胞の変性・細胞死をアポトーシス、オートファジーをキーワードとして動物実験にて明らかにする研究を実施している。

● 樋口 逸郎

実験動物や患者生検筋を用いたサルコペニアや廃用症候群の病理学的研究を行っている。また細胞外マトリックスや骨格筋の変性および再生に関する基礎的研究、筋疾患の分子メカニズムに関する研究なども進行中である。

● 榊間 春利

保健学科開設2年目より吉田義弘先生と共に実験研究を始め、現在、大学院生と共に組織学的、分子生物学的な手法を用いて、リハビリテーションの効果やそのメカニズム解明を目的とした基礎研究を行っている。さらに基礎から臨床へのトランスレーションを目的に中枢神経疾患、運動器疾患を対象とした臨床研究を実施している。

● 大重 匡

心疾患の理学療法での早期の安全な入浴と心疾患への入浴療法の効果判定を目的とし、温浴の水質の違い、温浴方法の違い、温度設定の違いなどが、身体に及ぼす影響についての研究を実施している。また、呼吸器疾患の理学療法に関する研究、運動器疾患の理学療法に関する研究も実施している。

● 牧迫 飛雄馬

2017年より鹿児島大学・行政・地域基幹病院との協働による地域コホート研究（垂水研究）に参画している。地域在住高齢者を対象としたフレイル予防や認知症予防を目的とした心身機能の健康チェックとして運動機能、認知機能、身体組成などの評価を行い、前向きコホート研究や介入研究を実践している。

● 福留 清博

Wii バランスボードや Kinect といった、安価で普及しているゲーム・インターフェイスを重心動揺や動作分析に活用できないか、ソフトウェアを開発し検証してきた。方向性の異なるテーマとして、癒しの効果についてアザラシ様ロボットが高齢者に及ぼす影響や MRI 検査中の被験者の不安感についても研究した。現在は、動作にかかわる負担感について力学的諸量との相関、ならびに患者の運動機能評価への AI の応用、さらには口腔機能と運動機能との関係についても研究している。

● 大渡 昭彦

マイクロダイアリシスを使用した運動の効果に関

する動物実験、簡易脳波計を利用した臨床研究、高齢者を対象とした介護予防事業に関する研究を行っている。

● 木山 良二

モーションキャプチャを用い、動作中の関節や筋への負荷について研究を行っている。また、ウェアラブルセンサーを用いた動作分析について研究を行っている。

● 松田 史代

日頃私たち理学療法士が患者さんへ提供する運動療法の効果について、細胞レベルでの研究を行っている。特に運動習慣により認知症リスクを回避できるか、科学研究費等の助成金をいただき、検討している。

● 川田 将之

三次元動作解析装置、ウェアラブルセンサー等の測定機器を用いた動作分析や、筋骨格モデルシミュレーションを使用した基本動作、運動療法等における筋・関節負荷の定量化についての研究を行っている。

教育活動

本専攻では、1年次より、理学療法士としての基盤となる解剖学・生理学を教授し、さらに理学療法士の概論および基本的技能を身につけ、1年次後期末に病院での体験実習を行っている。4年間の教育課程の中に各学年で必ず1回は臨床実習を取り入れ、学内で学んだ学問を臨床へ応用させる機会を設けるとともに、理学療法・理学療法士への理解を深め、自分自身の適性についても考えさせている。また、看護学専攻・作業療法学専攻と合同チームでの実習の機会もあり、自身の専門分野のみならず、広い視点で医療を考えられるような教育を行っている。

授業については、学習の動機付けを図りつつ、双方向の学習を展開するため、講義そのものを魅力あるものにすると共に、体験活動を含む多様な教育方法を積極的に取り入れている。

学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法（アクティブ・ラーニング）を重視し、学生参加型

授業、課題解決・探究学習などを取り入れている。また、隣接する大学病院の協力を得て、講義の一部に実際の患者さまを評価する機会や、臨床実習地での指導者を外部講師として講義を行う等、臨床と教育の融合も積極的に取り入れている。

また、能動的学習として、4年次の卒業研究では、研究における倫理的配慮の教授後に、研究方法を自己で立案し、研究計画を作成し、実際にデータ収集し、得られたデータを統計処理し、結果について考察するという一連の過程を学生に課し、より主体的な学ぶ姿勢、学問の追及を行っている。発表会では2年生と3年生を同席させ質疑応答についても体験させている。これにより、大学院での研究テーマの模索が行え、高い進学率となっている。

専門科目についても、オムニバス形式で専攻内の教員がそれぞれの専門性を生かした講義が行えるように工夫し教育を実施している。

社会貢献

鹿児島県には、温帯から亜熱帯にわたる南北600キロの広大な県域に広がる26の有人離島が存在する。理学療法専攻では、甌島の訪問リハビリテーションを医学部保健学科の前身である医療技術短期大学部の1996年より、22年間、継続して行っている。また、健康増進や疾病予防（認知症予防など）の啓発を目的に鹿児島県内の一般市民向け無料配布誌（市報など）での情報発信などを積極的に行っている。

2016年から鹿児島市と協力して、介護予防体操の開発と普及活動を各地区の公民館等で行っている。

また、障がい者スポーツの分野でボランティア活動を行っている。地域での活動をメインに、練習会や試合等でのサポート活動をしている。

動作に関する研究で得られたモーションキャプチャやウェアラブルセンサー、表面筋電計などのデータを基に、臨床におけるバイオメカニクスの活かし方をテーマに公開講座を継続して開催している。もうひとつの公開講座は、保健学科設置より現在まで継続して開催し、これまでに多くの受講生が参加された。

作業療法学専攻紹介

作業療法学専攻代表 窪田 正大



基礎・臨床作業療法学講座

専攻概要 / 教員紹介

作業療法学専攻では、作業活動についての知識、障害者についての知識を系統的に習得し、臨床の現場で役に立つ実践的な技術を身につけられるように配慮した教育を行っている。また、作業療法に関連する研究ができるように研究法についての教育・指導を実施している。さらに、科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を捉え、将来の作業療法学の発展に寄与できる指導者及び教育者を育成することを教育目標に掲げている。

当専攻は、基礎作業療法学講座と臨床作業療法学講座の2講座に分かれており、教員配置は以下のようになっている。

教員紹介 (2018年)

基礎作業療法学講座

- 教授 窪田 正大 (専攻代表・講座主任)
- 教授 田平 隆行
- 助教 吉満 孝二
- 助教 池田 由里子

臨床作業療法学講座

- 教授 赤崎 安昭 (講座主任)
- 教授 築瀬 誠
- 教授 奈良 進弘
- 講師 井上 和博
- 助教 柳田 信彦

研究活動

基礎作業療法学講座では、身体障害者や高齢者に対する作業療法に関する研究を行っている。最近の研究テーマは、脳血管障害者への認知リハビリテーションに関する研究、認知症高齢者の生活行為向上に関する研究、介護ロボットを活用した認知症の見守りに関する研究、民間事業者による認知症疑いのある利用者の早期発見・早期支援に関する先駆的研究などを行っている。また、病院・施設や民間企業と連携しながら多角的・学際的な視点で研究を行っている。さらに、多数の大学院生が在籍しており、認知症患者の抑うつ症状や不安に対する注意バイアスに関する研究、自己決定の円滑化に関する脳波の研究、高齢者のナビゲーションに関する研究、脳血管障害患者のコミュニケーションに関する研究など多彩なテーマで取り組んでいる。

臨床作業療法学講座では、精神障害者や発達障害児・者に対する作業療法に関する研究、司法精神医学に関する研究を行っている。最近の研究テーマは、精神障害者に対する作業療法技法と効果判定、触法行為にいたった精神障害者の精神医学的検討、自閉症スペクトラム児の感覚・運動機能に関する研究、精神科作業療法に関する社会文化的背景要因の影響についてなどを行っている。また、精神障害者の家族会や療育現場など地域に根ざしたフィールドで研究を行っている。さらに、大学院生は精神障害者の家族会に対する調査や精神障害者の家族の実態調査などを行い、大学としての地域貢献を踏まえた研究活動を積極的に行っている。

以上、2講座で各教員の専門性を活かしながら、それぞれ領域に特化した研究を積極的に行っている。また、その研究成果を国内外に発信し、さらに科研費以外でも外部資金を獲得し、十分な研究が実施できる環境を整える努力も行っている。

教育活動

作業療法学専攻の教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を持った作業療法士を育成する。
2. 高度な専門的知識と技術を身につけ、社会の変化と多様なニーズに応じて、優れた作業療法を実現できる能力を備えた人材を育成する。
3. 科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を捉え、将来の作業療法学の発展に寄与できる指導者及び教育者を育成する。

学生は、これらの教育目標を達成するために1年次より、きめ細やかな教育を受けている。

1年次は、教養科目を中心に履修する一方で、作業療法概論、リハビリテーション概論など早期より専門科目を履修している。また、学外実習として、早期体験実習が実施されている。

2年次は、解剖生理学、疾病論などの基礎医学に関する科目を履修している。また、作業療法の専門領域である身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害について履修している。

3年次は、2年次に引き続き、より高度な専門知識と技術を身につけるために作業療法評価学や作業療法治療学に関する講義および学内実習を履修している。

4年次は、学内外病院における臨床評価実習、臨床実習Ⅰ～Ⅲが実施され、臨床における基礎的な知識や技術の習得に努めている。また、実習終了後は、作業療法研究論演習（卒業研究）や国家試験対策が集中的に行われている。

1年次から4年次まで担任・副担任を置き、必要に応じて適切な学生指導を行っている。また、国家試験対策に関しては、早期より専門教育の中で対策を講じており、過去4年間の合格率は100%である。さらに、就職に関しては、年に1回病院や施設から担当者に集まって頂き、就職説明会を開催しており、例年一人の学生に対して、20～25件の求人がある。

社会貢献

専攻の取り組みとして、2017年度より公開講座を実施している。2018年は「認知機能と生活行為リハビリテーション」、「生活障害としての高次脳機能障害」、「高齢者介護に関する福祉機器、介護ロボットの開発」の3テーマ実施した。毎回、鹿児島県内から多数の医療従事者の参加があり、社会貢献を行っている。

また、県内外の高校生に対して、入学希望者や受験生を確保するために、作業療法の魅力を伝える出前授業も行っている。

一方、各教員に対して学会、行政、法人などから講師依頼が年間50件以上あり、それぞれの教員の研究内容を中心に講演活動を積極的に行っている。また、教員の代表的な社会貢献として以下のような取り組みを行っている。

- 田平教授と吉満助教は、JICA（国際協力機構）の中小企業海外展開支援事業の案件化調査に参画し、マレーシアの介護サービスを利用している高齢者の実態調査や福祉機器の普及調査を行っている。また、大学間学術交流協定を締結しているプトラ大学老人学研究所と相互訪問を行い、学術交流を開始した。
- 窪田教授は、毎年、鹿児島高次脳機能研究会を企画運営し、また鹿児島県高次脳機能障害者支援センターと連携を図りながら家族会等の支援を行っている。
- 赤崎教授は、日本精神神経学会、日本司法精神医学会の各種委員会委員、地方労災委員協議会精神障害等専門部会・座長、鹿児島県学校教職員等健康診断諮問委員会・第二部会座長、鹿児島県国民健康保険診療報酬審査委員会・委員、鹿児島県教職員不祥事根絶委員会・委員を務めている。
- 築瀬教授は、精神障害者家族会を前身とする特定非営利活動法人鹿児島県精神保健福祉連合会や特定非営利活動法人鹿児島市精神保健福祉推進の会・かれん鹿児島の活動に参加し、支援を行っている。
- 井上講師は、発達障害児に携わる教員・保育士の専門性向上や発達障害児を持つ家族の障害理解、支援方法の習得を目的として、市社会事業協会、県特別支援学校、地区保育園協会、家族会等から依頼を受けて講演を行っている。

保健学科 科学研究費補助金採択一覧

	看護学専攻			理学療法学専攻			作業療法学専攻		
	基盤 (B・C)	若手 (A・B)	萌芽	基盤 (B・C)	若手 (A・B)	萌芽	基盤 (B・C)	若手 (A・B)	萌芽
平成19 (2007) 年度	2	4	1	1	1	0	0	0	0
平成20 (2008) 年度	5	3	1	1	2	0	0	0	0
平成21 (2009) 年度	7	2	1	2	2	0	0	0	0
平成22 (2010) 年度	5	1	1	2	1	0	0	0	0
平成23 (2011) 年度	7	2	0	3	1	0	0	0	0
平成24 (2012) 年度	8	2	0	2	1	0	0	0	0
平成25 (2013) 年度	9	3	0	2	1	0	0	0	0
平成26 (2014) 年度	10	1	0	4	0	0	0	0	0
平成27 (2015) 年度	6	1	1	5	0	0	0	0	0
平成28 (2016) 年度	6	0	2	4	0	0	1	0	0
平成29 (2017) 年度	5	1	2	6	1	1	1	0	0
平成30 (2018) 年度	6	2	0	4	1	1	1	0	0

平成30年度採択された研究課題名一覧

- 基盤研究(B) 看護基礎教育における放射線教育パッケージの製作および教育支援システムの開発
- 基盤研究(C) HTLV-1関連脊髄症患者のセルフマネジメントを査定するツールの開発
- 基盤研究(C) 長期運動介入効果が慢性脳虚血マウスの脳に与える影響について
- 基盤研究(C) 神経活動変化を基盤としたリハビリテーションアプローチの効果機序に関する研究
- 基盤研究(C) 脳梗塞発症前・後の運動療法による機能回復と神経保護メカニズム解明に関する研究
- 基盤研究(C) ウェアラブルセンサーを用いた臨床応用可能な歩行トレーニングシステムの開発
- 基盤研究(C) HTLV-1性行為感染後の母子感染の機序解明と保健指導の開発
- 基盤研究(C) 超音波画像による乳房マッサージ評価スケールの開発
- 基盤研究(C) 助産師教育における地域志向型学生育成プログラムの開発
- 基盤研究(C) 妊娠期からの産後うつ病・虐待予防のための支援システム開発
- 基盤研究(C) 抑うつや不安症状を有する軽度認知症患者に対する認知バイアス修正の効果検証
- 若手研究(A) うつ徴候および軽度記憶障害を有する高齢者に対する非薬物介入の効果検証
- 若手研究(B) 臨地実習における看護大学生の批判的思考力の変化と使用判断の傾向
- 若手研究(B) 遠隔地在住のため面会が困難な母親への愛着形成ツールの開発
- 挑戦的研究(萌芽) 健康寿命の延伸および公的介護サービス利用による介護・医療費抑制の効果に関する研究

計15件 直接経費 14,800,000円の交付を受けています。

教

Education

教育目標とディプロマ・ポリシー

授業科目及び単位数

臨床実習施設一覧

入学定員など

志願者と入学者

国家試験合格率

卒業生の進路状況

■ 教育目標とディプロマ・ポリシー ■

看護学専攻の教育目標

看護学専攻は、豊かな人間性と幅広い教養、科学的・批判的思考力を養うことにより、人々の健康と福祉の向上に貢献し、進取の精神で看護学を発展させていくことのできる看護の専門職者を育成する。さらに、グローバルな視野をもち、離島・へき地を含めた地域医療の発展に寄与できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学生は卒業時に次の能力を修得していること

1. 生活者としての人間への深い理解と高い倫理観に基づいて援助関係を築き、対象の主体性を尊重した看護実践ができる。
2. あらゆる健康レベルにある対象の看護問題を抽出し、解決に向けたケアを計画・実施・評価するために必要な知識と個々に応じた技術と態度を有し、実践できる。
3. 看護を探究し創造する自律した専門職者に必要な科学的・批判的思考力を備えている。
4. 継続的に全人的医療を提供できるように、保健医療福祉において、チーム医療を実践できる。
5. 看護の問題をグローバルな視野でとらえ、幅広く人々の健康に貢献できる。
6. 離島・へき地の地域特性を活かした看護を実践できる。

理学療法学専攻の教育目標

理学療法学専攻では、豊かな人間性を持ち、医の倫理を守り、人の尊厳を重視した優秀な医療専門職者や研究者を育成する。又、最先端の医学的知識や心理・社会学的知識を統合し、心身の障害の回復と予防に対する取り組みができる人材を育成する。更に、教育・研究者としての教養と知識を有し、次代の指導的役割を担う人材を育成する。

1. 豊かな教養と生命への畏敬を身につけた、愛情豊かな人間性を持つ専門職者を育成する。
2. 高度な専門的知識と技術を身につけ、科学性と創造性に富む柔軟な思考力を持つ専門職者を育成する。
3. 医療チームの一員として協調し、地域医療に貢献できる能力を持つ専門職者を育成する。
4. 専門性の確立を目指し、他領域の専門職と連携できる学際的能力を持つ専門職者を育成する。
5. 生涯を通して、科学的探究心を継続できる習慣・態度を持つ専門職者を育成する。
6. 幅広い社会活動や国際医療活動ができる能力を持つ専門職者を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学生は卒業時に次の能力を修得していること

1. 人体の構造と運動機能の関連付けができる。
2. 人間の機能及び代謝について理解し、疾患の発生機序や病態と障害とを関連付けできる。
3. 臨床医学の知識を個々の障害者の障害とその回復の観点から整理・統合し、機能障害の評価、再建、予防を実践できる。
4. 物理的刺激による生体反応を通じて、治療との関連付けができ、実践できる技術を身につけている。

5. 臨床に携わる一員として、チームとしての役割を理解し、チーム医療に結びつけられる理論と技術を身につけている。
6. 理学療法領域における研究を積極的に推進し、医療のみでなく保健・福祉全般に貢献できる基礎的能力を身につけている。
7. 国際的な視野を持ち、理学療法学に関する国際的交流ができる基礎的能力を身につけている。
8. 学生生活全般において後輩学生を指導できる能力を身につけている。

作業療法学専攻の教育目標

作業療法学専攻では、生命の尊厳を理解し、心身に障害をもつ人々の生活支援を行うために必要な豊かな人間性と倫理観を持った作業療法士を育成する。また、高度な専門的知識と技術を身につけ、社会の変化と多様なニーズに応じて、優れた作業療法を実現できる能力を備えた人材を育成する。更に、科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を捉え、将来の作業療法学の発展に寄与できる指導者及び教育者を育成する。

1. 豊かな教養と感性を持ち、人間性豊かな作業療法士を育成する。
2. 高度な専門的知識と技術を身につけ、科学的根拠に基づく柔軟な判断能力と問題解決能力を有する作業療法士を育成する。
3. チーム医療を担う一員として、職種間の相互理解を深めながら緊密な連携を実践できる作業療法士を育成する。
4. 医療・保健・福祉のニーズに幅広く対応でき、また地域に貢献できる作業療法士を育成する。
5. 指導者及び教育者としての基礎的能力を持った作業療法士を育成する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学生は卒業時に次の能力を修得していること。

1. 幅広い教養を学び、人間性豊かな医療専門職に必要な基本的能力を有している。
2. 人体の構造と機能、心身の発達及びリハビリテーションの概念を理解し、医学的基礎知識を習得している。
3. 疾患の発生機序や障害の構造を理解し、臨床医学に必要な専門的な知識と技術を習得している。
4. 身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害に対する作業療法に関して、個々の障害の理解とその回復の観点から評価及び治療を展開できる知識と技術を習得している。
5. 臨床実習を通して、作業療法士に必要な知識と技術及び態度を習得している。
6. 科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を展開できる能力を有している。
7. 医療専門職の一員として、他の職種と連携・共働し、医療・保健・福祉のニーズに対応できる知識と技術を習得している。

理学療法専攻：授業科目及び単位数

卒業要件単位数

分類・授業科目等		修得すべき単位数	
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	10単位
		グローバル教育科目	6単位
	選択必修科目	教養教育科目(教養基礎科目)	12単位
		教養教育科目(教養活用科目)	4単位
	共通教育科目合計		32単位
専門教育科目等	専門支持教育科目必修	16単位	
	専門支持教育科目選択	7単位	
	専門教育科目必修	66単位	
	専門教育科目選択	3単位	
	専門教育科目等合計	92単位	
修得単位数総合計		124単位	

授業科目及び単位数等

区分	授業科目	単位数		授業時間数								備考		
		必修	選択	1年1期	1年2期	2年3期	2年4期	3年5期	3年6期	4年7期	4年8期			
専門教育科目	国際関係論	1						30						
	医療英語	1					30							
	臨床心理学	1					30							
	人間発達学	1						15						
	生命と物理	1					30							
	生命と化学	1				30								
	生命倫理と医療	1		15										
	チーム医療論Ⅰ	1		15										
	チーム医療論Ⅱ	1							15					
	チーム医療論Ⅲ	1										15		
	人間と微生物	1				30								
	健康教育論Ⅰ	1							15					
	疫学Ⅰ	1							15					
	薬と健康	1						30						
	社会と健康	1							15					
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1							15					
	スポーツ心理学	1							15					
	解剖生理学Ⅰ	1		30										
	解剖生理学Ⅱ	2				60								
	解剖生理学Ⅲ	1				30								
解剖生理学Ⅳ	1				30									
解剖生理学Ⅴ	1				30									
解剖生理学実習Ⅰ	2						90							
解剖生理学実習Ⅱ	1						45							
リハビリテーション概論	1		15											
疾病論Ⅳ	1					30								
医療情報学	1					15								
理学療法概論	1		30											
基礎理学療法	1				30									
病理学総論	1				30									
臨床神経精神医学Ⅰ	1				30									
物理療法学	1				30									
物理療法学実習	1						45							
生活環境制御学	1					15								
神経学	1					30								
疾病論Ⅰ	1					30								
疾病論Ⅱ	1						30							
疾病論Ⅲ	2					30	30							
運動学	1					30								
運動学実習	1						45							
臨床運動学	1							30						

区分	授業科目	単位数		授業時間数								備考		
		必修	選択	1年1期	1年2期	2年3期	2年4期	3年5期	3年6期	4年7期	4年8期			
専門教育科目	日常生活動作学	1						30						
	整形外科Ⅰ	1						30						
	整形外科Ⅱ	1							30					
	身体機能評価Ⅰ	1							30					
	身体機能評価Ⅱ	1								30				
	身体機能評価実習	1									45			
	身体機能・画像診断学	1									30			
	運動系理学療法学	1									30			
	運動系理学療法学実習	1										45		
	スポーツ傷害理学療法学	1								30				
	スポーツ医学概論	1										15		
	小児理学療法学	1								30				
	小児理学療法学実習	1										45		
	呼吸循環系リハビリテーション医学	1								30				
	呼吸循環系理学療法学実習	1										45		
	義肢装具学	1									30			
	義肢装具学実習	1										45		
	神経系理学療法学	1										30		
	神経系理学療法学実習	1										45		
	リハビリテーション医学	1										15		
理学療法学研究論	1										30			
地域理学療法学	1										30			
高次神経障害治療学	2										45			
消化血液代謝系理学療法学	1										15			
早期臨床体験実習	1						45							
理学療法体験実習	1								45					
検査測定実習	1									45				
総合臨床実習Ⅰ	2											90		
総合臨床実習Ⅱ	8											360		
総合臨床実習Ⅲ	8											360		
チーム医療実習	1											45		
症例研究法演習	1											30		
卒業研究	3												90	
救急医学	1								30					
医学心理学	1								15					
スポーツ生理学特論	1										15			
老年期心身機能障害学	1										30			
合計		82	17											

作業療法学専攻：授業科目及び単位数

卒業要件単位数

分類・授業科目等		修得すべき単位数	
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	10単位
		グローバル教育科目	6単位
	選択必修科目	教養教育科目（教養基礎科目）	12単位
		教養教育科目（教養活用科目）	4単位
	共通教育科目合計		32単位
専門教育科目等	専門支持教育科目必修	17単位	
	専門支持教育科目選択	3単位	
	専門教育科目必修	67単位	
	専門教育科目選択	5単位	
	専門教育科目等合計	92単位	
修得単位数総合計		124単位	

授業科目及び単位数等

区分	授業科目	単位数		授業時間数								備考								
		必修	選択	1年1期	1年2期	2年3期	2年4期	3年5期	3年6期	4年7期	4年8期									
専門教育科目	国際関係論		1									30								
	医療英語		1									30								
	臨床心理学		1									30								
	カウンセリング論		1									30								
	人間発達学		1									15								
	生命と物理		1									30								
	生命と化学		1									30								
	人間と微生物		1									30								
	生命倫理と医療		1									15								
	チーム医療論Ⅰ		1									15								
	チーム医療論Ⅱ		1									15								
	チーム医療論Ⅲ		1									15								
	健康教育論Ⅰ		1									15								
	疫学Ⅰ		1									15								
	社会と健康		1									15								
	保健医療福祉行政論Ⅰ		1									15								
	薬と健康		1									30								
	スポーツ心理学		1									15								
	専門教育科目	解剖生理学Ⅰ		1								30								
		解剖生理学Ⅱ		2								60								
解剖生理学Ⅲ			1								30									
解剖生理学Ⅳ			1								30									
解剖生理学Ⅴ			1								30									
解剖生理学実習Ⅰ			2								90									
解剖生理学実習Ⅱ			1								45									
リハビリテーション概論			1								15									
疾病論Ⅳ			1								30									
運動学			1								30									
運動学実習		1								45										
臨床運動学		1								30										
病理学総論		1								30										
臨床神経精神医学Ⅰ		1								30										
臨床神経精神医学Ⅱ		1								30										
リハビリテーション医学		1								15										
専門教育科目	疾病論Ⅰ		1							30										
	疾病論Ⅱ		1							30										
	疾病論Ⅲ		2							30	30									
	神経学		1							30										
	整形外科Ⅰ		1							30										
	整形外科Ⅱ		1							30										
	作業療法学概論		1							30										
	作業療法研究論		1							30										

区分	授業科目	単位数		授業時間数								備考								
		必修	選択	1年1期	1年2期	2年3期	2年4期	3年5期	3年6期	4年7期	4年8期									
専門教育科目	基礎作業学		1									30								
	基礎作業学実習Ⅰ		1									45								
	基礎作業学実習Ⅱ		2									90								
	身体障害作業療法学		1									30								
	身体障害作業療法学実習		1									45								
	精神障害作業療法学		1									30								
	精神障害作業療法学実習		1									45								
	発達障害作業療法学		1									30								
	発達障害作業療法学実習		1									45								
	老年期障害作業療法学		1									30								
	高次神経障害治療学		2									45								
	地域作業治療学		1									30								
	身体障害評価学		1									30								
	身体障害評価学実習		1									45								
	精神障害評価学		1									30								
	精神障害評価学実習		1									45								
	発達障害評価学		1									30								
	発達障害評価学実習		1									45								
	専門教育科目	身体障害生活技術論		1								30								
		身体障害生活技術論実習		1								45								
精神障害生活支援論			1								30									
補装具学			1								30									
補装具学実習			1								45									
早期臨床体験実習			1								45									
臨床評価実習			1								45									
臨床実習Ⅰ			6																270	
臨床実習Ⅱ			6																270	
臨床実習Ⅲ			6																270	
専門教育科目	チーム医療実習		1								45									
	身体機能・画像診断学		1								30									
	救急医学		1								30									
	医学心理学		1								15									
	老年期心身機能障害学		1								30									
	スポーツ生理学特論		1								15									
	呼吸循環系リハビリテーション医学		1								30									
	作業療法研究論演習		4																120	
	合計		84	17																

■ 実習施設一覧 ■

保健医療機関をはじめ、行政・保育・教育施設を含めた多くの皆様のご尽力により実習を受け入れていただいております。

医療法人 愛誠会 昭南病院	医療法人 博悠会 博悠会温泉病院
医療法人 天百合会 訪問看護ステーション優美	医療法人 平和会 平和会訪問看護ステーション
医療法人 一誠会 三宅病院	医療法人 明昌会 福田病院
医療法人 一誠会 都城新生病院	医療法人 明輝会 よしの訪問看護ステーション
医療法人 猪鹿倉会 パールランド病院	医療法人 安松整形外科
医療法人 菊野会 菊野病院	医療法人 陽善会 坂之上病院
医療法人 玉昌会 加治木温泉病院	医療法人 楽山会 児玉整形外科クリニック
医療法人 玉昌会 高田病院	医療法人 良生会 豊島小児科
医療法人 敬親会 豊島病院	医療法人 和風会 加世田病院
医療法人 兼垂会 橋口整形外科	医療法人財団 浩誠会 霧島杉安病院
医療法人 康成会 植村病院	特定医療法人社団 三光会 誠愛リハビリテーション病院
医療法人 三愛会 三愛病院	一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団
医療法人 三州会 大勝病院	潤和会記念病院
医療法人 三心会 西田病院	一般社団法人 藤元メディカルシステム 藤元総合病院
医療法人 参篤会 高原病院	一般社団法人 藤元メディカルシステム 藤元病院
医療法人 慈圭会 八反丸リハビリテーション病院	社会医療法人 愛仁会 愛仁会訪問看護ステーション
医療法人 慈風会 厚地脳神経外科病院	社会医療法人 鹿児島愛心会 大隅鹿屋病院
医療法人 慈風会 厚地リハビリテーション病院	社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター
医療法人 慈風会 介護老人保健施設 鴨池慈風苑	社会医療法人 恒心会 恒心会おぐら病院
医療法人 慈風会 グループホーム みま森	社会医療法人 慈生会 ウェルフェア九州病院
医療法人 術徳会 霧島整形外科病院	社会医療法人 青雲会 青雲会病院
医療法人 春風会 田上記念病院	社会医療法人 天陽会 中央病院
医療法人 春陽会 中央病院	社会医療法人 博愛会 相良病院
医療法人 慈和会 大口病院	社会医療法人 緑泉会 米盛病院
医療法人 仁愛会 仁愛会病院	公益社団法人 いちょうの樹 メンタルホスピタル鹿児島
医療法人 青仁会 池田病院	公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
医療法人 碩済会 加治木記念病院	公益社団法人 鹿児島共済会 訪問看護ステーションみなみ風
医療法人 蒼風会 こだま病院	公益社団法人 鹿児島県看護協会
医療法人 中山整形外科	公益社団法人 鹿児島県看護協会
医療法人 天翔会 鹿児島中央訪問看護ステーション	訪問看護ステーションかごしま
医療法人 徳洲会 鹿児島徳洲会病院	公益社団法人 川内市医師会 川内市医師会立市民病院
医療法人 ナカノ会 ナカノ訪問看護ステーション	公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院
医療法人 日章会 南鹿児島さくら病院	公益財団法人 鹿児島県民総合保健センター
医療法人 博康会 アクラス中央病院	公益財団法人 慈愛会 今村総合病院

公益財団法人 慈愛会 笹貫訪問看護ステーション愛の街	ひなた スマイルケアサポーターズ株式会社 訪問看護ステーションひなた
公益財団法人 慈愛会 谷山病院	
公益財団法人 昭和会 今給黎総合病院	株式会社 キュアコネクト 訪問看護ステーションてあて
社会福祉法人 恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会 なでしこ訪問看護ステーション	有限会社 リハシップあい 九州電力川内原子力発電所
社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団 鹿児島みなみ保育園	公立八女総合病院企業団 公立八女総合病院
社会福祉法人 鹿児島市社会事業協会 玉里保育園	出水総合医療センター
社会福祉法人 旭生会きゅあステーション旭生会	霧島市立医師会医療センター
社会福祉法人 恵仁会 特別養護老人ホーム長寿園	薩摩川内市下甕手打診療所
社会福祉法人 向陽会 ひまわり病院	十島村立宝島へき地診療所
社会福祉法人 向陽会 やまびこ医療福祉センター	垂水市立医療センター 垂水中央病院
社会福祉法人 小鳩会 きよみ保育園	日本赤十字社 鹿児島赤十字病院
社会福祉法人 桜ヶ丘福祉会 コスモス認定こども園	福岡県立精神医療センター太宰府病院
社会福祉法人 慈愛会 おひさま保育園	鹿児島市長寿あんしん相談センター（17施設）
社会福祉法人 寿康会 訪問看護ステーション寿康園	鹿児島市保健センター（5施設）
社会福祉法人 仁愛会 和田保育園	鹿児島市立病院
社会福祉法人 清豊福祉会 御所こども園・御所風の子こども園	鹿児島市立東谷山保育園
社会福祉法人 塔ノ原福祉会 錦ヶ丘保育園	鹿児島市立真砂保育園
社会福祉法人 中江報徳園 グループホームサンひまわり	鹿児島県立始良病院
社会福祉法人 二葉園 二葉園保育所	鹿児島県立大島病院
社会福祉法人 紫原福祉会 つくし保育園	鹿児島県こども総合療育センター
社会福祉法人 めぐみ福祉会 めぐみ保育園	鹿児島県内地域振興局・各市町村（全域）
社会福祉法人 山鳩福祉会 ユズリ葉の杜保育園	独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター
社会福祉法人 ユーミー福祉会 やなぎの保育園	独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター
社会福祉法人 わかば福祉会 桜ヶ丘保育園	独立行政法人 国立病院機構 南九州病院
鹿児島医療生活協同組合 総合病院 鹿児島生協病院	国立大学法人 鹿児島大学病院
鹿児島医療生活協同組合 生協訪問看護ステーションたにやま	国立大学法人 鹿児島大学保健管理センター
鹿児島医療生活協同組合 サテライト訪問看護むらさきばる	国立大学法人 鹿児島大学教育学部附属小学校
宗教法人 本願寺鹿児島別院 西本願寺紫原保育園	国立大学法人 宮崎大学医学部附属病院
宗教法人 セブンスデー・アドベンチスト教団 神戸アドベンチスト病院	

なお、誌面の都合上、現在（2018年度）の実習施設を中心に掲載させていただきました。ご了承ください。

■ 入学定員など ■

(1) 入学定員

学科	専攻	入学定員	講座名
保健学科	看護学専攻	80名	基幹看護学, 成育看護学, 地域包括看護学
	理学療法学専攻	20名	基礎理学療法学 臨床理学療法学
	作業療法学専攻	20名	基礎作業療法学 臨床作業療法学

(2) 3年次編入学定員

学科	専攻	第3年次編入学定員	講座名
保健学科	看護学専攻	10名	基幹看護学, 成育看護学, 地域包括看護学
	理学療法学専攻	5名	基礎理学療法学 臨床理学療法学
	作業療法学専攻	5名	基礎作業療法学 臨床作業療法学

(3) 学位

本学科に4年以上在学し、所定の単位数を修得して卒業の要件を備えた者について、看護学専攻の者は、学士（看護学）、理学療法学専攻・作業療法学専攻の者は学士（保健学）の学位が与えられます。



演習・講義風景



- 教員間の親睦も深めつつ -

■ 志願者と入学者 ■

保健学科各専攻の志願者数と入学者数、志願倍率を示す（表1・図1）。志願倍率は現在4倍前後である。2004年度以降に志願倍率が減少しているが、これは当該年度からセンター入試科目を5教科5科目から5教科7科目へ変更した影響が考えられる。また、同年以降、県内外に理学療法士・作業療法士の養成校が増え、看護大学も増えていることも要因として考えられる。

表1 各年度における各専攻の志願者数と入学者数

年度	看護		理学		作業		年度	看護		理学		作業	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者		志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
1999	254	80	200	20	142	20	2009	279	80	64	21	71	21
2000	446	80	179	20	119	20	2010	254	81	66	20	68	20
2001	326	80	175	21	76	20	2011	329	80	106	20	159	20
2002	369	81	232	20	131	20	2012	257	80	113	20	75	20
2003	334	81	150	20	159	20	2013	317	81	74	20	63	20
2004	177	80	97	20	80	20	2014	271	80	113	20	77	20
2005	282	80	107	20	79	20	2015	258	80	80	20	101	20
2006	263	80	118	20	76	20	2016	312	80	73	20	75	20
2007	247	80	98	20	45	21	2017	244	80	48	20	93	20
2008	361	80	95	20	61	20	2018	377	80	80	20	79	20

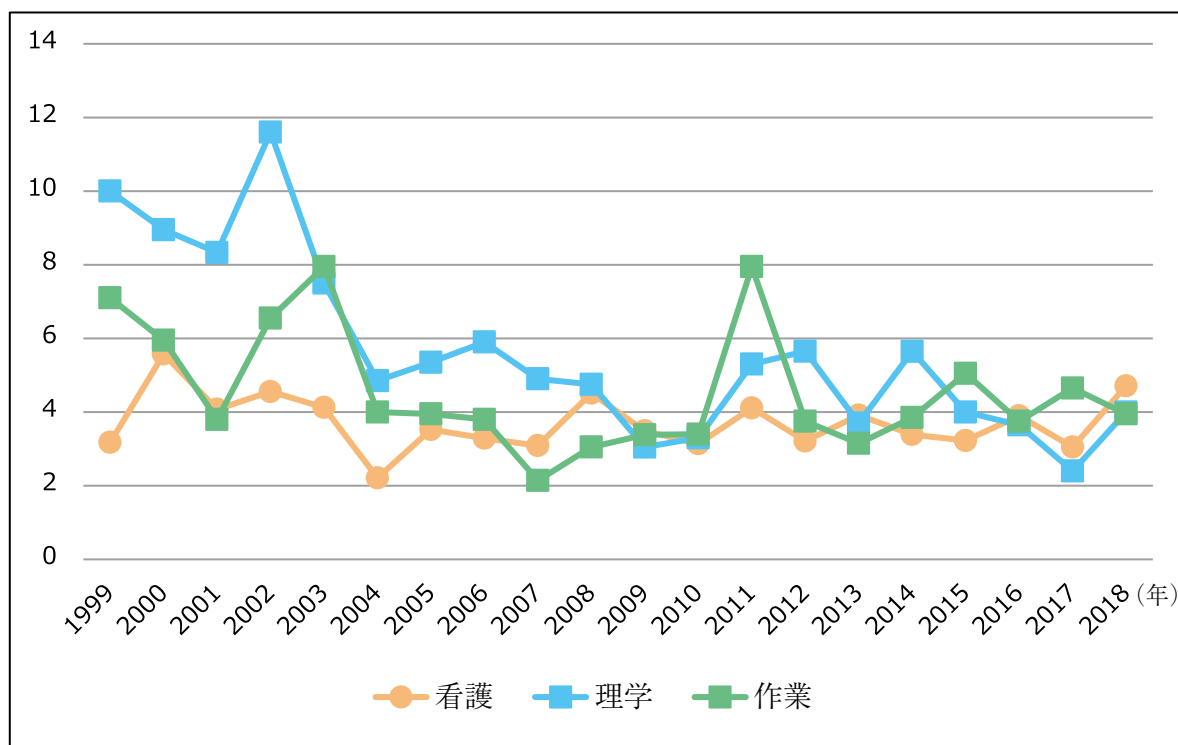


図1 各年度の各専攻志願倍率 (倍)

卒業生の進路状況

	期	卒業年度	卒業 者数	就職者数							進学 者数
				鹿児島県	九州(鹿児 島県以外)	中国・ 四国	近畿	中部	関東	東北・ 北海道	
看護学専攻	1	14	86	28	18	2	3	0	21	0	2
	2	15	91	31	31	1	1	0	19	0	6
	3	16	91	30	20	1	4	0	23	0	4
	4	17	84	33	21	1	5	1	18	0	3
	5	18	87	40	27	2	2	2	5	0	2
	6	19	85	42	26	1	2	2	6	0	2
	7	20	87	38	21	0	1	5	14	0	2
	8	21	89	34	23	1	1	5	21	0	0
	9	22	86	36	29	1	3	2	11	1	2
	10	23	89	35	31	0	6	1	11	0	0
	11	24	86	39	33	0	1	0	8	0	0
	12	25	88	44	26	1	2	0	10	1	2
	13	26	88	46	19	0	7	0	14	0	2
	14	27	91	44	24	0	0	0	10	0	8
	15	28	83	44	18	0	3	1	7	0	9
	16	29	82	44	13	0	3	0	9	0	8
理学療法専攻	1	14	23	13	3	2	2	0	2	0	0
	2	15	20	4	11	1	1	0	1	0	0
	3	16	29	16	7	1	0	1	1	0	2
	4	17	21	7	5	2	0	1	1	0	4
	5	18	24	8	9	0	4	0	0	0	3
	6	19	23	8	4	0	1	0	0	0	7
	7	20	21	1	5	1	1	0	0	0	10
	8	21	22	6	9	0	2	2	1	0	2
	9	22	23	6	7	1	1	0	1	1	4
	10	23	23	7	15	0	1	0	1	0	2
	11	24	20	7	2	0	3	0	1	0	1
	12	25	20	10	3	0	2	0	1	0	2
	13	26	20	8	8	1	0	0	0	0	3
	14	27	20	10	1	1	0	0	2	0	4
	15	28	21	10	5	1	2	0	1	0	1
	16	29	23	16	1	0	1	0	1	0	4
作業療法専攻	1	14	17	8	7	0	2	0	0	0	0
	2	15	19	9	10	0	0	0	0	0	0
	3	16	22	6	11	2	3	0	0	0	0
	4	17	17	11	5	1	1	0	0	0	1
	5	18	21	7	10	1	3	0	0	0	0
	6	19	19	8	8	0	1	0	2	0	1
	7	20	18	10	7	0	1	0	0	0	1
	8	21	23	9	12	0	2	0	0	0	1
	9	22	20	14	5	0	1	0	0	0	0
	10	23	20	9	8	1	1	0	1	0	1
	11	24	17	10	4	1	2	0	0	0	0
	12	25	19	4	8	3	3	1	0	0	1
	13	26	20	9	9	0	2	0	0	0	1
	14	27	19	9	5	0	2	0	3	0	1
	15	28	19	7	9	3	0	0	0	0	0
	16	29	20	6	11	1	2	0	0	0	1

※看護学専攻1～5期生は、平成21年度発行同窓会名簿に基づく参考数。

※進路先は卒業時点での学生の申告に基づくため、申告がない者あるいは進路未定の場合はデータに含まれない。



交

International Relations

国際交流

■ 国 際 交 流 ■

1. 各専攻における国際交流

看護学専攻

韓国の中央大学校赤十字看護大学（CAU）と本学は2012年に学術交流協定を締結し、以降双方向の交流を毎年実現しています。締結前の2011年と2012年にも本学の学生海外研修支援事業において4名ずつの学生を派遣しており、これまでの本学からの派遣学生は計40名、派遣教員は計11名、CAUからの本学への受入学生は計30名、受入教員は計8名です。交流プログラムにおけるこれまでの研修成果は、鹿児島大学医学部保健学科紀要第22巻、25巻、26巻、27巻（2編）、28巻において報告しています。交流プログラムの内容は、両国の保健医療施設の実地見学および研修の他、看護学部生が受講している講義と看護技術演習への参加およびディスカッションを行っています。双方向の交流を通して学生は、韓国の看護教育および保健医療制度を知ることにより、より深く日本の教育と保健医療のあり方を考えることができ、将来、国際的視野で活躍できる看護師の育成において高い効果を得ています。教員の交流としては、2013年に本学で開催した学術交流協定締結記念講演¹⁾に当時の学部長である Kyung Sook Choi 教授および看護科学研究所長である Soong-nang Jang 教授を招聘しました。また、第4回かごしま国際看護フォーラム²⁾に Ogcheol Lee 教授を講師の一人として招聘しました。本学からは、CAUが主催した2012年の International Conference³⁾に八代利香教授、および2013年の Annual International Forum⁴⁾に当時の看護学専攻代表である新地洋之教授が招聘され、講演を行いました。2015年には鹿児島大学病院が中央大学病院と交流協定を締結し、看護職の双方向の交流が実現しています。

2018年からは、大学の世界展開力強化事業が学術振興会に採択されたことにより、米国の Berea College を含めた3カ国における学生交流が実現します。

- 1) The Commemorative Lecture for the Conclusion of the Academic Exchange Agreement between Red Cross College of Nursing, Chung-Ang University and Faculty of Medicine, Kagoshima University, Jan. 21, 2013.
- 2) The 4th Kagoshima International Nursing Forum: Rural and Disaster Nursing in Islands and Remote Areas, Feb. 6, 2016.
- 3) The International Conference: Globalization and Nursing Education, Nov. 16, 2012.
- 4) The Annual International Nursing Forum: Bridging the Gap between Research, Education and Practice in Nursing, Dec. 13, 2013.

鹿児島大学学生海外研修支援事業採択実績

年度	授業科目名	支援人数	派遣期間	派遣国
平成23	看護教育学	4	平成23年8月31日～9月4日	韓国
平成24	看護教育学	4	平成24年9月12日～9月16日	韓国
平成25	地域ケア論	4	平成25年9月4日～9月8日	韓国
	基礎看護学演習◆	1		
平成26	国際看護学	6	平成26年8月30日～9月4日	韓国
	助産学特論◆	2		
平成27	国際看護学	6	平成27年8月30日～9月6日	韓国
	離島看護学	6	平成27年8月30日～9月7日	アメリカ
	公衆衛生看護管理論I	5	平成28年2月14日～2月20日	フィリピン
平成28	緩和ケア論	6	平成28年9月4日～9月9日	韓国
	家族看護論*	6		
	基礎看護・地域看護学特別研究◆*	1	平成28年9月3日～9月10日	アメリカ
平成28	周産期医療論◆*	7	平成29年2月18日～2月24日	ニュージーランド
	小児看護学概論	6		
平成29	小児看護学概論	6	平成29年8月27日～9月1日	韓国

◆印は大学院の科目、*印は鹿児島大学「進取の精神」支援基金による支援（地域貢献型）



理学療法学専攻

理学療法学専攻では、これまでブラジルからの鹿児島県費留学生2名、鹿児島県海外技術研修生3名、国費留学生1名（学士・修士課程）を受け入れています。ブラジルの理学療法学専攻の大学を卒業されブラジルの理学療法士免許を取得しているため、学部講義の聴講に加え、大学病院や臨床実習協力施設のご協力を得ながら臨床場面も参加させていただきました。また、数名は4年生の学生とともに卒業研究の発表を行いました。学問・臨床・研究と多岐に渡り、日本の理学療法・医療・文化等について学びの機会を提供しています。

また、2014年より3年間、JICA（青年海外協力隊）の短期ボランティア派遣事業で、教員と2-3年生の学生（通算23名）が約1か月間、ペルー国立リハビリテーションセンターに派遣されました。当センターでは、入院もしくは通院している患者さんの障がい者スポーツ導入・普及の活動に携わりました。鹿児島で行っている障がい者スポーツのボランティアの経験を活かし、脳血管障害、脊髄損傷、切断、知的障がい、発達障がいを呈した方々の実際のリハビリテーションの場面にサポートスタッフとして参加し、日々の各疾患の理学療法プログラムを支援しました。また、ペルーの医療職向けの障がい者スポーツ講習会も実施し、障がい者スポーツの各競技の紹介・体験会を行い、交流を深めました。学んでいる理学療法の知識と外国語を使用した、異文化体験・交流の良い機会となりました。

理学療法専攻全体の取り組みとしては部局間協定を視野に入れ Walailak 大学（タイ共和国）への視察訪問を2017年度に行いました。教員それぞれに研究分野があり、国際学会への発表・参加の機会や、海外の大学・研究機関との共同研究も積極的に活発に行っています。理学療法全般の学生教育はもちろんのこと、大学院を含めた専門教育についても、積極的にグローバル化に取り組んでいます。



作業療法学専攻

作業療法学専攻は平成13年に台湾から、平成22年にベトナムから私費留学生（学士）の受け入れを行いました。

また平成25年には本専攻の池田由里子（助教）が青年社会活動コアリーダー育成プログラムに参加し、デンマークの高齢者が自助支援、リハビリテーションの推進、福祉テクノロジーの活用、NGOやボランティアによるインフォーマルサービス、等の多様な支援により、地域で質の高い生活を実現できている状況を学んでまいりました。

平成30年には田平隆行（教授）、吉満孝二（助教）がJICA（国際協力機構）の中小企業海外展開支援事業の案件化調査に参画し、マレーシアの介護サービスを利用している高齢者の実態調査、マレーシアの福祉機器の普及調査を行いました。また鹿児島大学と大学間学術交流協定を締結しているマレーシア・プトラ大学老人学研究所と本専攻間で相互訪問を行い（平成30年9月、10月）、今後の共同研究、マレーシアにおける介護人材の教育、介護通所施設の運営コーディネート等での協力の可能性を模索しています。

本専攻では今後更に国際交流を深め、リハビリテーションの観点からアジアの医療介護の担い手の育成、介護技術や福祉機器の紹介を積極的に行いたいと考えています。



2. 留学生の受け入れ実績

1) 私費外国人留学生（学部）

年度（西暦）	受入数（名）
平成11（1999）	統計なし
平成12（2000）	
平成13（2001）	2
平成14（2002） ～平成21（2009）	0
平成22（2010）	1
平成23（2011）	0
平成24（2012）	0
平成25（2013）	1
平成26（2014）	0
平成27（2015）	0
平成28（2016）	0
平成29（2017）	0
合計（名）	4

2) 国費・県費留学生および研修生等

年度（西暦）	受入数（名）			計（名）
	国費留学生	鹿児島県費留学生	鹿児島県海外技術研修生	
平成11（1999） ～平成13（2001）	0	0	0	0
平成14（2002）	0	0	1	1
平成15（2003）	0	0	0	0
平成16（2004）	0	0	1	1
平成17（2005）	0	0	0	0
平成18（2006）	0	0	0	0
平成19（2007）	0	0	1	1
平成20（2008）	0	0	0	0
平成21（2009）	0	0	0	0
平成22（2010）	1	1	0	2
平成23（2011）	0	2	0	2
平成24（2012） ～平成28（2016）	0	0	0	0
平成29（2017）	0	1	0	1
合計（名）	1	4	3	8

※留学生数は、いずれも各専攻の報告に基づく。

3. 大学間・部局間学術交流協定実績

1) 大学間協定

相手先機関名	群山看護大学（韓国）			
協定締結期間	2000年8月30日～2015年8月29日			
締結状況	終了			
受入数	教職員21(0)名，学生81(1)名			
派遣数（教職員）	教職員5(0)名，学生14(0)名			
年度（西暦）	受入数		派遣数	
	教職員	学生	教職員	学生
平成13（2001）	0	1	0	0
平成14（2002）	8	21	5	13
平成15（2003）	0	0	0	1
平成16（2004）	3	21	0	0
平成17（2005）	10	32	0	0
平成18（2006）	0	2	0	0
平成19（2007）	0	2	0	0
平成20（2008）	0	1	0	0
平成21（2009）	0	0	0	0
平成22（2010）	0	1	0	0
平成23（2011） ～平成27（2015）	0	0	0	0
合計（名）	21	81	5	14

※受入・派遣数の（ ）は2010年度以降の確定データで内数。

※2010年度（平成22年度）以降は事務局国際事業課とりまとめ「国際交流データ」に基づく。2009年度（平成21年度）以前は参考数。

2) 部局間協定

相手先機関名	中央大学校赤十字看護大学（韓国）			
協定締結期間	2012年11月15日～2022年11月14日			
締結状況	継続中			
受入数	教職員 8 名, 学生30名			
派遣数	教職員18名, 学生36名			
年度（西暦）	受入数		派遣数	
	教職員	学生	教職員	学生
平成24（2012）	2	0	6	4
平成25（2013）	1	3	4	6(2)
平成26（2014）	1	6	2	8(4)
平成27（2015）	2	6	2	6
平成28（2016）	1	6	2	6
平成29（2017）	1	9	2	6
合計（名）	8	30	18	36

※教職員の派遣数は延べ人数。学生の派遣数の（ ）は大学院生数で内数。

相手先機関名	イスファハン医科大学（イラン）
協定締結期間	2017年4月18日～2022年4月17日
締結状況	継続中
受入・派遣数	昨年度締結のため実績無し

4. 若手教員海外研修支援事業 支援対象者

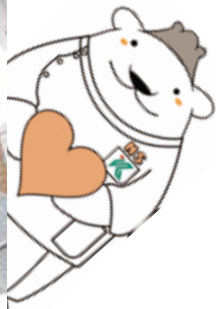
鹿児島大学では、平成21年度より次世代を担う若手教員の教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とし、海外の教育研究機関等における研修を支援しています。保健学科所属教員の採択実績は、以下の通りです。

平成21年度	
対象者氏名・職名	山口 さおり 助教
研修期間	2009年10月1日～2010年9月30日
研修先（機関）	Frances Payne Bolton School of Nursing, Case Western Reserve University
研修先（国、市）	アメリカ合衆国、クリーブランド市
研修題目	①国際的な視座に基づいた基礎看護学領域における教育・指導能力の向上 ②看護における患者のセルフマネジメント支援に関する研究遂行能力の獲得
平成22年度	
対象者氏名・職名	榊間 春利 准教授
研修期間	2010年4月9日～2011年3月22日
研修先（機関）	Medical University of South Carolina（サウスカロライナ医科大学）
研修先（国、市）	アメリカ合衆国、チャールストン市
研修題目	実験的脳梗塞モデルにおける運動療法による麻痺回復と脳内活性物質に関する研究

平成24年度	
対象者氏名・職名	山下 早苗 講師
研修期間	2012年9月1日～2013年3月4日
研修先（機関）	School of Nursing, University of California, San Francisco
研修先（国、市）	アメリカ合衆国、サンフランシスコ市
研修題目	①大学院における小児看護教育領域の国際的通用性・共通性のある教授能力の向上 ②博士論文の継続研究「小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの介入研究」に関する研究手法の獲得
平成25年度	
対象者氏名・職名	松田 史代 助教
研修期間	2013年4月1日～2014年3月31日
研修先（機関）	Medical University of South Carolina（サウスカロライナ医科大学）
研修先（国、市）	アメリカ合衆国、チャールストン市
研修題目	中枢神経障害後のよりよい機能回復を促進する治療法の検討

※職位は派遣当時





保健学科棟



支

Support

広告

ひと、未来、
いのちをつなぐ。



CIEL BLEU
KANOUYA を応援しています。

鹿児島県がん診療指定病院・へき地医療拠点病院・臨床研修病院

恒心会 おぐら病院

診療科目

整形外科・外科・リハビリテーション科・神経内科・内科・麻酔科・婦人科・形成外科・
胃腸内科・消化器外科・肛門外科・循環器内科・リウマチ科・小児外科・呼吸器内科・
血液内科・消化器内科・精神科

関連施設

- 介護老人保健施設 ヴィラかのや
- グループホーム イーストサイドおぐら
- 居宅介護支援事業所 ヴィラかのや
- 訪問看護ステーション ことぶき
- ヘルパーステーション ヴィラかのや
- 小規模多機能ホーム
サポートセンターおぐら24
- さかもと歯科クリニック
- 鹿屋市地域包括支援センター
寿8丁目サブセンター ヴィラかのや
- おぐら居宅介護支援事業所
- 事業所内保育施設 ミルキーランド



社会医療法人 恒心会

〒893-0023 鹿児島県鹿屋市笠之原町27番22号
TEL.0994-44-7171 FAX.0994-40-2300
www.koshinkai.or.jp

公益社団法人 いちよの樹
メンタルホスピタル鹿児島



メンタルホスピタル鹿児島

〒890-0023
鹿児島市永吉1丁目11-1



☎ **099-256-4567**

Fax: 099-258-0321

E-mail: mhkagoshima-ji-01@ichonoki.or.jp



開設 : 昭和5年9月
 開設者 : 公益社団法人 いちよの樹
 理事長 佐藤 大輔
 管理者 : 佐藤 大輔
 許可病床数 : 486床
 診療科目 : 精神科・心療内科・神経内科・内科

外来診療案内

	午前		午後				
受付時間	8:30~11:30		13:30~16:30				
診察時間	9:00~12:00		14:00~17:00				
面会時間	9:00~11:30		13:30~16:00				
	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	×	○	○	○	×	×

※ 第2・4土曜日のみ午前診療となります。
 ※ 日曜日、祝日は休診日です。

夜間診療に関するご案内

再診のみ事前予約制になります。主治医にご相談ください。

診察時間 17:30~20:30

	月	火	水	木	金	土	日
夜間診療	○	○	×	×	○	×	×

※ お仕事の時間により、昼間来院困難な方に限ります。

法人統括本部 ☎ **099-296-9411**

〒890-0023 鹿児島市永吉1丁目11-1 Fax: 099-251-2519
 Email: ichonoki@ichonoki.or.jp



メンタルホスピタル
鹿屋



〒893-0037
鹿屋市田崎町1043-1

☎ **0994-42-3155**

Fax: 0994-42-3156
 Email: mhkanoya-ji-01@ichonoki.or.jp



鹿児島看護
専門学校



〒890-0023
鹿児島市永吉1丁目18-2

☎ **099-257-9711**

Fax: 099-256-3797
 Email: kangosenmon@k-kango.ac.jp



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

今給黎総合病院



理事長 今給黎 尚典 / 院長 昇 卓夫

- 医師臨床研修病院（基幹型）
- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域医療支援病院
- 救急告示病院
- 県エイズ治療協力病院
- 地域周産期母子医療センター
- 県へき地医療拠点病院
- 洋上救急業務支援協力医療機関

〈診療科目〉 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科（肝臓、消化器、乳腺、内分泌、小児、肛門）、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科（池田耕自）、救急科、病理診断科【27科】

【受付時間】 平日 8:00～11:30 / 13:30～17:00

土曜 8:00～11:30

※日・祝日 休診 但し、急患は常時受け付けます。

TEL:(099)226-2211(代表) FAX:(099)222-7906

鹿児島市下竜尾町4番16号 (〒892-8502)



公益社団法人昭和会 SHOWAKAI CLINIC

昭和会クリニック



院長 大久保 幸一

〈外来診療〉 内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、歯科口腔外科【14科】

【受付時間】 平日： 8:00～11:30 / 13:30～17:00

土曜： 8:00～11:30

TEL:(099)226-2212(代表) FAX:(099)226-3366

鹿児島市下竜尾町2番6号 (〒892-0852)



特定医療法人 共助会

三州脇田丘病院

<http://www.sansyuwakita.jp/index.html>

〒890-0073 鹿児島市宇宿町7丁目26番1号

TEL/099-(264)-0667

FAX/099-(275)-0119

診療科目

精神科 ・ 心療内科 ・ 内科

診療時間

午前 9:00～12:00 (受付 8:30～11:00)

午後 13:30～17:00 (受付 13:30～16:00)

休診日

土曜日(午後)・日曜日・祝日

施設概要

総病床数 162床

病棟種別 精神科一般病棟 60床

精神科急性期治療病棟 42床

精神科療養病棟 60床

その他

- 精神科作業療法
- 精神科デイケア・デイナイトケア・ショートケア
- 精神科訪問看護
- こども発達外来 他

公益財団法人慈愛会

～ 医療の原点は慈愛にあり～



今村総合病院

院長 帆北 修一

鹿児島県鹿児島市鴨池新町 11-23

TEL: 099-251-2221 FAX: 099-250-6181

内科、血液内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科
救急科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、皮膚科
脳神経内科、眼科、泌尿器科(人工透析)、脳神経外科
外科、消化器外科、リハビリテーション科、精神科
ペインクリニック内科、麻酔科(麻酔科医: 東 美木子)
放射線科、耳鼻咽喉科、気管食道科・耳鼻咽喉科、小児科
整形外科、病理診断科、産科、婦人科、歯科口腔外科

いづろ今村病院

院長 黒野 明日嗣

鹿児島県鹿児島市堀江町 17-1

TEL: 099-226-2600 FAX: 099-225-5181

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科
糖尿病内科、外科、消化器外科、大腸・肛門外科、
泌尿器科、婦人科、眼科、放射線科、緩和ケア内科

- 通所・訪問リハビリテーション ウェルネスじあい
- 指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい

慈愛会グループ

〔 病 院 〕

谷 山 病 院
奄 美 病 院
徳 之 島 病 院

〔 診 療 所 〕

慈 愛 会 クリニッ ク
七 波 クリニッ ク
高 麗 町 クリニッ ク

〔 介 護 老 人 保 健 施 設 〕

愛 と 結 の 街
〔 教 育 機 関 〕
鹿 児 島 中 央 看 護 専 門 学 校

公益財団法人 慈愛会 谷山病院

理事長 今村 英仁

院長 福迫 剛

〒 891-0111

鹿児島市小原町8番1号

TEL 099-269-4111

FAX 099-269-4169

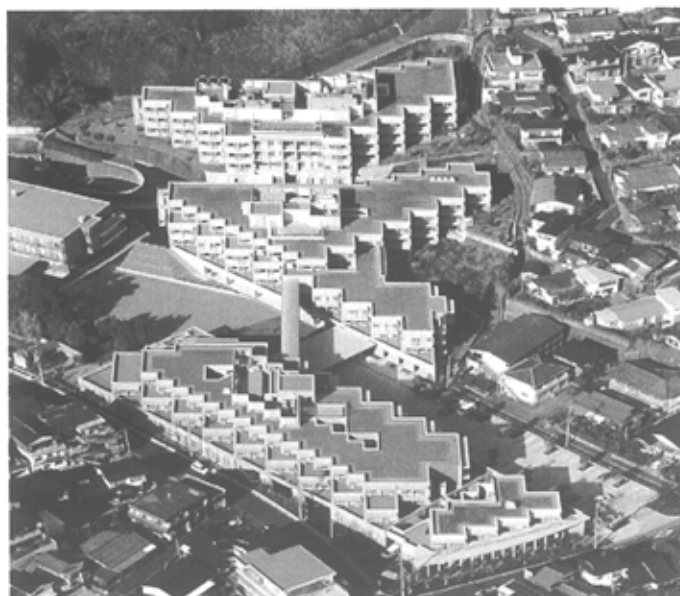
URL <http://www.jiaikai.or.jp/taniyama/>

交通 市電「笹貫電停」徒歩3分

JR指宿枕崎線「宇宿駅」徒歩10分

「笹貫バス停」徒歩5分

(鹿児島市営バス、鹿児島交通バス)



一 概 要 一

開 設	昭和28年10月
診療科目	精神科・内科・歯科
病床数	392床
看護単位数	8
病棟区分	精神科急性期治療病棟 (40床) 認知症治療病棟 (42床) 精神療養病棟 (120床) 精神一般病棟 (190床)
届出事項	精神病棟入院基本料 15:1、看護配置加算、看護補助加算 10:1 療養環境加算
指定医療機関等	【 精神科専門療法 】 精神科作業療法、精神科デイケア、精神科ナイトケア、精神科デイナイトケア、精神科ショートケア、精神科訪問看護、精神科電気痙攣療法 生活保護法による医療機関、身体障害者福祉法による医療機関、被爆者一般疾病医療機関、特定疾患治療研究事業委託医療機関、精神保健福祉法に基づく指定病院（指定病床10床）、鹿児島県精神科救急地域拠点病院
心神喪失者等医療観察法	鑑定入院医療機関、指定通院医療機関
新医師臨床研修制度	5つの管理型病院群の協力型病院
その他	電子カルテシステム導入、無料・低額診療事業、鹿児島県災害時支援中心病院、(公財)日本医療機能評価機構認定病院 (機能種別版評価項目 3rdG:ver1.0)
併設施設	就労支援センターステップ、地域活動支援センターひだまり、グループホームしらゆりの郷



社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
電話 0942-35-3322 ファクス 0942-34-3115

聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448-5
電話 0942-35-5522 ファクス 0942-34-3306

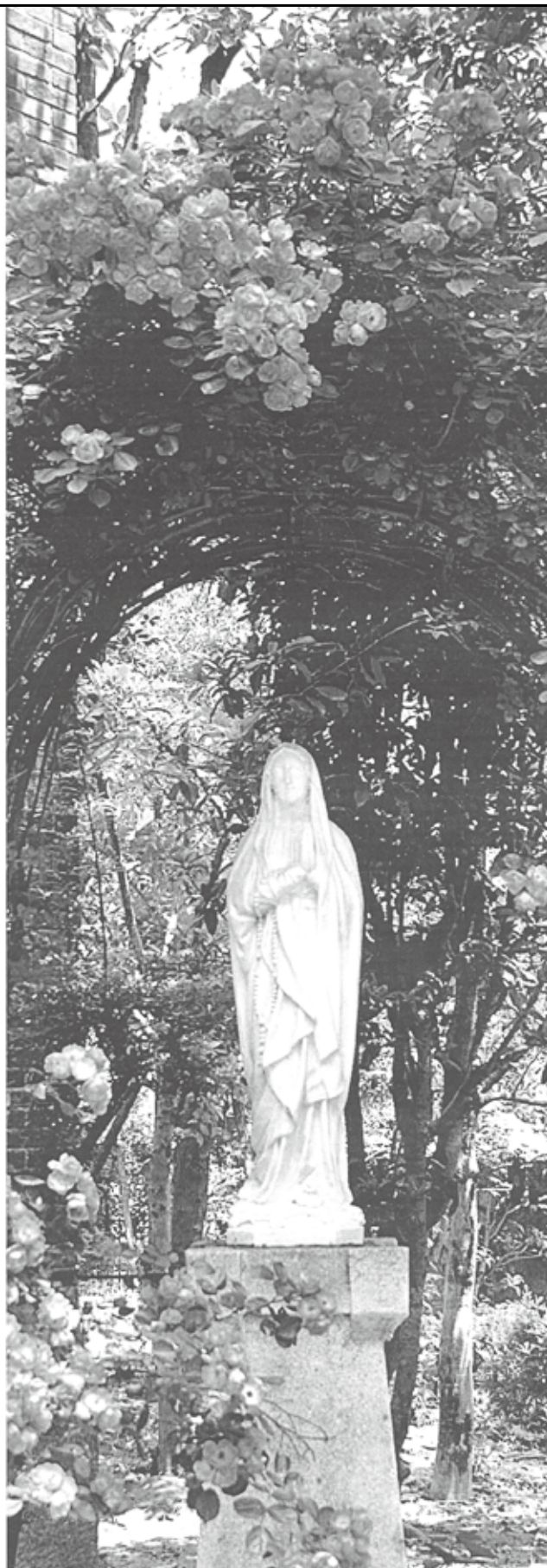
聖母の家・地域医療事業部

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町387-1
電話 0942-34-3573

聖マリア福岡健診センター

〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-32
電話 092-726-2111 ファクス 092-726-2113

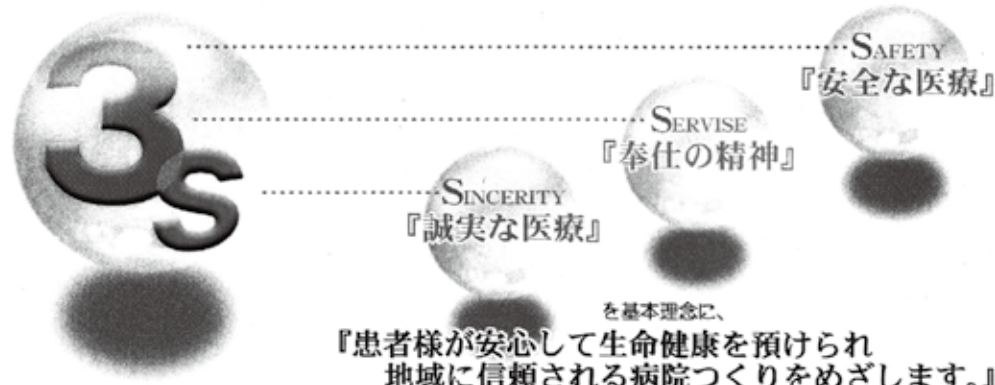
社会医療法人雪の聖母会は「カトリックの愛の精神」にもとづく医療、保健、介護を実践することにより、地域社会、国際社会の健康の増進と福祉の充実に貢献しています。



祝20周年 鹿児島大学医学部保健学科

基本理念.....

私たち医療法人敬親会豊島病院は、



<各種指定・施設基準>

- 脳卒中連携パス（急性期・回復期）
- 回復期リハビリテーション病棟
- 脳血管疾患等リハビリテーション（I）他
- 鹿児島大学保健学科臨床実習施設
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション

医療法人 敬親会



豊島病院



外科・消化器内科・放射線科・脳神経外科・リハビリテーション科

〒890-0056 鹿児島市下荒田三丁目27番1号

TEL 099-253-0317/FAX 099-252-3993



少し未来の、
やさしい医療を。



公益社団法人鹿児島共済会

南風病院

鹿児島市長田町14-3



内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、
腎臓内科、人工透析内科、神経内科、ペインクリニック内科、緩和ケア内科、
外科・消化器外科、脳神経外科、整形外科・小児整形外科、放射線科、麻酔科、
病理診断科／病床数 338 床

the 20th Anniversary

祝・鹿児島大学医学部保健学科設置 20 周年

鹿児島大学医療技術短期大学部 卒業生

東條 竜二 (リハビリテーション部 副部長 / 作業療法士)



鹿児島大学医学部保健学科設置 20 周年おめでとうございます。私は医療技術短期大学部 12 期生で、3 年生の時に保健学科ができ、優秀な 1 年生が入学してきたのを覚えています。これからも鹿児島大学医学部保健学科のご発展につきまして祈念申し上げます。

鹿児島大学医学部付属看護学校 卒業生

上村 うさえ (地域メディアカル連携推進シニアマネージャー /
看護師、社会福祉士)



私が亀ヶ原キャンパスで学ぶ頃から、看護学校を大学にすることは、教務の先生方をはじめ皆の夢でした。保健福祉学科が設置された時は、本当にうれしかったです。最近も同窓会があり思い出を語り合いましたが、私にとって、諸先輩方や後輩の皆さん、同窓生とのつながりは、一生の宝となっております。皆さまのご健康とご活躍を祈念いたします。

鹿児島大学医療技術短期大学部 卒業生

中村 環 (リハビリテーション部 / 作業療法士)



鹿児島大学医学部保健学科設置 20 周年、おめでとうございます。医療技術短期大学部から医学部 4 年課程となる事を聞いた時に、驚いた事を覚えています。素晴らしい先生方との出会いが今日の私の支えとなっています。保健学科の益々の発展を祈念いたします。

鹿児島大学医学部保健学科 卒業生

荒木 草太 (リハビリテーション部 / 理学療法士)



保健学科設置 20 周年おめでとうございます。私は保健学科 11 期に入学し素晴らしい経験と知識を学ばせて頂きました。おかげ様で今日まで臨床で働くことができました。末筆ながら、皆さまのご健勝と、鹿児島大学医学部保健学科の益々のご発展をお祈り申し上げます。



〈診療科目〉

内科 / 放射線科 / 肝臓内科 / 消化器内科 / 胃腸内科 / 糖尿病内科 / 老年内科 / 老年精神科 / リハビリテーション科 / 通所リハビリ (短時間型) / 訪問リハビリ / アクラス健康管理センター (各種健診、人間ドック) / アクラス画像診断センター

医療法人 博康会

アクラス中央病院

FOR OUR BRIGHT FUTURE

URL <http://acras-hp.com/> Facebookもチェック



〒 890-0031 鹿児島市武岡 1 丁目 121 番地 5 号 TEL 099-203-0100 / FAX 099-203-0101



医療法人 陽善会

坂之上病院

Youzenkai Sakanoue Hospital

■ 精神科 ■ 内科

理事長 院長／小城 卓郎

〒891-0151

鹿児島市光山2丁目31番76号

電話 099(261)6602

FAX 099(261)6691

E-mail:sakanoue@youzenkai.or.jp

URL <http://www.youzenkai.or.jp>



あなたらしい生き方へのサポート

患者さま、お一人お一人にあつた
きめ細やかな医療を実施します。

医療法人陽善会 理念

和顔愛語

和:すべての人に和やかに接する。

顔:いつも笑顔添えて行動する。

愛:ひとり一人に愛情を注ぎ支援する。

語:やさしい言葉でお互いを思いやる。



- ・「仕事と育児・介護を両立できる職場環境」の整備促進を実施しています。
- ・「子育て支援」の取り組みを積極的に取り入れ、次世代の職員を応援していきます。
- ・「ワーク・ライフ・バランス」を推進し、働きやすい職場環境づくりを目指しています。

豆富製造

就労継続支援
事業所 いっぽいっぽ
電話 099(210)8055

豆富店舗



〒891-0151 鹿児島市光山1丁目6番3号
(南日本自動車学校の裏通りにあります)

他の関連施設等

- 生活サポート「コパン」 利用定員6名～
指定相談支援事業所・地域活動支援センター「かけはし」
共同生活援助【グループホーム】
・「小城ホーム」(8名)、「オギホーム」(4名)、「光山ホーム」(9名)、「やまぼうしの家」(5名)
共同住居
・「いっきゅう荘」(9名)、「グリーンパレス1」(12名)



社会医療法人義順顕彰会

種子島医療センター

島民の皆様に愛され信頼される病院

私たちは思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で
豊かな地域医療の向上に努めます。

ひたむきに高度な医療をめざし
離島だからできる自分らしいワークスタイルを！
on the Island Workstyle

自然豊かな種子島で
一緒に働いてみませんか？

理事長 田上 寛容

鹿児島県西之表市西之表7463

病院長 高尾 尊身

TEL (0997) 22-0960
FAX 22-1313



HPへ
アクセス!



いちばん美しい時
Sweet Memories of Precious Moments



医療法人清泉会
伊集院病院
〒890-0806 鹿児島市池之上町9-27
TEL 099-248-0008(代表)
FAX 099-247-4885

産科・婦人科

会長 伊集院 康 繁
理事長 伊集院 吐 夢
院長 堀 川 宏 信

伊集院病院



検索

URL:<http://www.ijuin.or.jp>

E-mail:info@ijuin.or.jp

医療法人愛育会

愛育病院

レディースクリニックあいいく

産科・婦人科

婦人科(不妊治療・高度生殖医療)

鹿児島市小松原1丁目43番15号

鹿児島市小松原1丁目40番2号

TEL 099-268-0311

TEL 099-260-8878

FAX 099-269-2054

FAX 099-263-6621

www.aiikukago.com



米盛病院

Yonemori Hospital

整形外科/救急科/外科/脳神経外科/心臓血管外科
消化器外科/内科/循環器内科/呼吸器内科/消化器内科
心療内科/放射線科/産婦人科/リハビリテーション科
リウマチ科/小児科/麻酔科(請求書2)

〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁目7-1 / TEL.099-230-0100(代)

<https://www.yonemorihp.jp/>

《米盛病院24時間救急相談ダイヤル》# 7099



医療法人クオラ

「パートナー」でありたい。

よりよい暮らしを実現する

QOLER

ホームページ：<http://www.qoler.jp> お問い合わせメールアドレス：info@qoler.jp



社会福祉法人 向陽会
理事長 本重 博史
ホームページ <http://kouyou.or.jp>

***やまびこ医療福祉センター**
〒891-1206
鹿児島市皆与志町1779番地 TEL238-2755

***たらちね学園**
鹿児島市皆与志町1776番地3 TEL238-5391

***みなよし療護園**
鹿児島市皆与志町1778番地 TEL238-3871

***ひまわり病院**
鹿児島市上之園町20-28 TEL252-5166

医療法人三心会 **西田病院**

理事長・院長／ **西田 正彰**

所在地／ 〒891-0403 指宿市十二町 2105-1

TEL／ 0993 - 22 - 3352

FAX／ 0993 - 22 - 5154

E-Mail／ nishida-hp@po5.synapse.ne.jp

交通／ JR指宿枕崎線「指宿駅」下車 徒歩約5分

診療科目／ **精神科 ・ 心療内科 ・ 内科**

病床数／ **156床**

医療法人金澤会

<http://www.seijino.or.jp/>



青磁野リハビリテーション病院

内科・整形外科・リハビリテーション科・神経内科・循環器内科
代謝内科・消化器内科・呼吸器内科・健康診断・人間ドック



医療法人金澤会



青磁野リハビリテーション病院

介護老人保健施設「青翔苑」

グループホーム「あおぼの家」

サービス付き高齢者向け住宅「ファインテラスせいじの」

地域介護相談センター「けあまっぶ城西」

訪問看護ステーション「城西」

せいじのヘルパーステーション

せいじのデイケアセンター

青翔苑デイサービスセンター

デイサービスセンターファインテラス

熊本市西2地域包括支援センター

熊本地域リハビリテーション広域支援センター

〒860-8515 熊本市西区島崎2丁目22-15

TEL:096-354-1731

☎ 0120-111731



医療法人三愛会
SAN-AI KAI Medical Corporation

切れ目ない医療・介護サービスを目指して

三愛会は、急性期から回復期の医療、および施設・在宅介護までの福祉を総合的にサービスを提供するグループです。
最新の技術と設備、豊富な人材で皆様に安心、安全をお届けいたします。

三愛病院



- 整形外科疾患の入院・手術
- 整形疾患や脳血管疾患の回復期のリハビリ
- 内科疾患（肺炎等）の入院治療

〒890-0065 鹿児島市郡元3丁目14番7号

TEL.099-252-6622

整形外科、リウマチ科
リハビリテーション科
内科
循環器内科・心臓血管外科
ペインクリニック内科

専門外来
小児整形外科
ペインクリニック



三愛クリニック



TEL:099-812-6433
〒890-0065 鹿児島市郡元3丁目3-7

在宅医療大徳クリニック



TEL:099-254-8011
〒890-0073 鹿児島市宇宿1丁目41-14

介護事業所

訪問看護ステーション ポプラ
ヘルパーステーション 三愛
リハビリデイサービス 北ふ頭三愛
在宅ケア相談センター さんあい
介護相談センター 北ふ頭三愛
介護相談センター 宇宿・三愛
介護付き有料老人ホーム
ボルベール石燈籠
グループホーム 温もり・宇宿
社会福祉法人
特別介護老人ホーム 花水木

患者さんへの
いたわりの愛

職員相互の
思いやりの愛

地域社会
への奉仕愛

3つの愛<三愛精神>を心がけます。



日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver 1.1)

医療法人慈和会

大口病院

理事長 永田雅子 院長 工藤英二
〒895-2507 鹿児島県伊佐市大口大田 68

TEL 0995-22-0336

E-Mail okuchi_hosp@po5.synapse.ne.jp

URL <http://www.jiwakai.or.jp>

<概要> 設立 1954年(昭和29年)9月

診療科目 精神科・心療内科・内科

病床数 165床

施設概要 精神一般病棟 45床 地域移行機能強化病棟 60床 認知症治療病棟 60床

精神科デイケアパレット 重度認知症患者デイケア 訪問看護

精神科作業療法 【障害福祉サービス】居宅介護 重度訪問介護 行動支援

<関連施設>

○医療法人慈和会

自立訓練・宿泊型自立訓練・短期入所『サンライズ』

グループホーム『ドリーム』『わかば寮』『ローズマリー』

認知症対応型グループホーム『つどい』『のぞみ』『サンフラワー』

○社会福祉法人慈和会

就労移行支援・就労継続支援B型事業所『工房あけぼの』『ミモザ』

グループホーム『こぶし寮』『こすもす』『ゆずりは』

地域活動支援センター『あけぼの』



祝 保健学科設置20周年



霧島整形外科病院

KIRISHIMA ORTHOPEDICS

〒899-4341

霧島市国分野口東8-31

TEL:(0995)73-8840

FAX:(0995)73-8848

診療科目

Medical Services

整形外科 リハビリテーション科 内科

！理学療法士、作業療法士の基礎研究、臨床研究を応援します。

内科・神経内科・精神科・リハビリテーション科・歯科

鹿児島県指定 認知症疾患医療センター

医療法人 猪鹿倉会



パールランド病院

理事長 猪鹿倉 秀武

院長 猪鹿倉 忠彦

〒891-1205 鹿児島市犬迫町 2253 番地

TEL099-238-0301

医療法人 赤崎会 赤崎病院

理事長・院長 赤崎 安隆

副院長 赤崎 安宣



所在地 〒891-0604 指宿市開聞仙田2307

TEL 0993-32-2011

FAX 0993-32-3869

E-mail akasihosp@po3.synapse.ne.jp

URL <http://www5.synapse.ne.jp/akasaki/>

交通 JR指宿枕崎線『開聞駅』下車 約1.5km

設立 昭和40年10月1日

診療科目 精神科・内科

届出事項 精神科一般・療養病棟

精神科ショートケア(大)・デイケア(大)・デイナイトケア

精神科訪問看護・精神科作業療法

病床数 150床(指定病床数 10床)

医療法人誠心会グループ

ゆのもと記念病院

(居宅介護支援事業所)

鹿児島県日置市東市来町湯田3614 TEL 099-274-2521 FAX 099-274-3306 ホームページアドレス <http://www.seishin-kai.org>

<p>前原やすしクリニック 吹上町(099-296-6788) (デイケア・デイサービス・居宅介護支援事業所)</p>	<p>まえはらりハビリクリニック 伊集院町(099-272-0088) (デイケア)</p>	<p>百花クリニック 伊集院町(099-272-6601) (デイサービス)</p>
<p>リミ眼科 いちき串木野市(0996-33-6610)</p>	<p>めぐみクリニック 鹿児島市(099-225-7787)</p>	<p>日置市診療所 日吉町(099-292-2146)</p>
<p>介護老人保健施設 シルバーセンター光の里 東市来町(099-274-0550) (デイケア)</p>	<p>グループホーム(東市来・伊集院・日吉・串木野・郡山・松元・市来・百美・養母の里・貴恵・静和) 小規模多機能ホーム(百佑・養母の里・実恩・誠花)</p>	
<p>サービス付き高齢者向け住宅 (家賃減免制度付) 希の里 吹上町(099-245-1566)</p>	<p>介護付有料老人ホーム (家賃減免制度付) 光里苑 いちき串木野市(0996-29-5575)</p>	<p>有料老人ホーム 養母の里 東市来町(099-274-7337)</p>
<p>ケアハウス 光の海 東市来町(099-246-6111)</p>	<p>特別養護老人ホーム 青松園 日吉町(099-292-2129)</p>	<p>サービス付き高齢者向け住宅 (家賃減免制度付) 百花 伊集院町(099-272-6625)</p>
<p>介護付有料老人ホーム ピクトリア街 伊集院町(099-272-0055)</p>	<p>養護老人ホーム 美里 官養護老人ホーム 光の岬 吹上町(099-296-3033)</p>	<p>訪問看護ステーション ゆの里(099-246-6333) 訪問介護ステーション ふる里(099-296-2455)</p>



公益社団法人 鹿児島県労働基準協会
ヘルスサポートセンター鹿児島

当センターは昭和52年の発足以来、協会会員の皆さまの法定健診や作業環境測定、産業保健といった労働衛生的部分でのお手伝いを主業務とさせていただいておりますが、近年は企業様のみに限らず、県内にお住いの方々の健康診断のお手伝いをさせていただくことも多くなりました。また、受診される方の多くを占める働く人々を取り巻く状況は身体の疾病のみならず、メンタルヘルスの問題も大きな割合を占めていることから、心身両面のトータルヘルスを支援していくという意味合いを込めて、平成26年4月1日、新館新築を機に「鹿児島労働衛生センター」から「ヘルスサポートセンター鹿児島」と改名いたしました。

ヘルスサポートセンター鹿児島は、皆様方の健康作りを支援するとともに、健康な心身と快適な職場づくりのお手伝いを通して、心豊かで、確かな生き甲斐のある社会を目指して努力してまいります。



〒891-0115 鹿児島市東開町4-96

公益社団法人 鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島

TEL:099-267-6292 FAX:099-267-6594

～救急医療から在宅医療まで～
皆様の健康を守ります



医療法人徳洲会

鹿児島徳洲会病院

Kagoshima Tokushukai Hospital



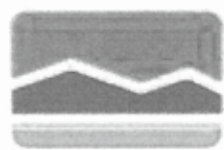
〒890-0056 鹿児島市下荒田3丁目8番1号 ☎ 099-250-1110

救急医療

リハビリ
テーション

検診
人間ドック

在宅医療
介護



特定医療法人
菊野会

医療法人 菊野会

整形外科・神経内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科
内科・リハビリテーション科・リウマチ科・糖尿病相談

心身障害児通園事業施設

菊野病院

〒897-0215 南九州市川辺町平山3815

TEL 0993-56-1135 FAX 0993-56-5654

介護老人保健施設

かわなべ寿光苑

〒897-0221 南九州市田部田4848番地4 TEL 0993-56-4311

川辺訪問看護ステーション 小菊

〒897-0215 南九州市平山3815 TEL 0993-56-4038

療育センター あおぞら

〒897-0221 南九州市田部田4862番地3 TEL 0993-56-1712

居宅介護支援事業所

〒897-0221 南九州市田部田4848番地4 TEL 0993-56-3959

訪問介護事業所

〒897-0221 南九州市田部田4862番地3 TEL 0993-78-3790

理事長 菊野 竜一郎



医療法人 三州会 URL <http://ookatsu.jp/>

みんなが笑顔でいられる環境づくりとケアを!!

脳卒中・パーキンソン病などの脳神経疾患とリハビリテーションを専門分野として、医療技術の質の向上と設備の充実に力を注ぎ、職員一丸となって、患者様のために全力を尽くしております。



大勝病院 < 脳神経内科 リハビリテーション科 >

◆大勝病院訪問リハビリテーション

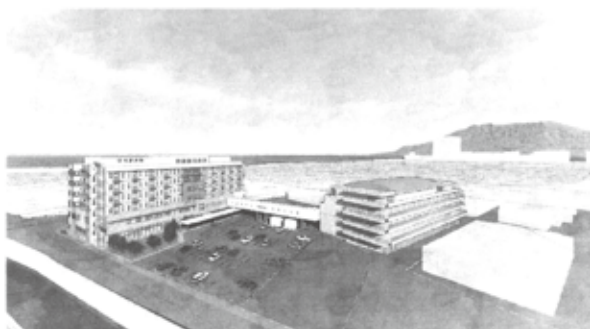
◆大勝病院通所リハビリテーション

〒890-0067 鹿児島市真砂本町3番95号

TEL 099-253-1122 FAX 099-254-9643

- ◆ 日本神経学会専門医制度教育施設認定病院 ◆
- ◆ 日本脳卒中学界認定研修教育病院 ◆
- ◆ 厚生労働省臨床研修指定病院 ◆
- ◆ 国土交通省短期入院協力病院 ◆
- ◆ 高次脳機能障害者支援協力病院 ◆
- ◆ 鹿児島県圏域地域リハビリテーション広域支援センター ◆

大勝病院が生まれ変わります



< 他関連施設 >

高見馬場リハビリテーション病院
デイサービス真砂本町
ヘルパーステーション真砂本町
介護付有料老人ホームふれあいの里山田

介護老人保健施設 ひまわり
介護相談センター真砂本町
グループホームせせらぎ

ひまわり通所リハビリテーション
訪問看護ステーション真砂本町
小規模多機能ホームせせらぎ



医療法人一誠会 都城新生病院

精神科／心療内科／児童精神科

医療スタッフ、運営に携わるスタッフ全員で患者様・家族の皆様をサポートし、より良い医療の提供を目指しています。

外来診療時間：午前 9:00～12:00 午後 13:30～17:00

(初めての方は、午前は11:00まで、午後は16:00までに御越し下さい)

※ 土曜日の午後及び、日曜祝祭日は休診となります

〒 885-0093 宮崎県都城市志比田町3782番地

TEL (0986) 22 - 0280

詳しくは、パソコン又は携帯電話で

都城新生病院

検索



NOBORI
HOSPITAL

「あなたの笑顔がみたい」

医療法人光智会 産科 婦人科

のぼり病院

一般診療・助産師による妊婦健診・おっぱいに関する相談

更年期外来・思春期外来・プラセンタ療法・

子宮がん検診・プライダルチェック



TEL:099-256-1313

鹿児島市 荒田1-13-13 (市電・二中通り電停より徒歩3分)

のぼり病院

検索



詳しくは
ホームページへ





“つながりがやすらぎ”
こだま病院
KODAMA HOSPITAL

診療科目
精神科
心療内科
内科

理事長・院長 児玉 圭
〒897-0221
鹿児島県南九州市川辺町田部田3525番地
TEL:0993-56-4111 FAX:0993-56-4155
URL:<http://www.kodama-hospital.com>
E-mail:main@kodama-hospital.com

関連施設

障害者グループホーム『ピア・アクティヴ』
『ウイング1号館』
高齢者グループホーム『りんどう』
『花心家』



～つながりがやすらぎ～
社会福祉法人 **こだま会**

〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田3535番地
URL:<http://www.kodamakai.jp> E-mail:main@kodamakai.jp

にじの途（相談支援事業所） ゆめの樹（就労継続支援B型事業所）
TEL:0993-56-1900 TEL:0993-56-3199

KUMAMOTO
KINOH
HOSPITAL

熊本機能病院

KUMAMOTO KINOH HOSPITAL

会長 米満 弘之
理事長 米満 弘一郎
院長 中島 英親



24時間救急センター

(財)日本医療機能評価機構認定医療機関

〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8番1号 TEL.096・345・8111 FAX.096・345・8188

併設施設

- 診療科▶
- 整形外科
 - 救急科
 - 脳神経内科
 - 内科
 - 放射線科

- 形成外科
- 外科
- リハビリテーション科
- 循環器内科
- 皮膚科

- 小児形成外科
- リウマチ科
- 脳神経外科
- 血管外科
- 麻酔科 (矢野敏之)

- ◇ 介護老人保健施設 清雅苑
- ◇ 指定運動療法施設 熊本健康・体力づくりセンター
- ◇ 熊本加齢医学研究所
- ◇ 熊本市北3地域包括支援センター
- ◇ 熊本圏域地域リハビリテーション広域支援センター
- ◇ なないろ森の保育園
- ◇ 地域ケア支援センター
- ◇ 地域交流館



日本医療機能評価機構認定
特定医療法人財団 博愛会

博愛会病院

〒810-0034 福岡県福岡市中央区笹丘1-28-25



TEL 092-741-2626

<http://www.hakuaikai.or.jp/hospital/>



2018
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500



医療法人 十善会

けんなん病院

内科・心療内科・精神科・整形外科・リハビリテーション科
放射線科・神経内科・泌尿器科・呼吸器内科・循環器内科
歯科・消化器内科 434床 (うち精神科病床364床)

認知症などの高齢者医療と精神科医療の専門病院として
医療、介護、福祉のトータルケアを提供しています

宮崎県認知症医療疾患センター

認知症疾患医療センターの指定を受け、事業運営を開始いたしました。
相談窓口 平日 午前8:00～午後5:00 電話番号 0987-72-3565 (直通)

質の高い医療・介護サービスの提供

患者さまに満足頂けるケアの創造と提供と自らのスキルの向上を図り、医療の質の向上、患者様・ご家族の満足度の向上を目指しています。



〒888-0001 宮崎県串間市大字西方3728番地

TEL : 0987-72-0224

<http://www.kennan-hospital.or.jp/>

けんなん病院をもっと知りたい方は、サイトにアクセス!



いつまでも健やかに・・・

私たちの願いです。

医療法人 玉昌会

<http://www.gyokushoukai.com>



高田病院 鹿児島県鹿児島市堀江町5-1 TEL099-226-4325 FAX099-222-8386

内科(人工透析)・消化器科・泌尿器科・リハビリテーション科・循環器科・皮膚科

【鹿児島地区】

- 高田病院
- 鯨坂クリニック(巡回型健康診断事業所)
- ケアレジデンス ほりえ(有料老人ホーム)
- ケアレジデンス 星の街(小規模多機能ホーム)
- ケアレジデンス 風の街(デイサービス)
- 居宅介護支援事業所 甲東
- ヘルパーステーション 甲東
- 訪問看護ステーション まむ鹿児島



2020年 高田病院は、複合施設「キラメキテラス」に新築移転します。



【高田病院】
看護職員数・・・98名
理学療法士・・・32名
作業療法士・・・25名
言語聴覚士・・・9名
2019年1月31日 現在

加治木温泉病院 鹿児島県始良市加治木町木田4714 TEL0995-62-0001 FAX0995-62-3778

内科・消化器内科・腎臓内科(人工透析)・肝臓内科・循環器内科・脳神経内科・泌尿器科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科・リハビリテーション科・外科・消化器外科・整形外科・皮膚科・歯科

【始良地区】

- 加治木温泉病院(293床) 介護医療院(57床)
- ケアレジデンス おはな(有料老人ホーム)
- ケアレジデンス おはな 別館(有料老人ホーム)
- ケアレジデンス お福(小規模多機能ホーム)
- ケアレジデンス とまり木(小規模多機能ホーム)
- ケアレジデンス 木もれ日(グループホーム)
- いこいの里 花いちもんめ(グループホーム)
- しあわせ通り らぶ(デイサービス)
- 居宅介護支援事業 めく杜
- 訪問看護ステーション まむ



【加治木温泉病院】
看護職員数・・・164名
理学療法士・・・35名
作業療法士・・・31名
言語聴覚士・・・16名
義肢装具士・・・2名
2019年1月31日 現在



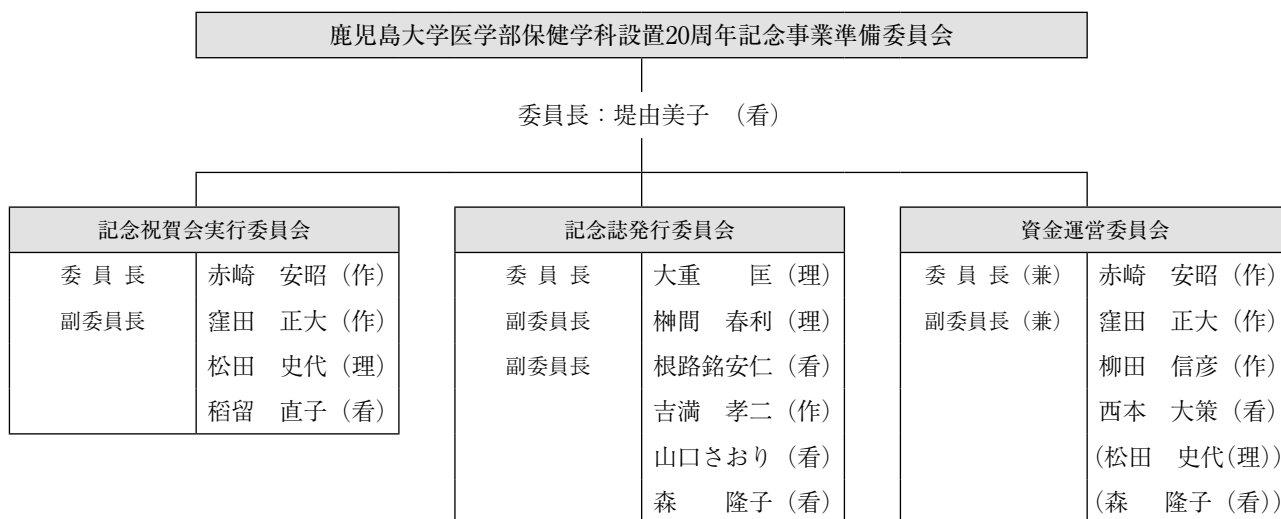


保健学科設置20周年記念事業委員

2017年10月に第1回保健学科設置20周年記念事業準備委員会が開催され、準備委員会会議開催は20回になりました。その会議とは別に保健学科設置20周年記念誌発行委員会会議を9回開催しました。多忙な日常勤務をこなしながら、限られた時間の中で、委員全員が献身的に編集作業に取り組み、漸く完成の運びとなりました。保健学科の歴史を紐解くこの作業をとおして、「多くの方々に支えられて保健学科の20年が刻まれた」ことを再確認でき、感謝の念に堪えません。そして、未来に向けて新たな力が湧いてきました。

本誌の編集にあたり、ご多忙の中ご執筆を快諾して下さった学内外の先輩諸氏、原稿・資料を提供してくれた教職員、保健学科の全既卒生・全在校生諸氏、広告に快く支出して頂きました諸氏、記念誌制作に辛抱強くサポートして下さった斯文堂に、委員一同心より御礼申し上げます。

(大重 匡 記)



鹿兒島大学医学部保健学科設置20周年記念事業準備委員会の組織図



学生の踊り連とともに卒業生有志・教職員も参加ー 20周年を記念してー

鹿児島大学医学部保健学科設置20周年記念誌

発行日 2019年3月10日

編集 鹿児島大学医学部保健学科設置20周年記念事業準備委員会

発行 鹿児島大学医学部保健学科

鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1

電話 099-275-5111 (代表)

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島県鹿児島市南栄2-12-6

電話 099-268-8211



KAGOSHIMA UNIVERSITY
鹿児島大学